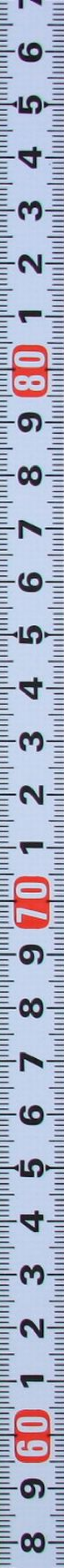




江戸名所圖會

七



戸名所圖會卷之三

天璣之部目錄

永田馬場日吉山王神社
 第六天洞
 寅藥師如來
 富士見坂 玉川の淵
 溜池 白山洞
 霞山稻荷洞
 廣尾毘沙門堂
 土筆系の野
 三石坂
 無雲院 観音

成田下總守長泰舊地
 貝塚
 平川天満宮
 千手觀世音 泰川橋
 檜田
 靈南坂 御見坂
 一本松
 新日觀音
 廣尾系
 子安藥師如來
 氷川明神社
 氷川明神社 雷電宮
 白倉野寺
 花城天満宮
 英一蝶墓

成田下總守長泰舊地
 貝塚
 平川天満宮
 千手觀世音 泰川橋
 檜田
 靈南坂 御見坂
 一本松
 新日觀音
 廣尾系
 子安藥師如來
 氷川明神社
 氷川明神社 雷電宮
 白倉野寺
 花城天満宮
 英一蝶墓

天璣之部

武藏國八潮郡子氏

道玄坂
 土著塚
 北澤淡島明神社
 若宮八幡宮
 常盤橋
 吉良氏古城址
 弦巻郷
 氷川明神社
 吉祥院
 小見村除蝮蛇神社
 江戸遠江守喬儀地
 稲毛重成墓
 長者穴
 同物見松
 足毛塚
 沈尻村祖師堂
 田中毎女大祠
 豪徳禪寺
 宮坂八幡宮
 世田谷八幡宮
 常刀先生義賢之墓
 観音寺
 氷川明神社
 駒場野
 子明神社
 圓禪寺
 龍華山永安寺
 慶元寺
 禱岳寺
 泉龍寺
 升形山
 雲う坂
 去我苦塚
 天満宮
 馬牽沢喬儀
 常光寺
 實相院
 石井神社
 天神の森
 氷川明神社
 廣福寺
 版室山
 藥師堂

大師穴
 稻毛藥師堂
 橋明神社
 登戸宿
 小杉津殿地
 田谷
 沙千親世音
 内藤新宿
 一行院
 遊女の松殿内
 子談谷八幡宮
 代太橋
 布多天神社
 六不捨現社
 山王権現社
 牛頭天王社
 忍原
 大宗寺
 古佛孫院銅像
 仙壽院
 高井戸
 虎柏神社
 妙樂寺七面山
 十三塚
 同神所
 最明寺
 羽黒権現社
 鬼子母神堂
 篠寺
 天龍寺
 吾妻堤
 龍岩寺
 代々木野八幡宮
 鬼子母神堂
 徳園寺
 杉山明神社
 舟田
 大戸明神社
 秀源寺
 丸子渡江
 戒行寺
 田谷大木戸
 較河橋
 子談谷太神宮
 十駄谷觀音堂
 鞍懸松
 布多の里
 柏江入道田儀地

里の橋前

深大寺 深大寺大師堂

新波田潭心城址

同伊豆田路

安養寺 安養寺

若羽寺

石塚社

天不泰平社 天不泰平社

田面社 田面社

安養寺

若羽寺

代小川

塔古樹

青渭神社

青渭堤

深大寺城址

富士見塚

傾城う松

逃水

府中驛舎

六所明神社

武花園造見武日命殿鼓田跡

津保宮

陣街道

陣街道

陣街道

陣街道

四分寺

小分寺村炭竈

武蔵野

八幡宮

六所明神社

武蔵野

武蔵野

武蔵野

武蔵野

武蔵野

武蔵野

武蔵野

高安禅寺

谷保天神社

菱原道成好古齋鼓地

日野津

訪社

平惟盛之墓

百系八幡宮

小山田実旧址

番切坂

小澤小太郎居宅旧址

穴沢天神社

青沼明神社

弥勒寺

普濟禅寺

多摩川

本切澤

松蓮禅寺

一宮大明神社

延命寺

赤坂巻

小沢城址

壽福禅寺

弥勒寺

八幡宮

同頼館

番道谷

城山

平臺

威光寺

向の岡

都筑の忌

國安明神社

明覚寺

天守巻

横溝八郎墳墓

安樂寺

萬願寺

高幡金剛不動堂

別後明神

二王塚

清水之場

安樂寺

展翼峰

法間山

吐玉泉

法泉寺

法師

日吉山王神社

永田馬場あり江戸第一の大社なり別當ハ

天台宗僧正の観理院と号し神主ハ樹下氏なり其餘

社僧抄ハ社家巫女等数多あり御祭禮ハ隔年六月十五日

なりその行粧を初春茅場町御旅所の糸下ニ詳なり

本社祭神大宮比叡の二宮小比叡大明神を勧請せし國常立尊

二宮氣比宮を勧請せし仲哀天皇御神三宮客入宮を勧請

古鰐口昔ハ本社ニ御左の御今ハ右の御稻荷祠ニ御あり徑一尺あり

敬白奉納山王権現御寶前鰐口大檀那直景

願主南仙房

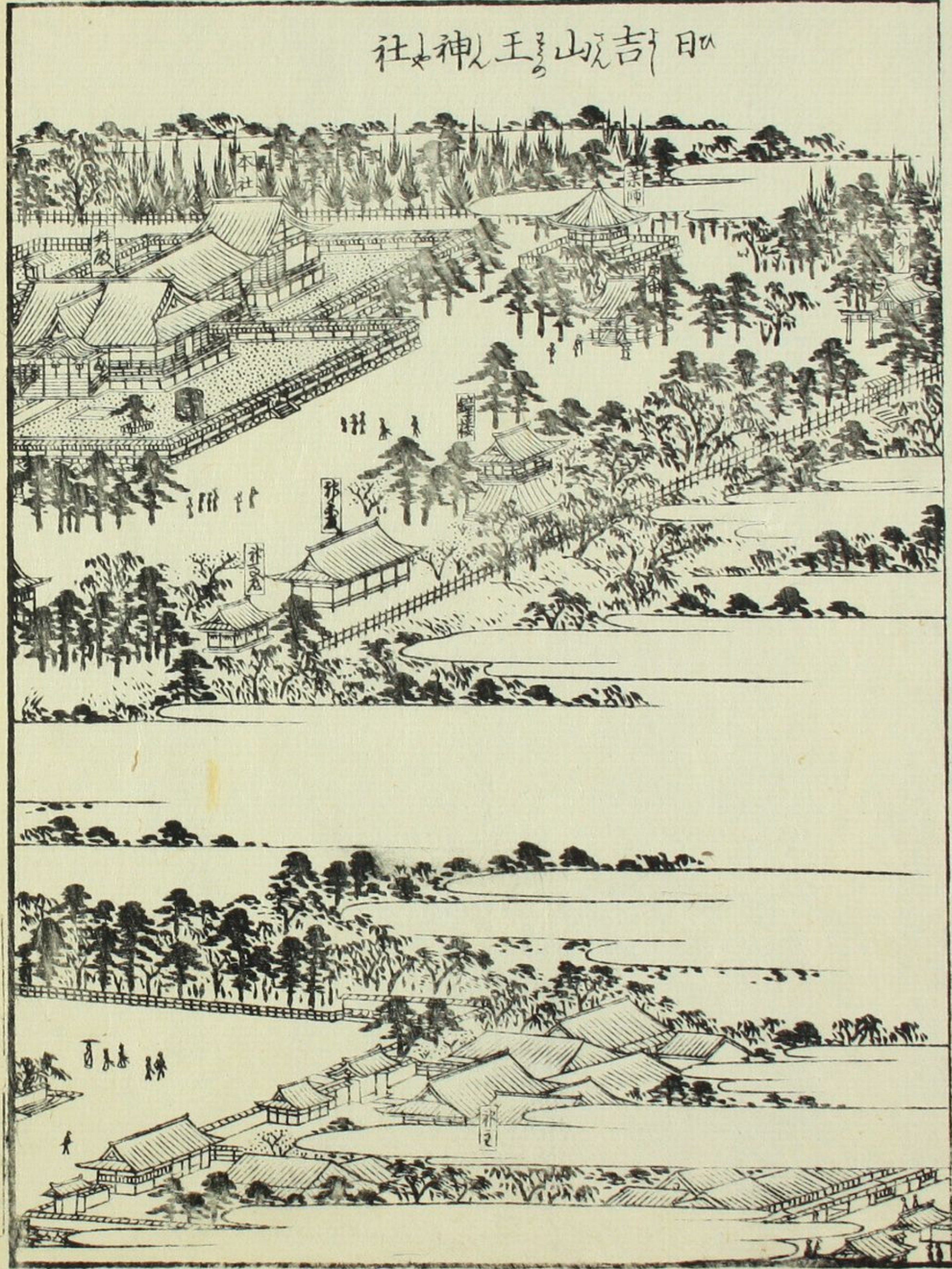
武州豊島郡江戸館天正十四年卯十月廿五日

當社ハ淳和天皇の天長七年庚戌慈覺大師勅によりて武蔵

國入間郡仙波小あり所の星野山無量寺を再興ありて圓頓の



取吉山王神社



教法を弘めりし頃佛法王法護持の爲且ハ和光の利益と
 普く萬民に蒙りしむと欲しく我立松の日吉山王二十一社上
 中下の内より一社宛を撰く三所の靈神を彼地は勸請し
 かゝる星霜を経ると然も文明年中太田道灌此山王三所の
 御神を星野山より江戸に遷し
其頃の社地ハ今の梅林坂の
 或人云太田家藩は文明十年六月十五日
 於江戸城内建山王権現堂荒神祠菅丞相祠云々菅祠ハ今の平川天神の御
 伊國初の項迄ハ兩社と云ハ御城内ありて菅祠ハ平川口法門の外へ天正より
 遷され山王御城の鎮守と云ハ山王御城ハ今ハ山王御城の跡に在り
 この江戸を以て永く御當家御居城の地は定させられ頃
 紅葉山より新に社を御造営ありて御産神はありて
其の年歴詳ハ江戸名所記ハ後土御門院
 延徳年中御城の旨ありて道灌結縁の三所の
 御社を城西より遷し再興修造ありて云云此説未考へど寛永永明曆の江
 國ありて新岡沾涼山王宮の旧地ハ井伊掃部侯の北今の三宅備後侯の舊宅の
 地なり新岡沾涼山王宮の旧地ハ三宅備後守殿宅の裏の坂小祠あり此所
 山王の旧地なりと云ハ實は山王宮の又事跡合考云云伊井掃部頭殿の居館の南
 邊九未申の方の小坂の際中二間あり長十間あり杉の少き繁るる坂の内ハ
 稻荷の小祠ある餘地是山王一度半蔵御門外より遷され古跡の由借と云

又兼應三年甲午回祿の後溜池の築山勝地たるにあり
 竟小 台余の門今この地へ遷座なり宮社御造営あり
名勝志云く明曆丁酉の歲回祿は
 兼應三年當社を貝塚より今の地へ
 遷しありとあれ兼應ハ明曆より先の年号ありハ
 此説證とせしむる或人云元治元年今の地より遷り云々
 畫棟朱簷ハ地は映せり
名勝志云此地ハ元治平
 主殿及兼宅の地ありと云 あり已降
 和光同塵の利益浅く内中圓宗の教法を守り外あり
 鎮國利氏の徳を施しし殊更御當家の御産土神とて
 御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈禱永世も忘
 らるるなり
 成田下總守長泰旧地 永田馬場山王の隣丹羽家の地なりと
 して古へ武州忍の城主なり
 第六天祠 同所兼松家の地あり太田左金吾道灌の勸請あり
 としつゝ

平川天満宮 御城西麴町三丁目の南平川町より別當、天台宗より長松山龍眼寺と号し東叡山に屬す

傳云當社ハ文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入間郡

川越三芳野の天神と江戸城に勧請し數株の梅を栽ると云

今の御城内平川の梅林と唱ふる其梅林の田跡なり新安子簡ハ文明中畚

道瀆築くれとて江戸城平河口の中菅神の社上棟の文ハ文明十年戊戌六月

廿五日と其後天正十八年 御入國の頃彼宮を平河口の外へ移さ

有之云 支山翁云江戸所入府の節平川より見塚へ 故ハ平河の天神と唱へる

此故ハ今の麴町の地を至りて旧名を 又其後慶長に至ると御水丸御造宮

改めを備社迎の町を平河町と云 夫より今の麴町の方へ續き昔の甲州街道あり

の頃竟ハ今の麴町に地を改めさせし 其外平河町の内ハ藥師堂有

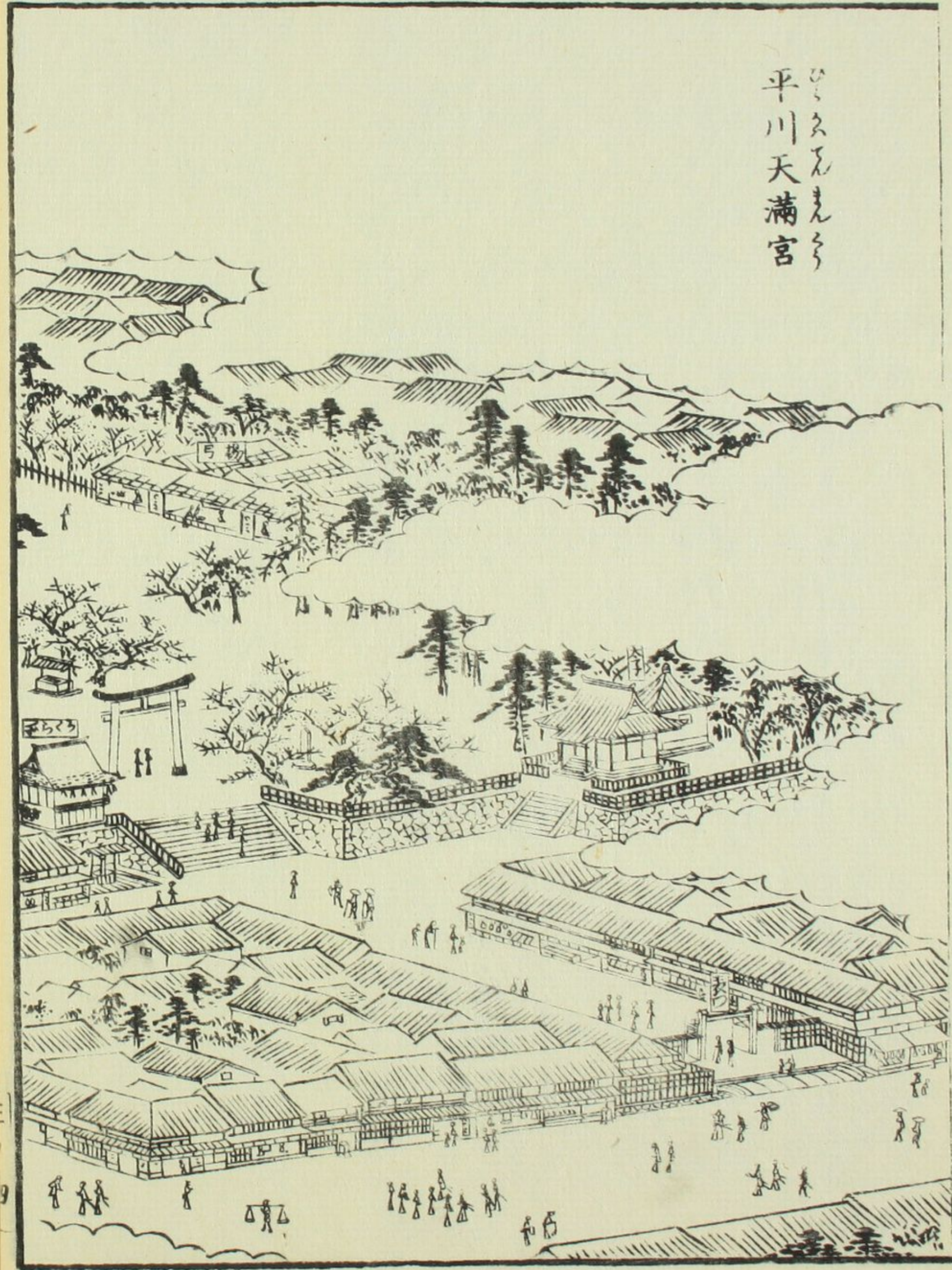
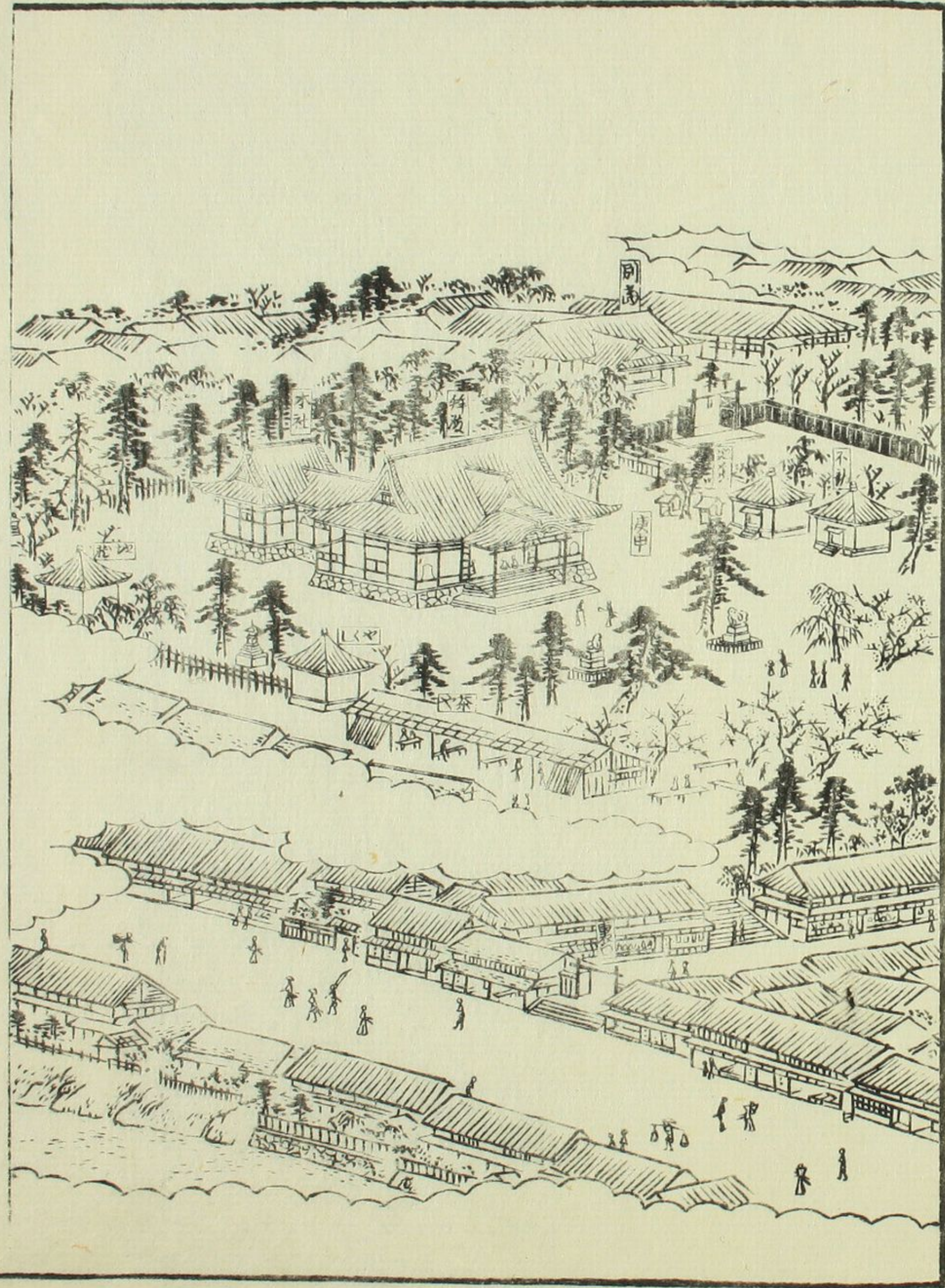
寛政七年修宮ありて神殿清新なりと毎年二月廿五日菅神

自画の神影をわけ諸人不拜とむ

梅花無盡蔵云 余比寓武之江戸城々有丞相祠 堂裁柳挿松不知晨寔也百株文明丙午仲春二十 有五適值廿之晨寔也百株文明丙午仲春二十 丞相之燈上夫徑山之神也所少也謹賦小詩題 亦不取之也故未及茲云 一萬此地亦拙君 北野春也西府有 松亦應云梅亦云 夢中傳法定焉有

同書 云遊江戸城管丞相祠 獨居南面牡丹紅 若今丞相細分州 梅亦應編王者中 横斜月瘦一枝影 吟香白髮老浮屠

同書 云花下晚步詩序 者太田二十石灌公靜勝 身居關左而名一搏海内者 見畫像可謂靈夢也 是也公來獻坐所親筆之 畫之梅美田歲時鼓 人卒然來獻坐所親筆之 畫之梅美田歲時鼓 建於江戶城之北畔寄數十頃之海也前年 焉裁培梅數百株類超於錦城之梅也前年 丙午洛社之著英也同秋之孟二六公逝矣余 愧社之著英也同秋之孟二六公逝矣余



造文祭之今茲丁未正月下流率數輩之緇侶非
細管庸追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感祭無
措余欲鼓鼓掉版岐陽未能果漫賦四十言云

移步一節瘦 餘寒鶯度稀 去年丞相席 今日故人非
老眼看花落 舉頭疑雪飛 岐陽千里外 山可笑遲歸

貝塚 都々 麹町の辺に總名なり 此地ハ昔より甲州街道ハ

一里塚と土人甲斐塚と呼ぶなり

或説ハ貝塚法印といふ墓ありともいひくさくさなり

此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり 南向亭云青松寺ハ青松甲斐といふ

人の草創なり 當時玉虫氏の邸あり 上ハ古碑あり 在 同ハ

平氏女とあり 今ハ楠と祀ると云く 麹町四丁目の南ハ

玉虫氏の廟あり 坂と貝塚といふ一説中ハ此地の下ハ甲斐庄代なる宅あり

村高山 衾岸院 麹町ハ丁目の右側あり 浄土宗なり 洛の知恩

院ハ属せり 本尊阿彌陀如来ハ惠心僧都の作 閑山ハ妙譽真入

上人と号し 閑基ハ安藤對馬守重信なり 昔ハ長福寺と号す

三州あり 一とを當寺ハ頼朝の念持佛と稱する 聖觀音ハ

靈像と安置す 龕前ハ安置するの觀音の像ハ 七月十日ハ千日泰と

唱々 泰指頗る多し

寅 藥師如来 同北の横小路坂より上道の左側常仙寺といふ

禪刹ハ安置せり 此藥師佛の像ハ行基大士の作なり 相傳ハ

此靈像永祿の頃迄ハ參州鳳來寺の山麓ニ立せしむ 往古

當寺閑山祥若存吉禪師參州新城ニあり 一とを凡俗と

一頃 俗姓ハ安田 此靈像虎ニ化現し 一ハ狼の難を遁れしむ

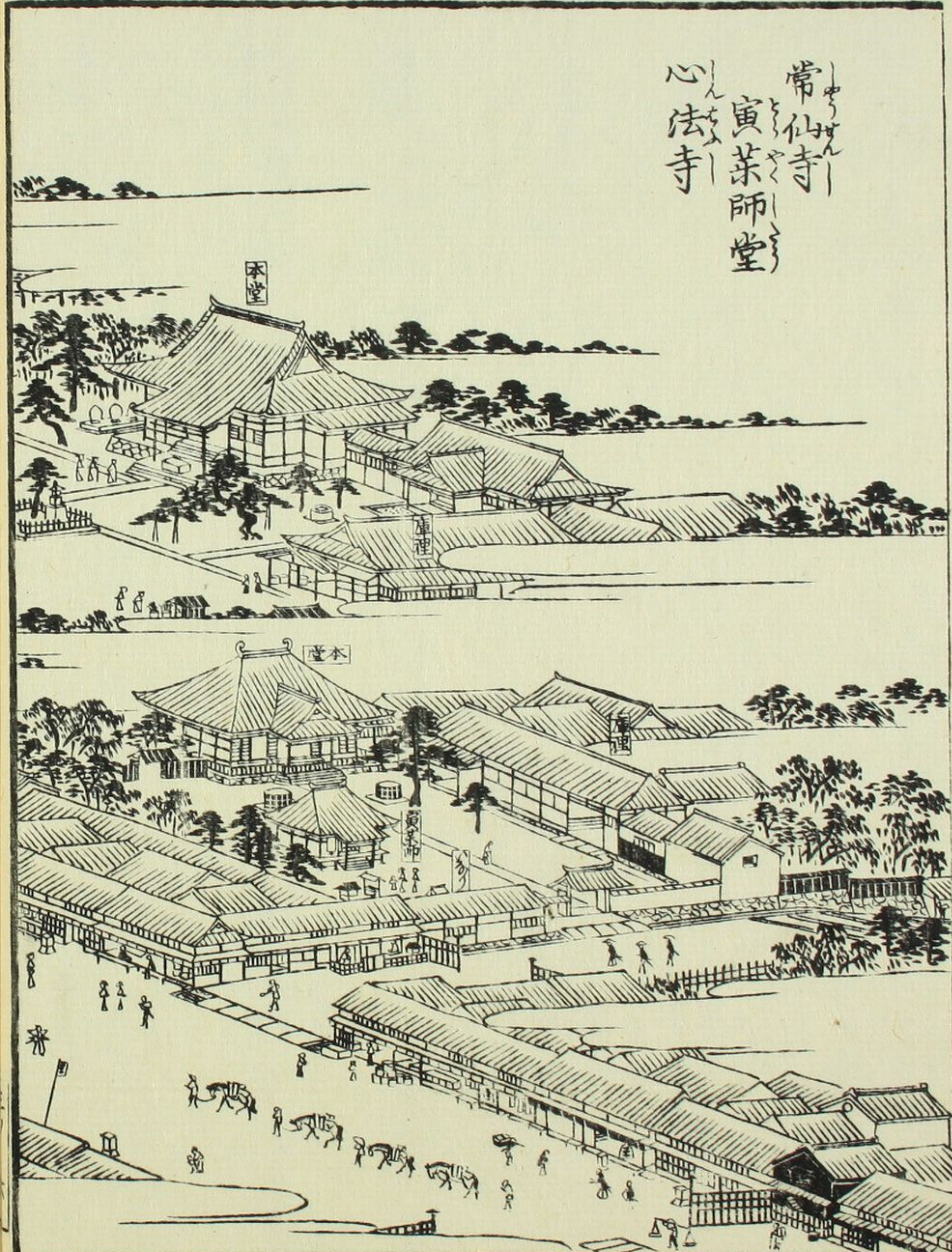
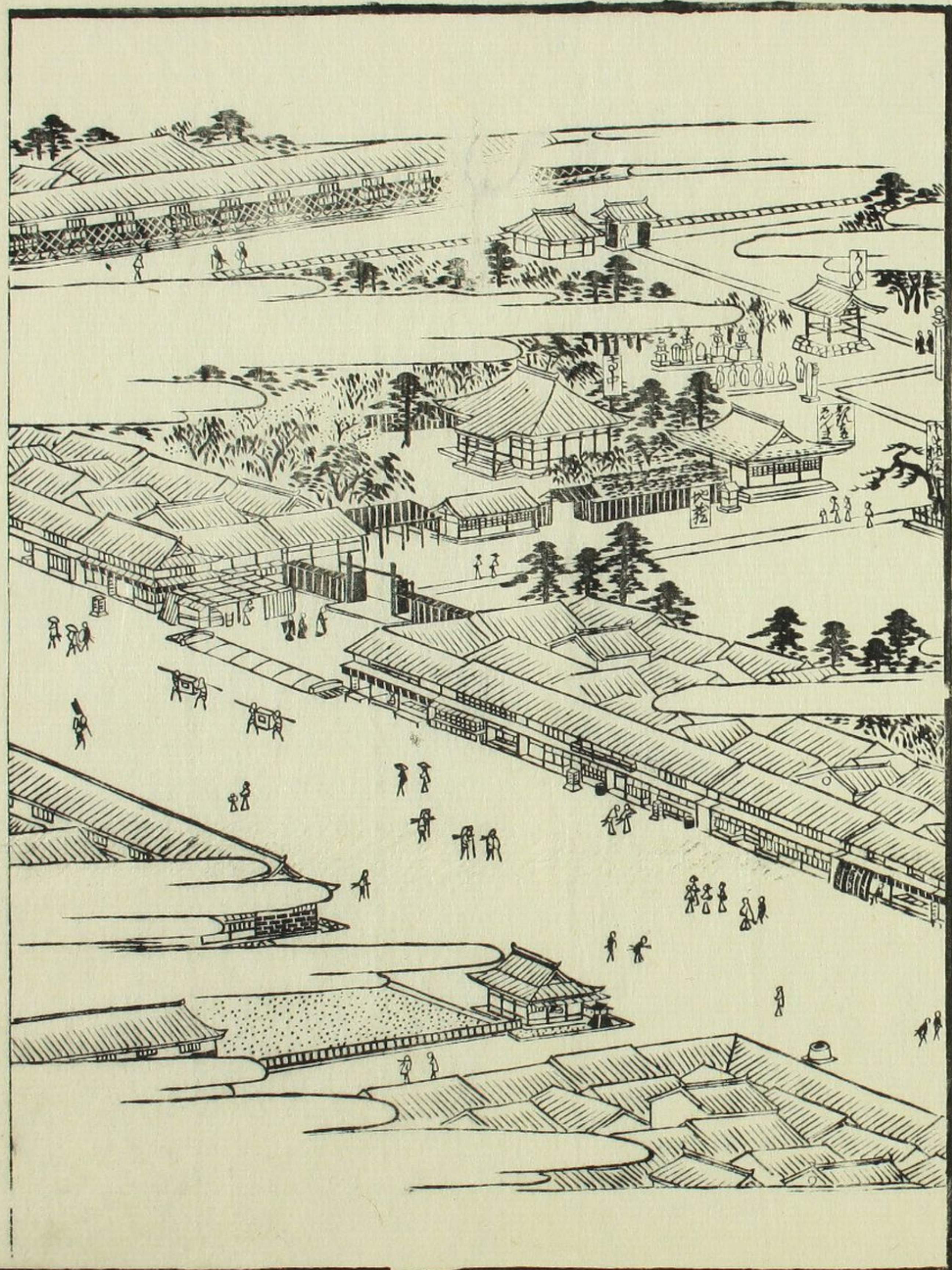
依り 平法恩の爲ニ出家 江戸ニ來り 四谷盛町の明雲山

龍昌寺といふ禪林ニ住し 其頃當寺を闢く 此本尊と安置

せし あり 毎月八日十二日 泰指多し 此本尊あり 此小路を

千手觀世音 同九丁目の右側常栄山心法寺といふ 淨刹ハ安

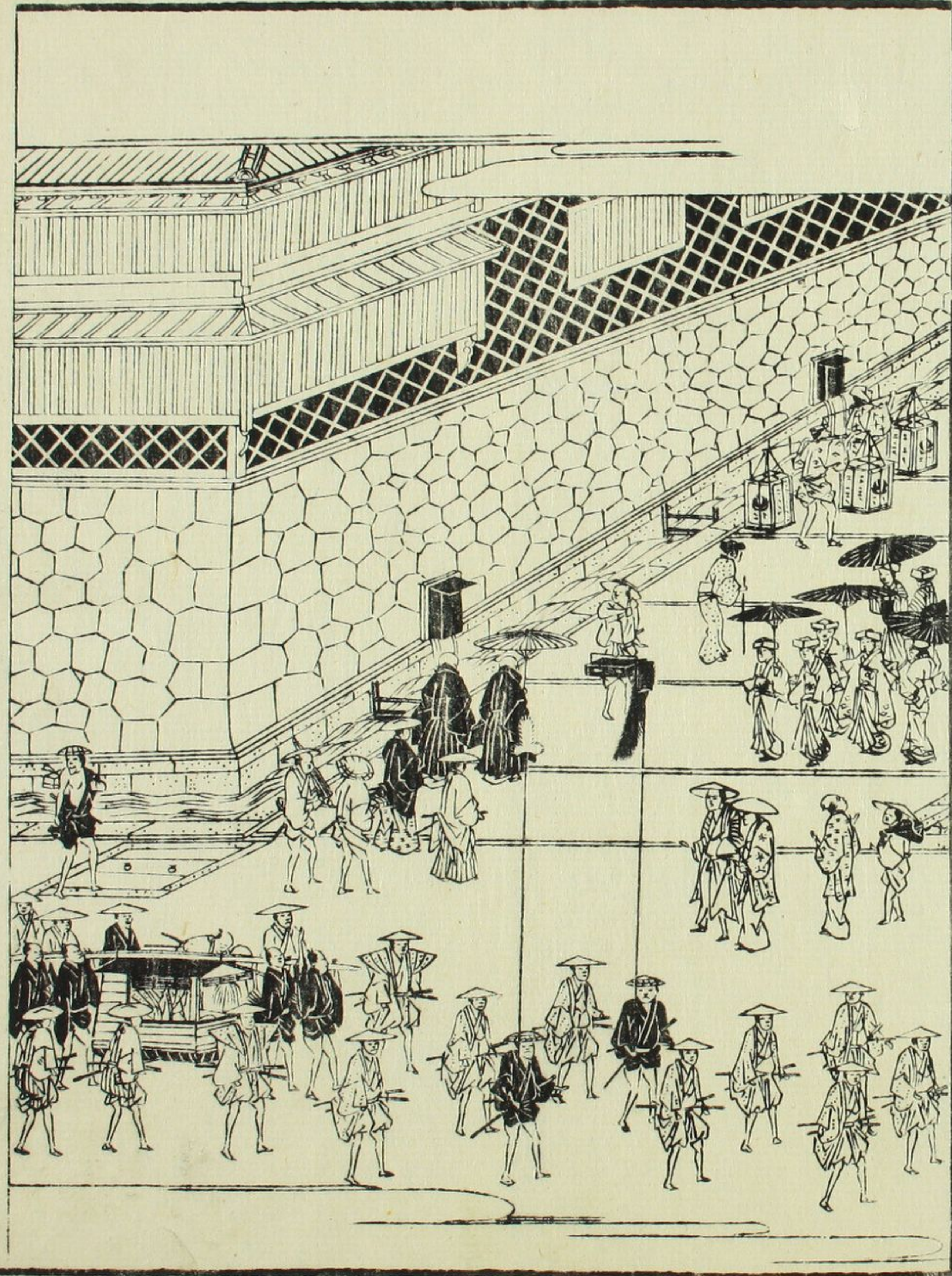
置し 此靈像ハ泰川勝の念持佛ありといふ 簡淨檀金立像 當



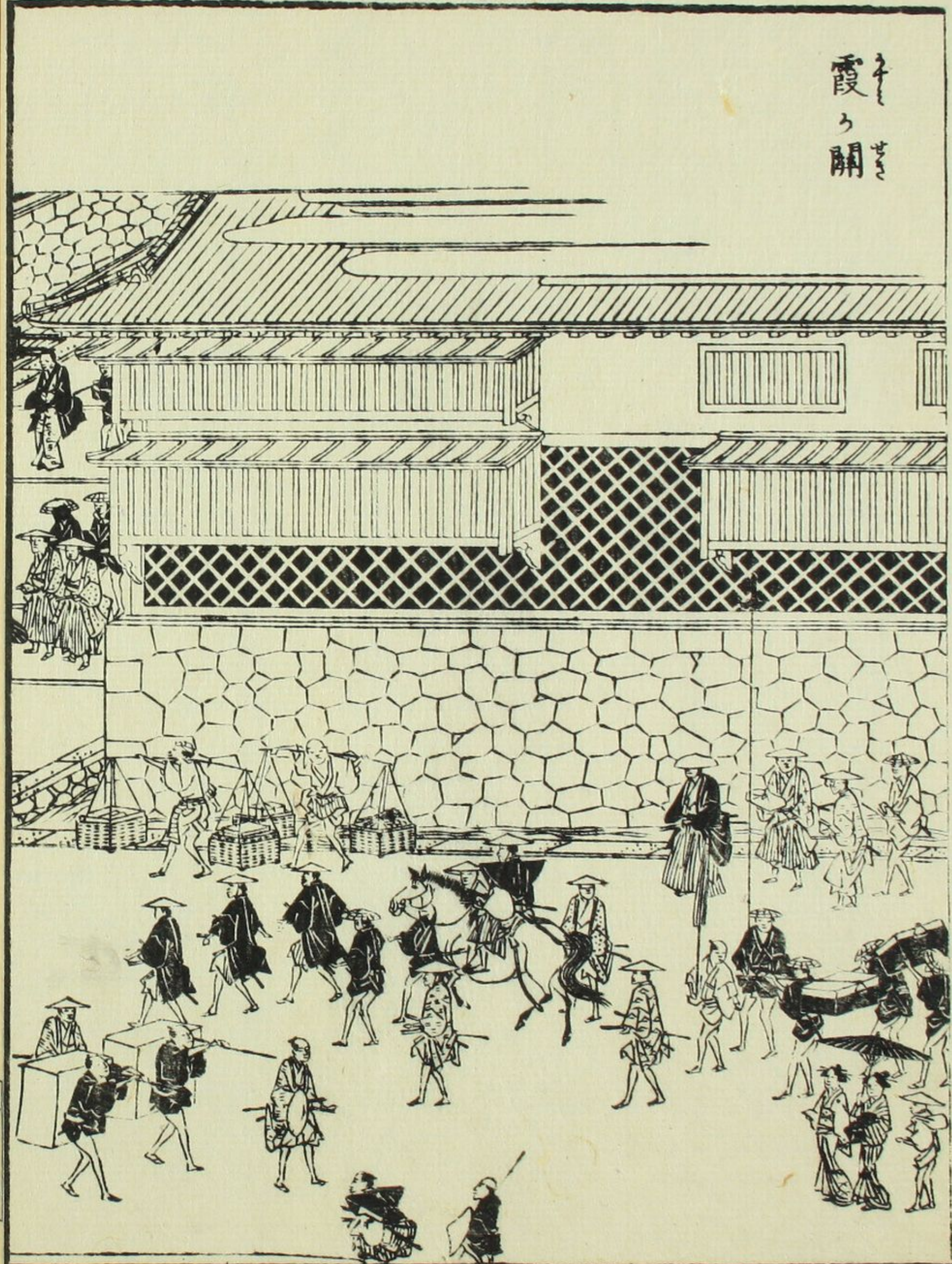
柳の井



寺ハ京師知恩院ニ属ス本尊ハ阿弥陀如来惠心僧都の作
 尾州公卿館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふも
 清水坂 尾州公卿館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふも
 此辺の柳蔭と唱ふ古歌の意をとりてありのふとなり富士見坂を
 流る柳蔭と唱ふ古歌の意をとりてありのふとなり富士見坂を
 松平出羽侯の前と云玉川の滝ハ同一庭中ありと駒井小路ハ
 富士見坂の上の方あり駒井氏ニ住せり其号と云ふこと
 櫻田 古の郷名なり和名類聚抄中も荏原郡櫻田 佐久
 其称尤久 今ハ豊島郡ニ属せり小田原北条家の所領役帳ハ太田源七郎及ハ
 街々櫻田の地名と注しハ櫻田久保町同兼務町備前町の類ハ今ハ
 六本木の南ハ櫻田町と唱ふありの同所百姓町等ハ今ハ
 武蔵國風土記曰 荏原郡櫻田郷公毅四百六十
 三東三字田號櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多
 太平記云 元弘三年五月武蔵野合戦の条下ハ九日軍の将ハあり
 下河邊の勢と討つ後敵の攻めと云金澤武蔵守守將五万余騎と差副て下河邊



霞
う
關





霞
う
關
古
圖



武蔵野地名考云或古記曰 荏原郡霞關日本武
尊蝦夷之備關也尔来連綿大被置之奉國之勝
景而然其遠眺隔雲霞故有霞關之稱云云

續千載

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

為世

同

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

宣子

新拾遺

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

仙洞

新明題

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

龜山院

夫木

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

慈鎮

同

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

為守

同

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

光隨

同

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

為氏

名寄

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

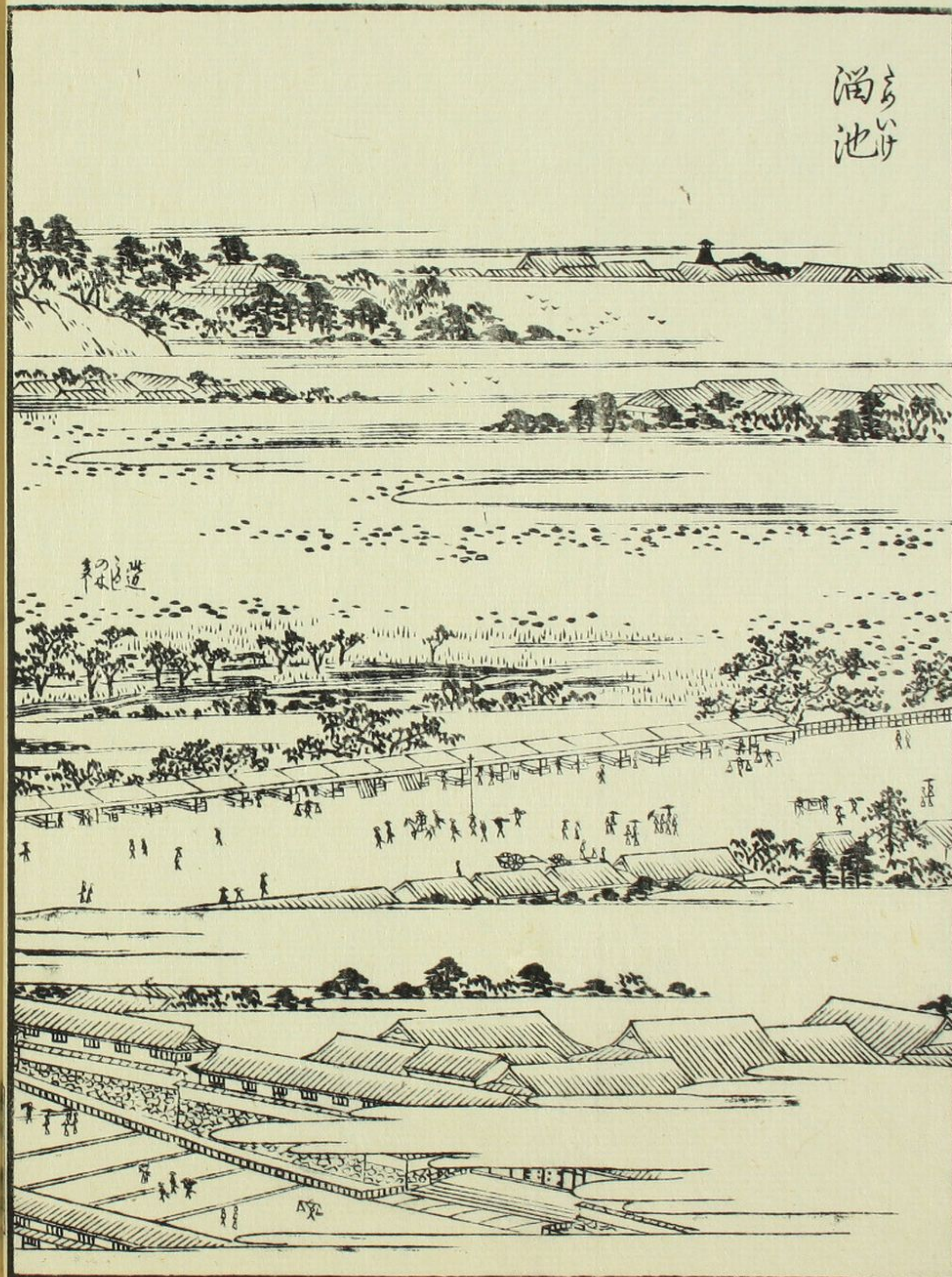
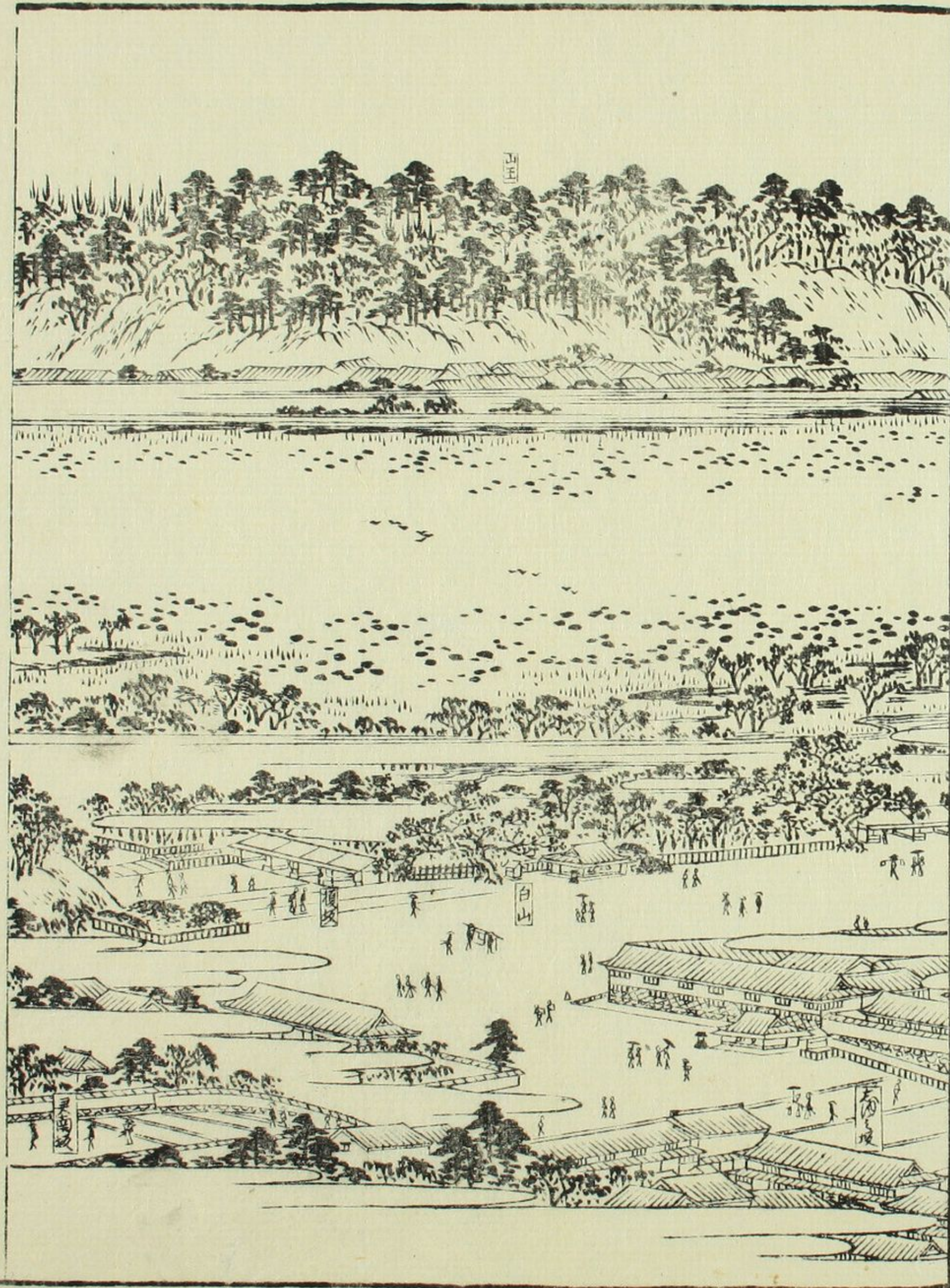
頭氏

田國雜記

此れは古の霞關の稱ももとの霞關の霞も昔とこれぬ

溜池白山祠





あつま路のあたりに幸て我も都へまかへらん 道典 准后

都のつとくをいふとあり一處の冥も去を待らん 同

溜池 赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る昔神田玉川の

兩上水のまゝ江城の御もとへ引せまへり一其以前ハ此池水を

上水に用られしとあり 寛永明曆等の江戸の圖に赤坂溜池に江戸水道の

大なる誤りあり 往古 鈞命より江州琵琶湖の軒下ハ山城

淀の鯉等を活なう此池に移し故にめうもりともく形を

一く他は異なり又蓮を多く植らし一故に夏月花の盛栄

奇觀とす又池の堤は榎の古木二三株あり是を印乃榎と

名く昔浅野左京大夫幸長 鈞命を奉し此所の水を

築止めらる其臣矢島長雲是を司り堤成就の後其功を

後世に傳んし印をく我らとなり此堤より麻布谷町の

方へ下る坂を榎坂とす前より述ふの榎ある故に又同不

坂と号く

堤の北の方辻番所の脇堤の傍に葵を植る地あり土俗

葵う岡と号ふせりこのあり東へ向ひく下る坂を葵

坂と号く

靈南坂 溜池の上より麻布へ登る坂を慶長の頃高輪の東禪

寺此地にあらず 寛永九年の江戸圖より 彼寺の開山を靈南和尚と

稱せ道先を慕ひく坂の号は呼ぶとす潮見坂ハ同所松平

大和侯の表門前より傍れく溜池の上より東へ下る坂をい

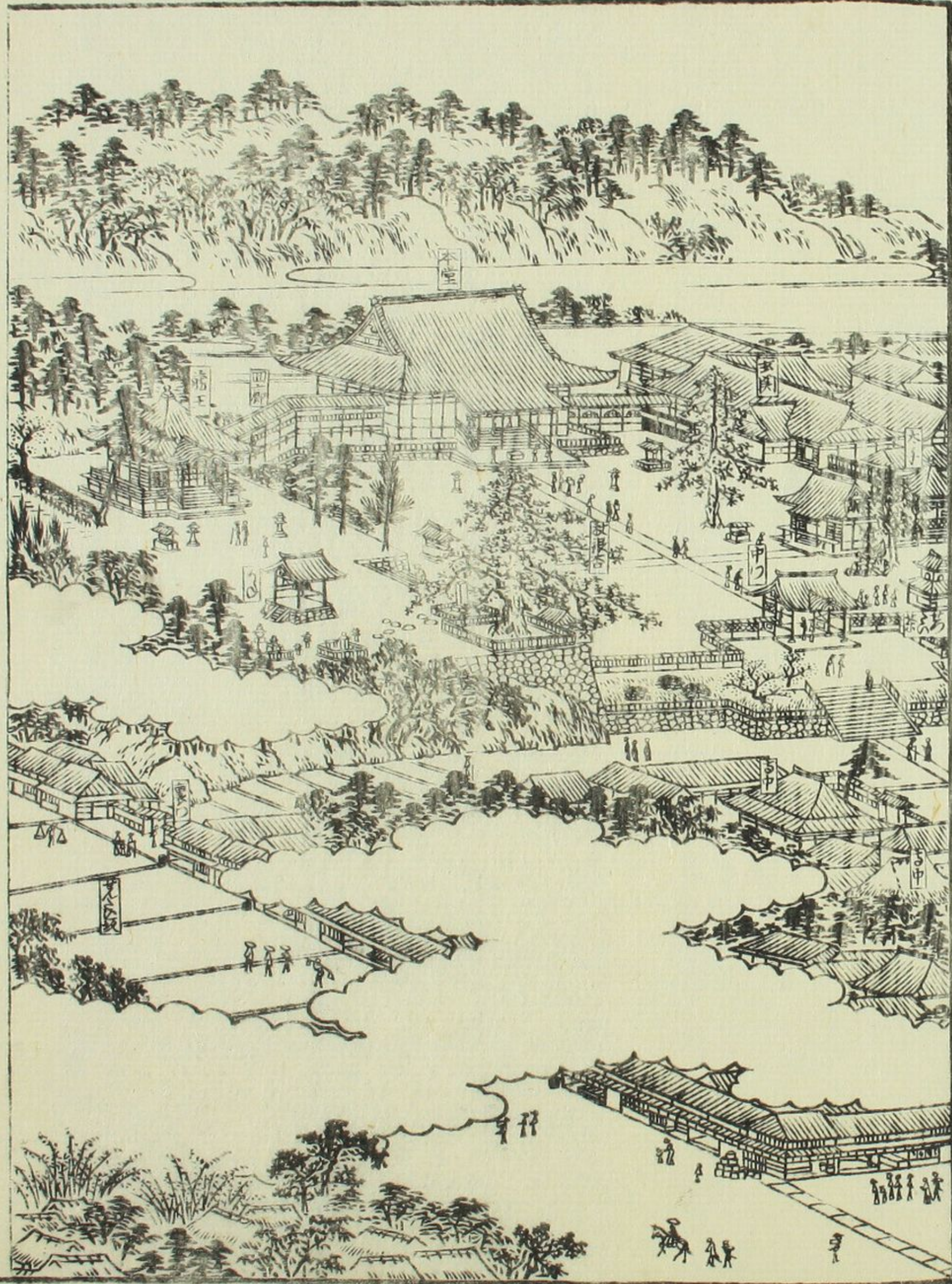
江戸見坂ハ靈南坂の上より土岐牧野両家の北の阪を曲りて

西窪の方へ下る坂なり

麻布山善福寺 麻布雑色より 昔ハ龜子と 親鸞上人弘法乃

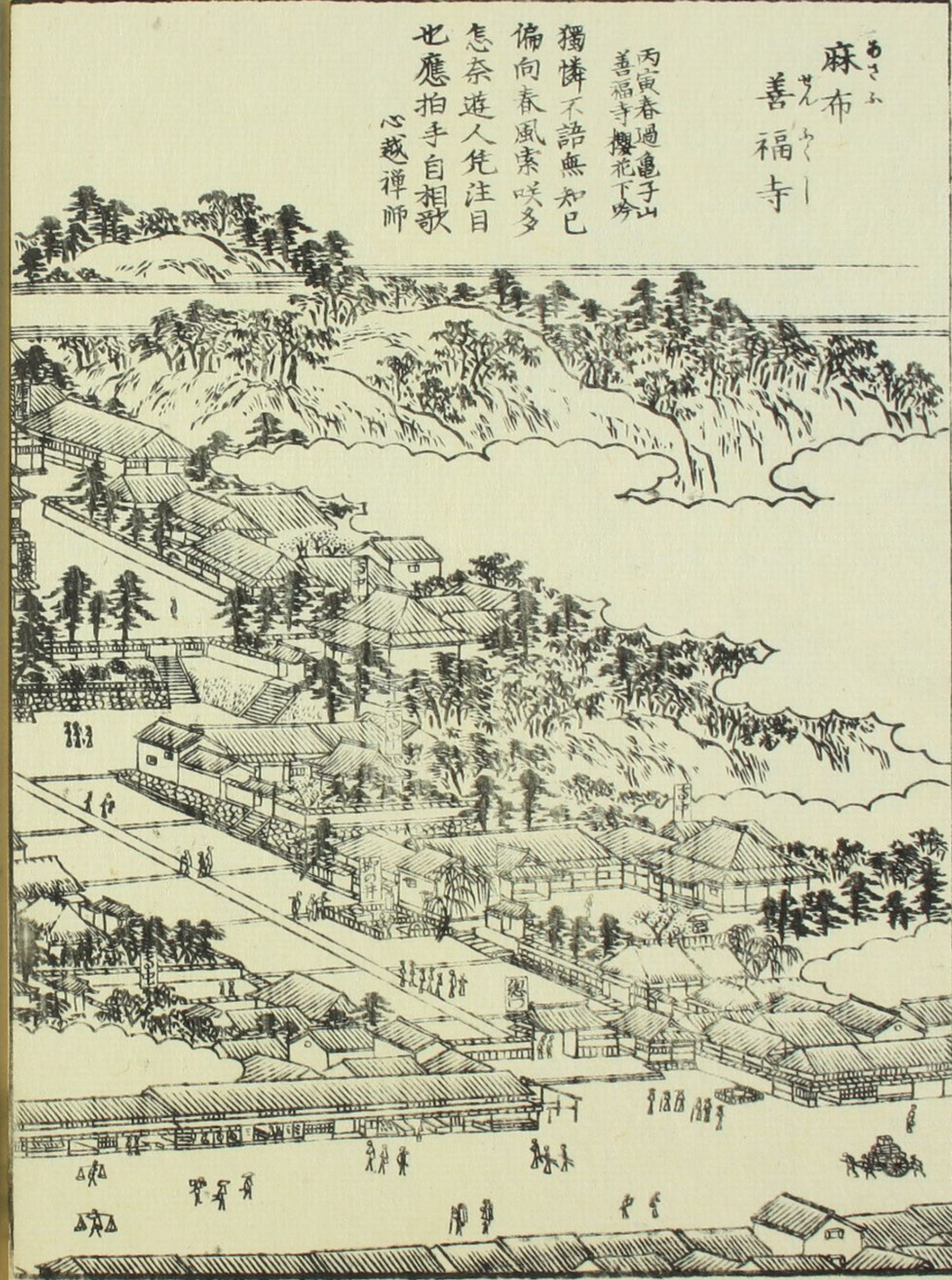
地中々當宗關東七箇の大寺の一員了庵上人開山たり

龜山帝の勅願本尊阿弥陀如来の像ハ惠心僧都の作なり



麻布あしふ
 善福寺ぜんぷくじ

丙寅春過龜子山
 善福寺櫻花下吟
 獨憐不語無知己
 偏向春風索吟多
 怎奈遊人凭注目
 也應拍手自相歌
 心越禪師



往古ハ南紀の野山ニ象テ草創アリ一梵宇中一初
真言密乘の勝區たり一貞永元年壬辰了海師親鸞上人
の弘法ニ歸化一宗風を結ス支院十餘宇あり

藏王権現堂 本堂の南にあり當寺の開山堂也了海堂也

杖銀杏樹 開山堂の前より石垣をゆく相傳へ親鸞上人了海師に

鹿島清水 意ノ枝葉繁茂シ蒼々として云々然るは此樹忽ハ根斬

寺記云中興閑山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實

公の息男なり信實公故あり當國ニ放れ品川の近邑にあり

請しひこれハ其室白布を吞と夢見く懐妊一建仁元年辛酉

林鐘十五日一男子を誕生也其時後園松樹の下に忽

然と清泉涌出せり

依人皆奇異とす此兒七歳の春父告く出離の志ありを頭ハ

せり故小實相寺の範賢律師ニ投一鬢髮を剃除一了海と号く

一書ニ巖山ニ登リ靜養僧都ハ是より後數学窓ニ身を委注諸宗を濟

竟古郷小歸ニ本願弘興の基趾を求んと一則藏王権現の

叢祠ニ詣一是を祈リ靈瑞ふより一此地小至る一精舎あり

今善福 神の教ありを初りて止住一年を歴り然貞永

元年壬辰親鸞上人東國往回の時適當寺に入らるハ海師其

杖銀杏樹 開山堂の前より石垣をゆく相傳へ親鸞上人了海師に

鹿島清水 意ノ枝葉繁茂シ蒼々として云々然るは此樹忽ハ根斬

寺記云中興閑山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實

公の息男なり信實公故あり當國ニ放れ品川の近邑にあり

請しひこれハ其室白布を吞と夢見く懐妊一建仁元年辛酉

林鐘十五日一男子を誕生也其時後園松樹の下に忽

然と清泉涌出せり

依人皆奇異とす此兒七歳の春父告く出離の志ありを頭ハ

せり故小實相寺の範賢律師ニ投一鬢髮を剃除一了海と号く

一書ニ巖山ニ登リ靜養僧都ハ是より後數学窓ニ身を委注諸宗を濟

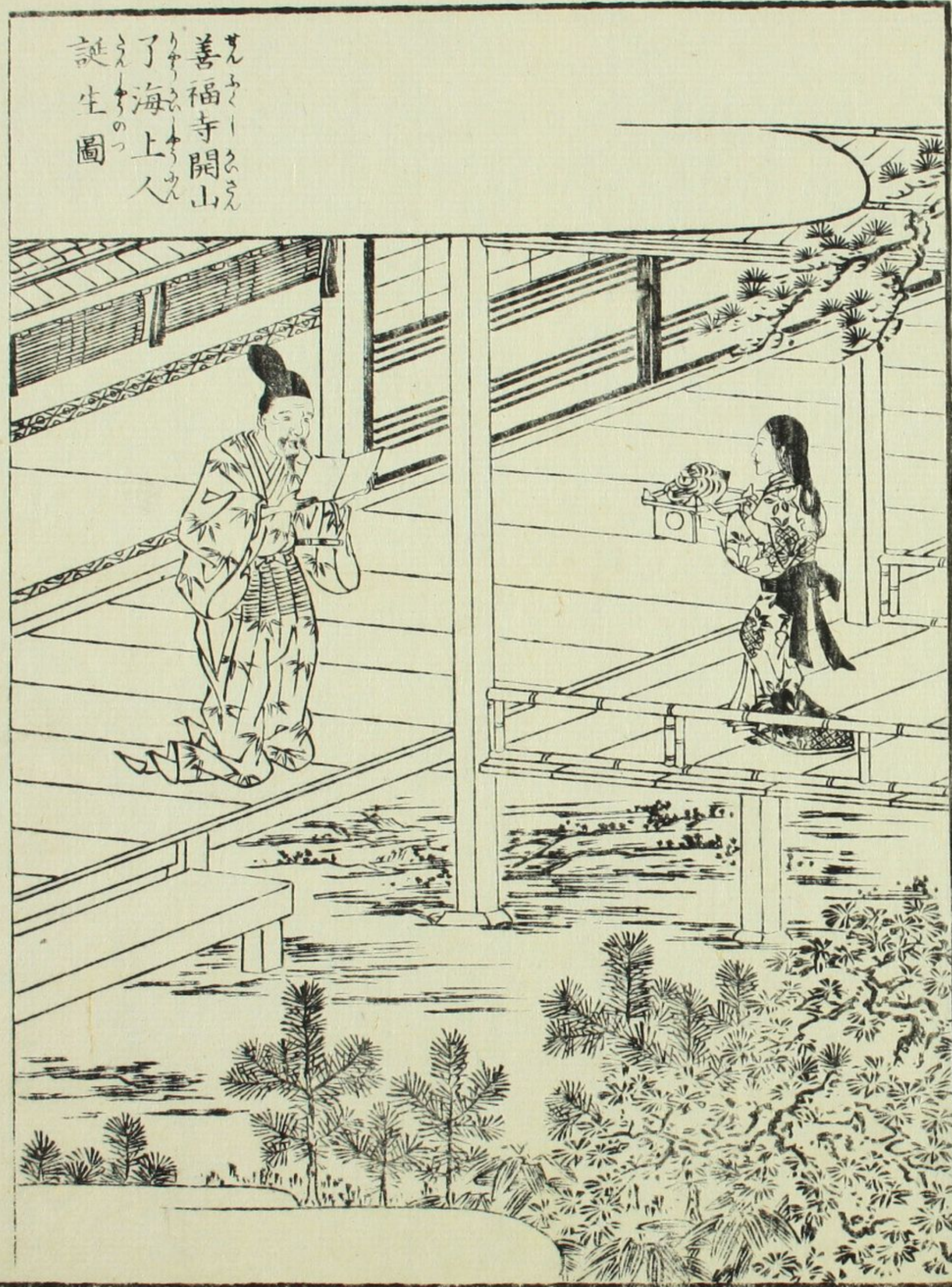
竟古郷小歸ニ本願弘興の基趾を求んと一則藏王権現の

叢祠ニ詣一是を祈リ靈瑞ふより一此地小至る一精舎あり

今善福 神の教ありを初りて止住一年を歴り然貞永

元年壬辰親鸞上人東國往回の時適當寺に入らるハ海師其

善福寺開山
了海上人
誕生圖

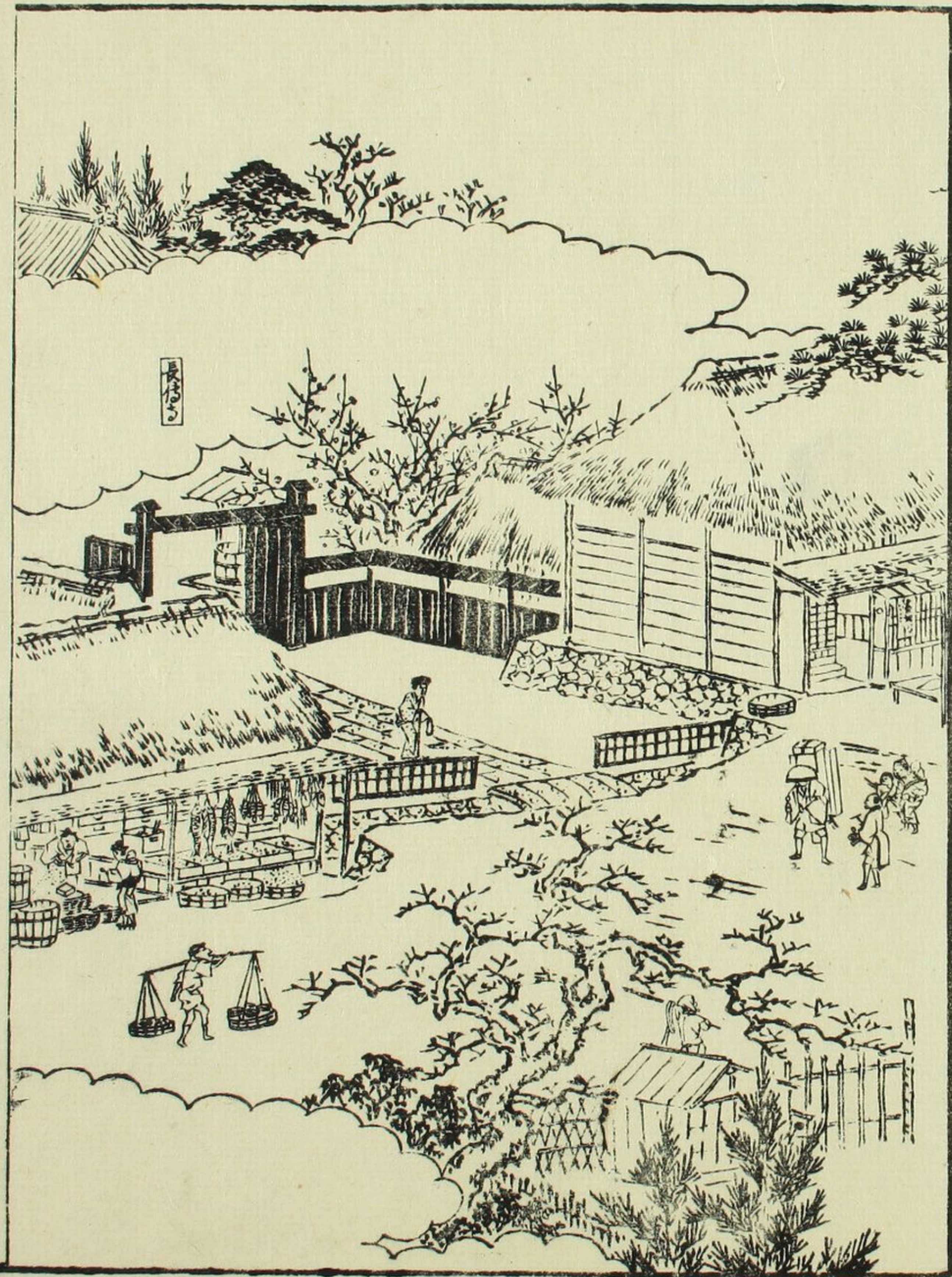


夜試は屈請一談は三蜜論伽六即止觀を以て親寫上人是ハ
答ふも響の音は應もるめ一竟は念佛往生の理を論するハ
至る海師直は親寫上人の弘法は帰降一師資の約嚴中て
是より宗風を授け化を布り遠近は普一直第六老僧の隨一と稱す後永仁
二年甲午十一月六日前念命終後念即生の素懐を遂りける
以上寺記及び二十四輩靈場記の意を採る佛光寺の實録云く了海上人ハ元應二
年庚申正月廿八日八十二歳中寂す武藏國阿佐布善福寺と号し應元
生廿四歳の時祖師圓寂云傳燈系圖元應二年十月六日寂又大谷遺跡録云
高祖滅後十六年弘安元年四十歳の頃興正寺に入第四世の寺務となり永仁五年願念
聖海は寺務を譲り武州柳布下下元應二年の春正月化縁の薪火くた八日即生
後念の素懐を遂りけるは化縁の時世違へる可考なり
弘法大師刷毛書名號弘法大師入定し三月十五日空海書と帝勅し多しあり今
猶侍る當八字名號親寫上人解浴しあり後海師一年都へ登り上人の諱を
寺に存す上人云く改ハ關東にありて徒を教化しんと南无不可
思議光佛と翰墨を授けし是を海師はたまふ當寺の什宝とすのへり

當寺ハ弘法大師草創ありより已降一千餘歳を經る古藍
なり殊更文永三年の秋八月 龜山帝勅一願寺とありしめれ

薦紳一負詰墮及び俸四を賜ふ境内は古墳多く最古跡あり
明け今一向專修の宗風盛ゆく化導遠近は普一
一本松同所北の裏通り一本松町道の傍あり一株の松は注連を
懸其下小垣を廻らせり里諺云く六孫王徑基此地を過る頃此
松は衣冠を懸あひと冠松の名ありとも其餘さぬくの説あれとも
分明ありす今此辺を一本松と号し地名とあり或云小野
篁植る所ありとも

氷川明神社 同通り南の方上野町道より左側あり麻布の惣鎮
守中々祭礼ハ八月十七日あり相傳文明年間太田道灌當國
一宮氷川明神を勸請せる所中々旧地ハ同所宮村の切通坂に
ありしとあり別當ハ真言宗中々德乘寺と号す古老云昔の二鳥井ハ
同所長坂にあり又
三の鳥井ハ今所消鳥井坂の地ありしと其旧地今ハ縁山の住持退隱の地とあれ
露白和尚實文二年の九月とあり此地は隱栖ありしとあり其時今の所へ社と



麻布一本松



うつせゝかへ〜元禄の江戸図ゆゑ麻布明神とあり

七佛薬師如来或ハ神田麻布本村町の南坂の下り口左側医王山東福

寺といふ天台宗の寺内よあり縁起よ云く本尊薬師如来八傳教

大師の作ゆ〜七佛の其一員ありその〜六孫王経基の持念佛

たり〜ゆり永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代々の官領

崇敬あり然よ長祿の頃太田道真當國河越の城中よ安置し

又文明よ至り其子道灌江戸平川よ移せり然よ慶長五年

大神君關原沙陣の砌慈眼大師よ命せり此本尊よ沙祈念

あり〜巻敷を献せ今此例ゆ〜正五同九年神田の臺よ移さる其地

河臺よ又其後下谷廣小路ゆ〜地を賜ひ〜紫の一本よ廣小路の

以後南茶園へ移り〜此茶師ゆ〜成の〜とあり天和二年壬戌のゆ〜

趣と慈眼大師の真筆と添ら〜一軸の縁起あり當寺昔ハ

仙波喜多院よ属せり慈眼大師の時より上野よ属せり

霞山稻荷明神祠 櫻田町道より右よゆ〜往古ハ櫻田霞山廟あり

〜と伊廓定〜頃今の地へ移さる〜とあり別當ハ天台宗あり

霞山櫻田寺觀明院と号く本尊陀拈尼天像ハ足利義國の守

神中て行基大士の作秩父重康安置せりと云相傳〜當社ハ渋谷

莊司重國勸請し文明中道灌再興せり又往古右大将頼朝卿

櫻田村あり美田五百七十石を寄附あり〜供田の印よ櫻樹を植

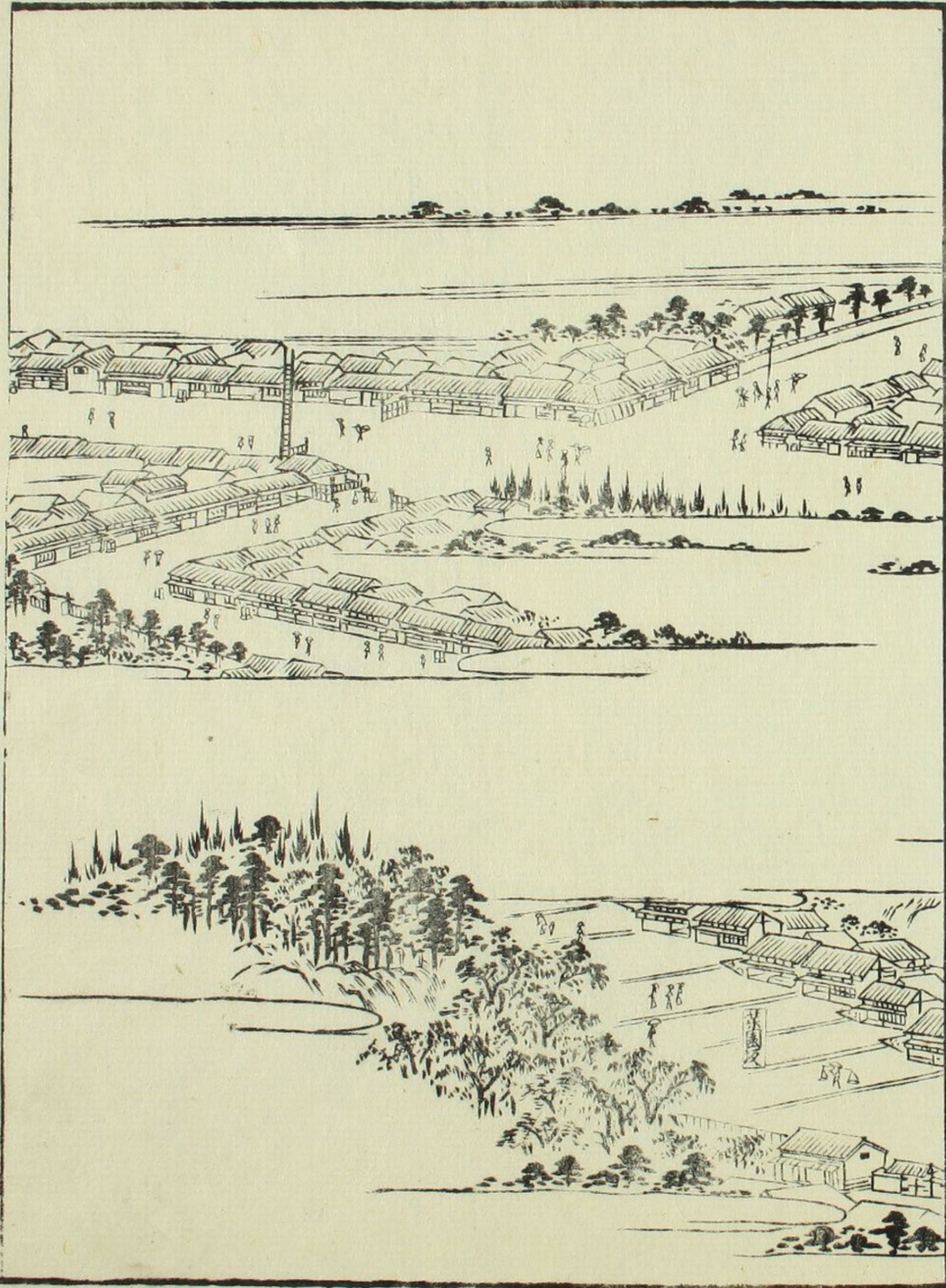
要害を構〜江戸太郎重長を〜往來を改む其後遙小年

月を歴〜此地と共に社と麻布へ移され〜とあり今麻布櫻田町百姓町杯

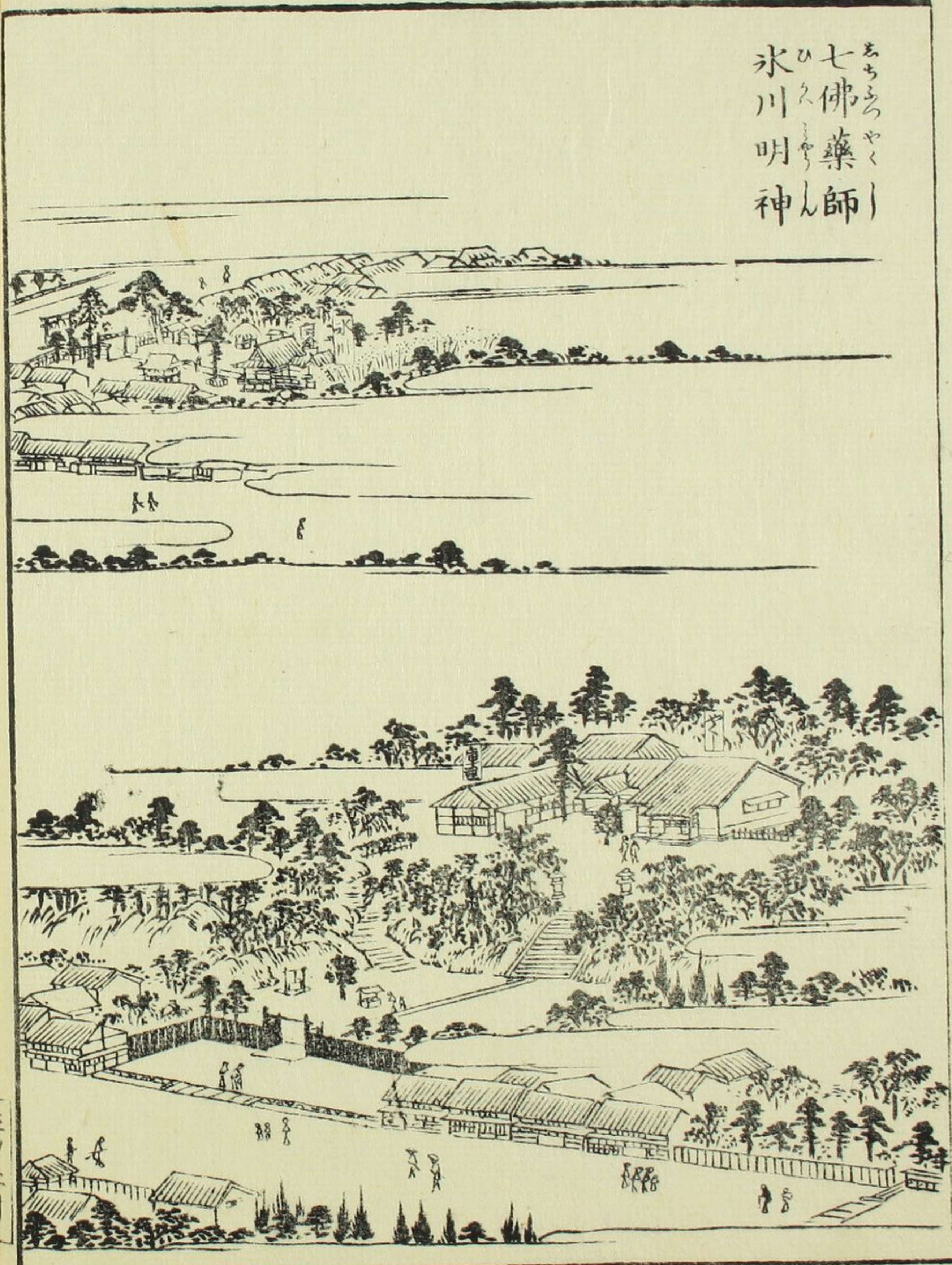
朝日觀世音 同向側專稱寺といふ浄家の精舎に安置は本尊

觀音の像ハ長者丸の叢より出現あり故小作者何人なる

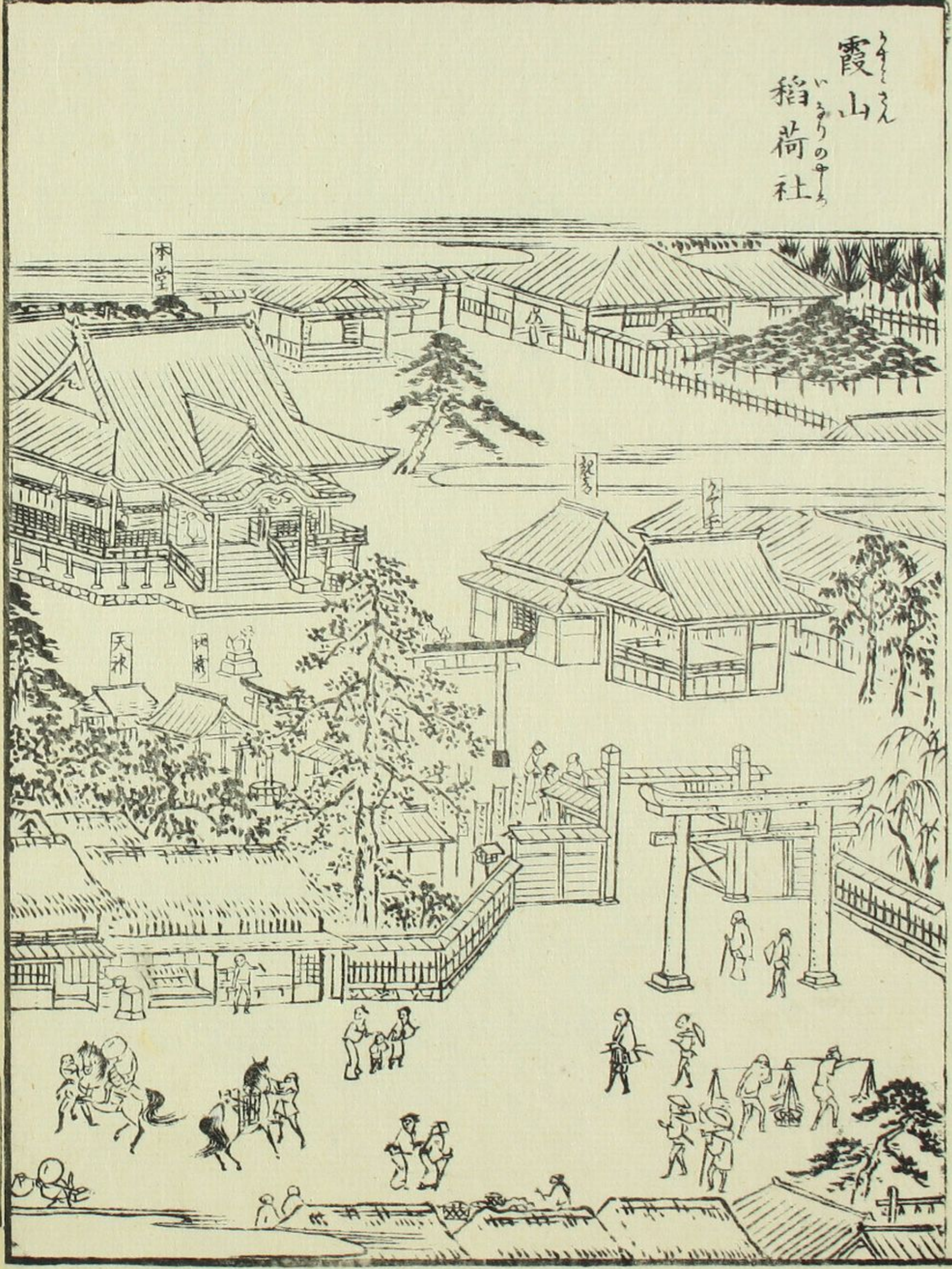
〜とあり當寺ハ三光院清心尼の開創あり〜寺院あり〜



あちやく
七佛薬
ひくしん
氷川明神



霞山
稻荷社



本尊も又此尼のき信ありて靈佛ありと云々
清心尼ハ織田信長公の侍女也

子安薬師如来 同南ノ並ハ真言宗正光院と云々
安薬師如来ハ一ノ安薬師如来ノ像ハ惠心僧都ノ作也

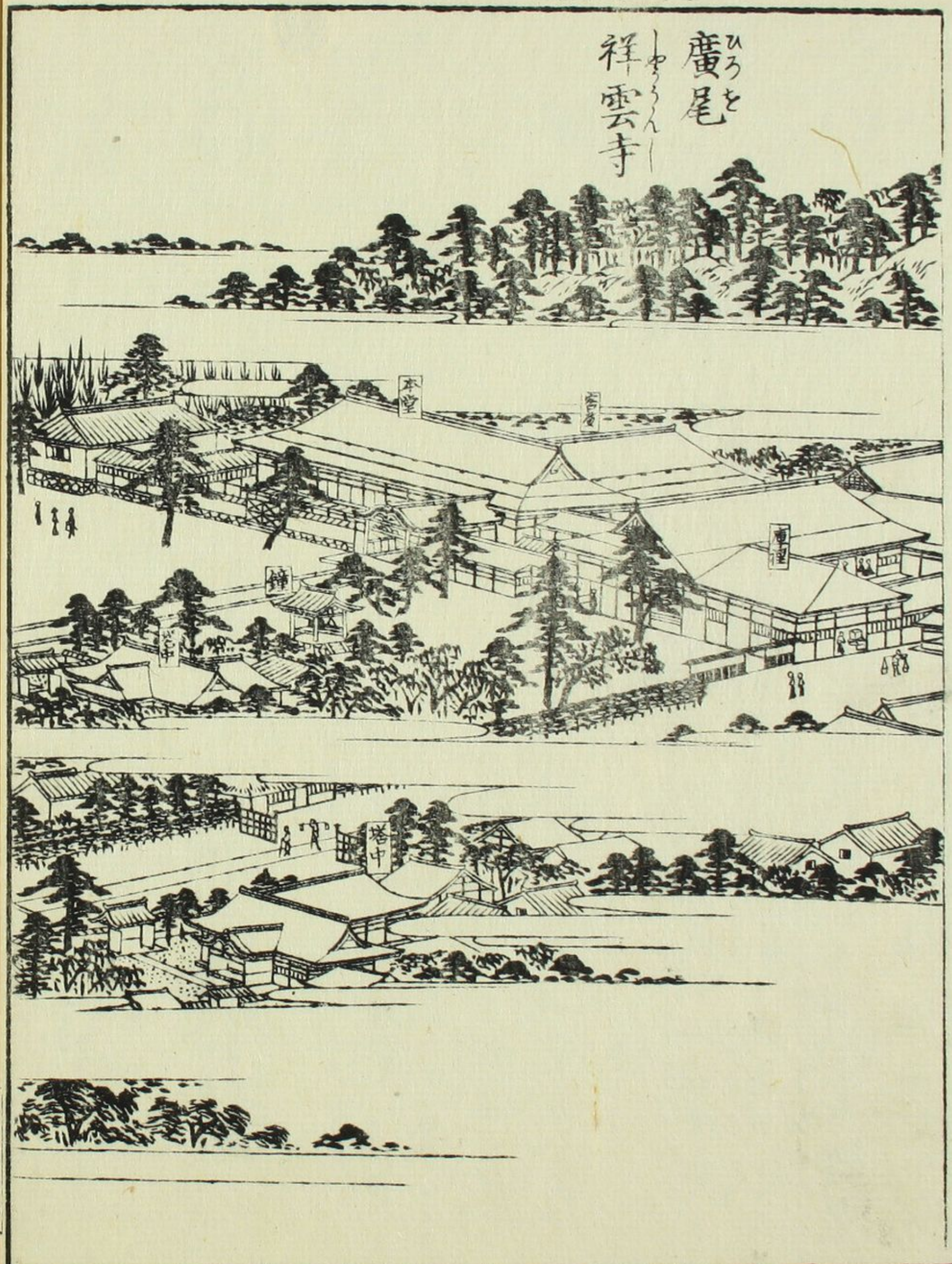
本尊瑠璃光如来の像ハ惠心僧都の作也
一ノ安薬師如来ノ像ハ惠心僧都ノ作也

瑞泉山祥雲禪寺 廣尾町ニあり
北条家西領後帳ニ奥津加賀守櫻田ノ内平尾ノ地ヲ領スルニあり

龍岳大和尚開基ハ松平筑前守長政なり
祥雲ハ則支院ハ宇

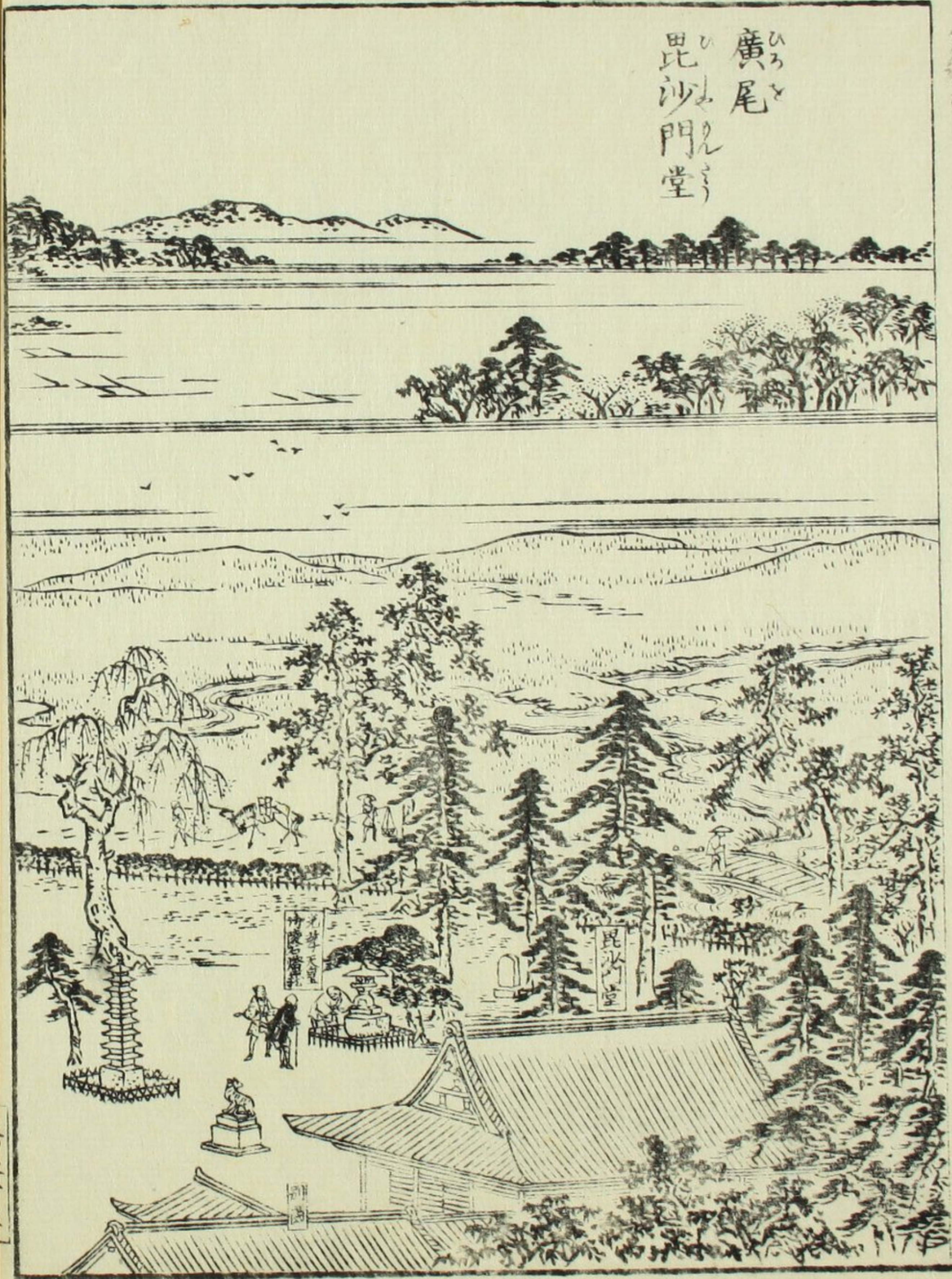
毘沙門天 同所四斗巽の方
洪谷川ノ北岸多門山天現寺ト

念持佛也 聖徳太子の彫造ありと云々
其丈三相傳ハ多田満仲ノ傳通院殿深く





廣尾
毘沙門堂



信のりまりくく安部あべ撰津守つづみ信春のり予のり預ああま其のり後のり仙石せんせき因幡守いんぱん

久信ひさのぶの家のりにのり傳のりくく又また祥雲寺しやううんをのり収のりめめ竟つひにのり當あ寺てらをのり開ひら創つくしし始はてはここ小

武州ぶしゅう起おこ豊島とよしま郡城ぐんじやう南麻布なんまふ邑むら多聞たもん山下やまの天現てんげん禪寺ぜんじ毘沙門びさもん天

此こゝ毘沙門びさもん者のり北きた方かた天てん王わう而しか蹄ひ多た聞もん也なり西さい之の土つち乃すなは以も明あ北きた方かた為な為な護ご

四よ堆たい之の精せい埋う持もち諸しよ闕けつ又また北きた方かた無な量りやう聞もん之の西さい乃すなは以も為な明あ北きた方かた為な為な護ご

東とう照しやう二に君きみ尊そん母はは中ちゆう公こう相さう傳でん我われ闕けつ又また北きた方かた無な量りやう聞もん之の西さい乃すなは以も為な明あ北きた方かた為な為な護ご

也なり故ゆゑ因よ神かみ尊そん中ちゆう寅いん神かみ傳でん我われ闕けつ又また北きた方かた無な量りやう聞もん之の西さい乃すなは以も為な明あ北きた方かた為な為な護ご

手て自みづか作つく之の母はは長ちやう三さん尺せき訓くん命いのち應おう靈りやう慶けい之の祈いのち馬うま蓋がさ聖せい德とく太たい子こ以も以も楠くすのぎ木き

大だい師し所ところ傳でん來きた尊そん像ざう也なり良よ有あ以も哉や家け嫡ちやく聖せい德とく太たい子こ以も以も楠くすのぎ木き

尚しやう存ぞん矣なり權けん現げん守しゆ御ご本ほん尊そん之の祈いのち馬うま蓋がさ聖せい德とく太たい子こ以も以も楠くすのぎ木き

德とく也なり唐たう撥はつ亂らん反はん正せい掌しやう握かく天てん下げ安あん撫ぶ海かい内ない者のり乃すなは此こゝ像ざう也なり拔はつ威い群ぐん今いま

謂い信のり非ひ誠まこと同どう僧そう相さう天てん王わう君きみ傳でん者のり皆みな此こゝ靈りやう所ところ成なり也なり開ひら也なり太たい平へい之の難がた其の基もと所ところ可べ其の中ちゆう語ご

命いのち預あ香かう華け供く養やう之の事こと信のり春はる亦また寅いん歲さい而しか愈い恭こう仰おほ不な勉めん也なり後のり信のり包ほう嘗じやう衛ゑ護ご子こ

彌み市し郎らう信のり包ほう亦また寅いん歲さい而しか愈い恭こう仰おほ不な勉めん也なり後のり信のり包ほう嘗じやう衛ゑ護ご子こ

大だい坂ばん城じやう之の初はつ年ねん鎮ちん坐ざ其の城じやう內ない也なり歷れき年ねん之の後のり信のり包ほう嘗じやう衛ゑ護ご子こ

州しゅう刺し史し尚しやう猶なほ傳でん之の益えき齡れい過か九く十じゆ旬じゆん其の地ち建けん堂だう自みづか茲こゝ任にん丹たん波は攝しやく

刺し史し尚しやう猶なほ傳でん之の益えき齡れい過か九く十じゆ旬じゆん其の地ち建けん堂だう自みづか茲こゝ任にん丹たん波は攝しやく

矣なり平へい生せい通たう志し于に祥しやう雲うん有あ故ゆゑ贈くわう仙せん和わ尚しやう甚じん厚こう也なり久く信のり傳でん之の尚しやう

遷せん靈りやう之の靈りやう夢む且かつ有あ俗ぞく家け不な堪かん久く信のり馳ち和わ尚しやう甚じん厚こう也なり久く信のり傳でん之の尚しやう

有あ法ほふ子こ良らう堂だう和わ尚しやう感かん其の像ざう之の懼こゝろ也なり怡い給じやう告こく任にん其の志し移い之の現げん

内ない法ほふ子こ良らう堂だう和わ尚しやう感かん其の像ざう之の懼こゝろ也なり怡い給じやう告こく任にん其の志し移い之の現げん

寺てら安あん此こゝ像ざう于に一いつ堂だう以も祈いのち妙めう驗げん之の重じゆう其の驗げん之の大だい新しん建けん天てん現げん

不な能な默もく止し云い爾に堂だう以も祈いのち妙めう驗げん之の重じゆう其の驗げん之の大だい新しん建けん天てん現げん

沙さ門もん天てん王わう緣えん起おこ終しゆう

毘び沙さ門もん天てん王わう緣えん起おこ終しゆう

光孝かうかう天皇てんわう御陵ごりやう石燈籠いしとうろう籠かご

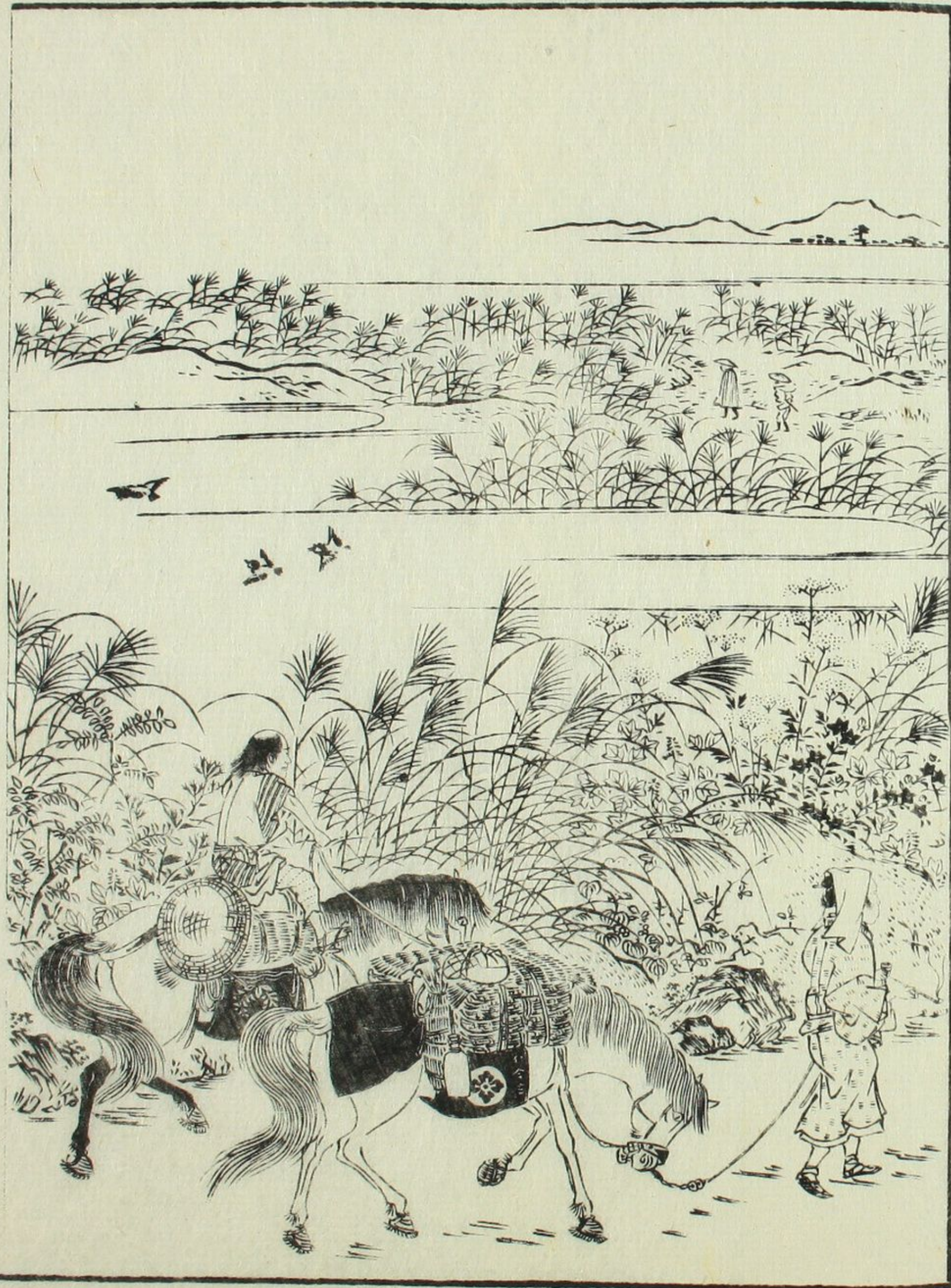
土筆つひし原はら淡谷たんや川がはの南みなみの原はらと名なくく海うみ此こゝ辺へをを豊澤とよざくの里さとと

呼よへり上かみ中なか下しもの地ちはは屬ぞくせり

鷲しゆ森もり神かみ明めい宮みや同どう所ところ相さう模も殿てん橋はしより南みなみの方かた田島たじま町まちの右みぎにあり列り

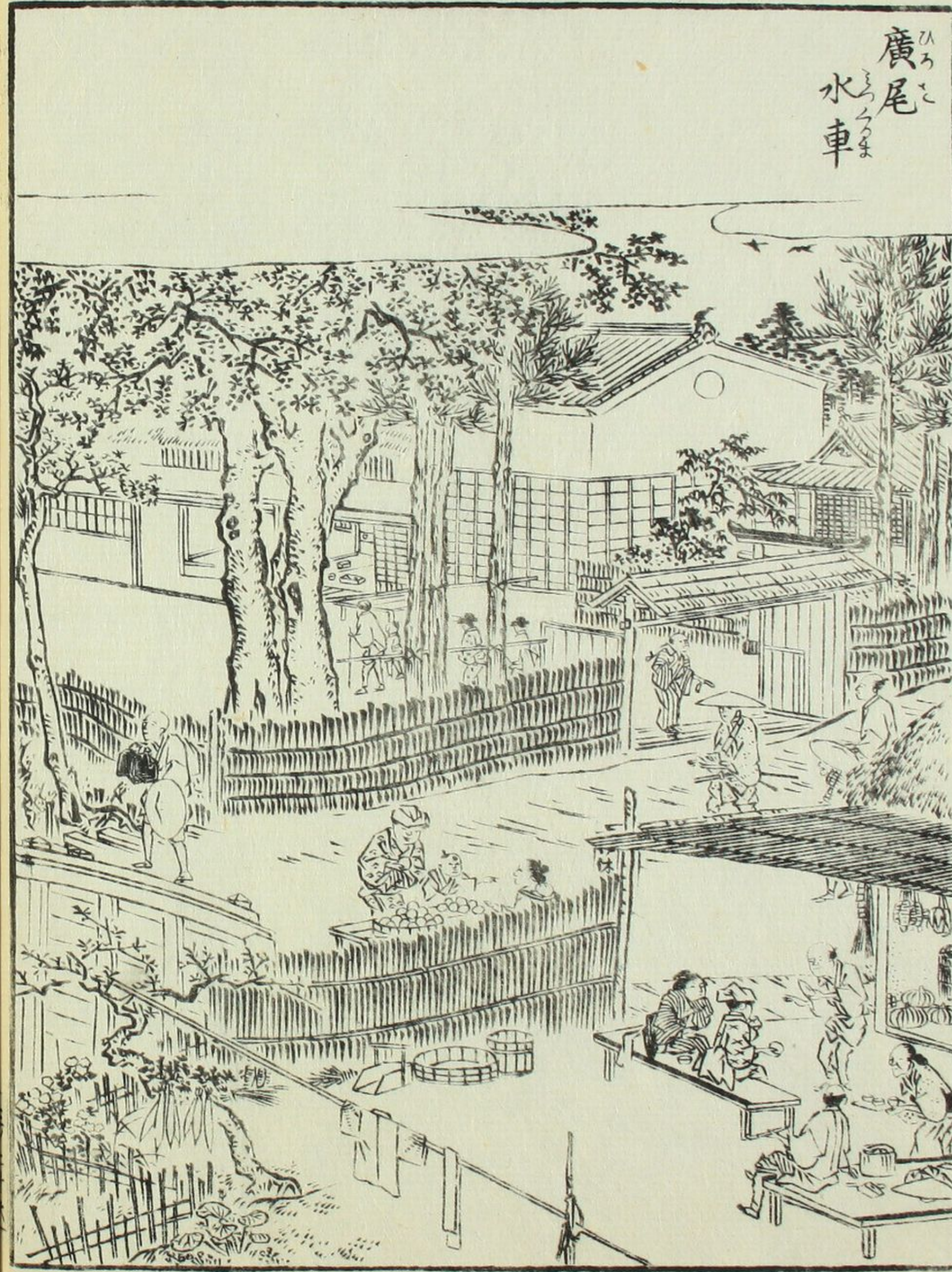
當あ八はち天てん台たい宗そう中ちゆう報ほう恩おん寺てら兼かみ帶たい祭さい礼らい八はち五ご月げつ廿にじゅう八はち日にちなり相あ傳でんの

後のり冷れい泉せん院いんの御宇ごう賴らい義ぎ朝あ臣しん東とう征せい凱がい奇きの時とき白はく旗きをを収のりめめ祀まつるなり





廣尾
水車



氷川明神社 同所南の方三鉢坂の下東の通り右側より白銀の

鎮守中々祭礼ハ九月十九日なり俗云日本武尊當國一宮氷川の

御神と遥拜一歩一歩旧跡なりと云

雷電宮 同社地より北に相傳ふ泊河院の御宇當國疫疾流行す氷川明神の

冬嶺山松秀寺 同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺

の末寺なり時宗の道場なり昔ハ武州高井土よりありて常光

寺とのひ遊行上人の宿寺なりと宝曆二年壬申此地へ移れ

其時より松中興閑山ハ遊行五十世快存上人ノ号ハ

延命地藏菩薩 當寺ハ安置を徳一大師の作中頗る靈驗あり祈願

最正山覺林寺 樹木谷道より右ゆありて日蓮宗なり房州

小湊の誕生寺ハ属を元禄年中の閑創中々閑山と可觀院

日延上人と号ハ小湊十八代の貫主なり相傳ハ昔加藤主計頭清正

朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連れりて沙門と

兄とハ高麗日送上人と号ハ肥後國本妙寺の閑山と弟ハ則日延

上人是なり當寺ハ清正の画像一幅を蔵す 生前自画あり

正五九月廿四日毎ハ神前ハおのく十卷陀羅尼と讀誦す 又清正朝鮮征伐

の時兜の内ハ籠られ釋迦如来の像并朝鮮國より軍弓を

申送られ書簡も何事も閑山上人當寺へ收られしと云

龍吟山與雲院 同所坂の上よりありて曹洞派の禪林なり芝二本

榎廣岳院ハ属す

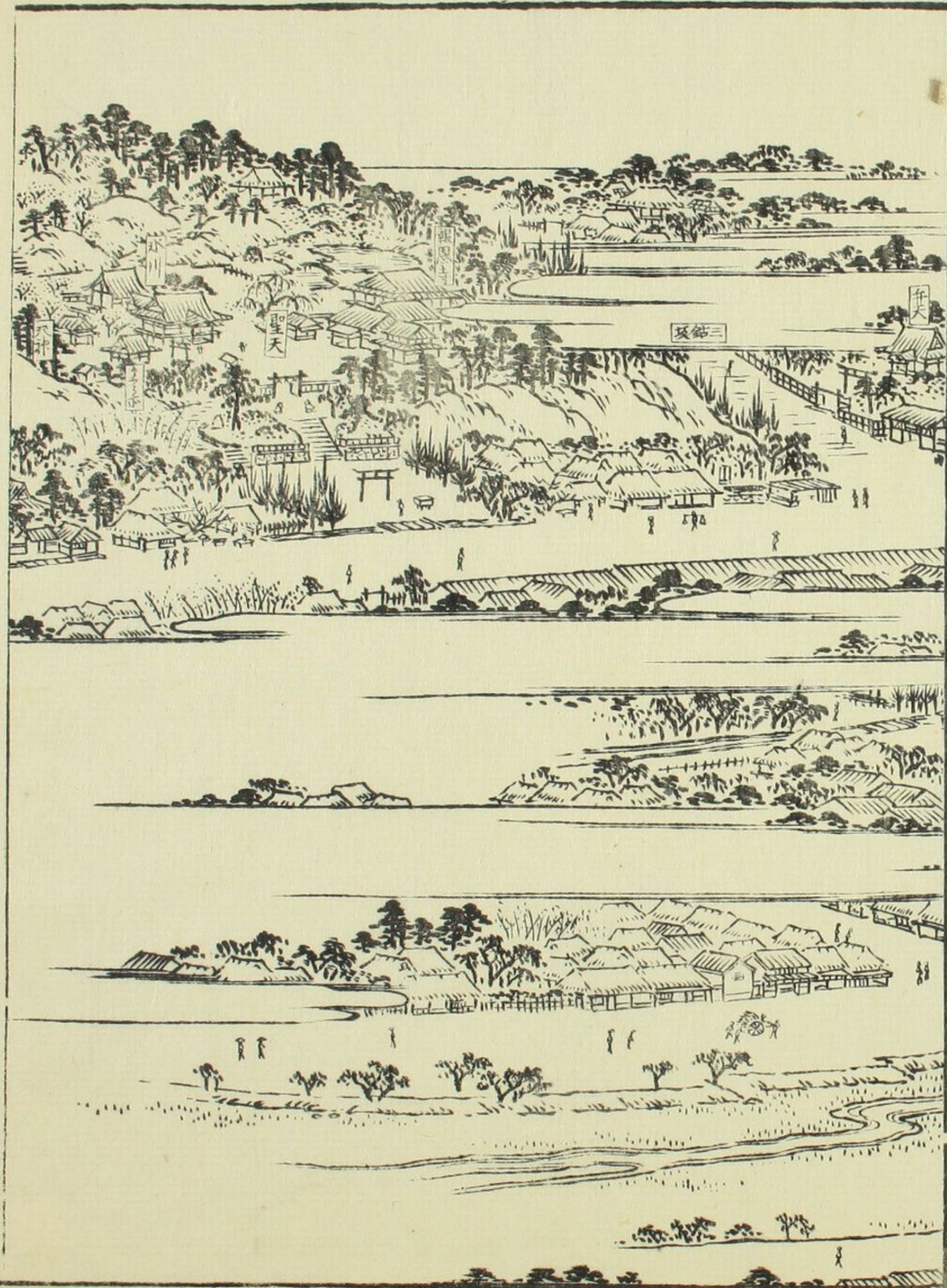
本尊十一面觀音 世ハ表裏觀音とも稱す 縁起云聖武天皇の御宇

誓文會誓主勲和州長谷寺の觀音を彫刻なり其り一頃

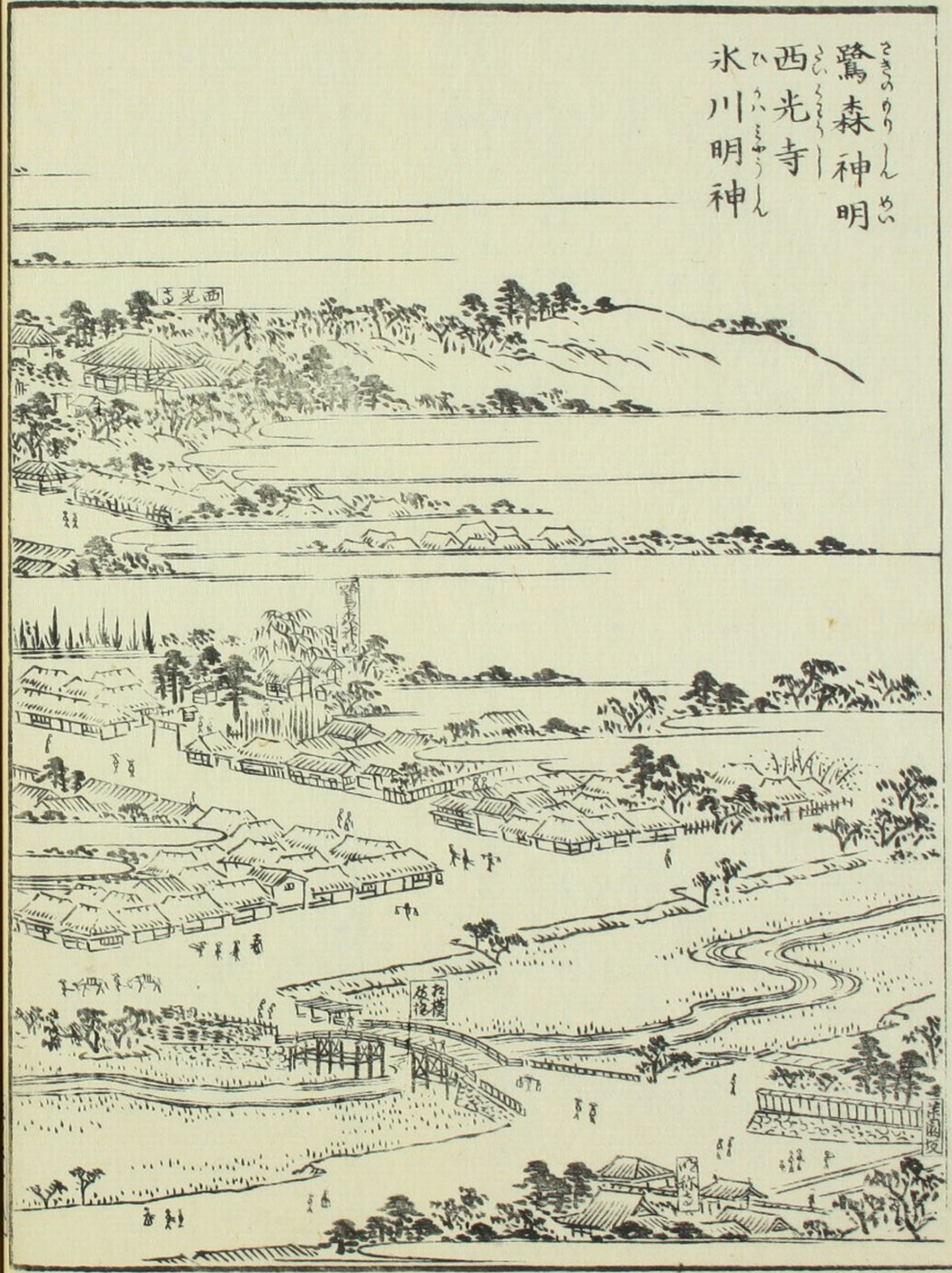
其餘材を以觀音の像七軀を造立し所々安置し 當寺の古

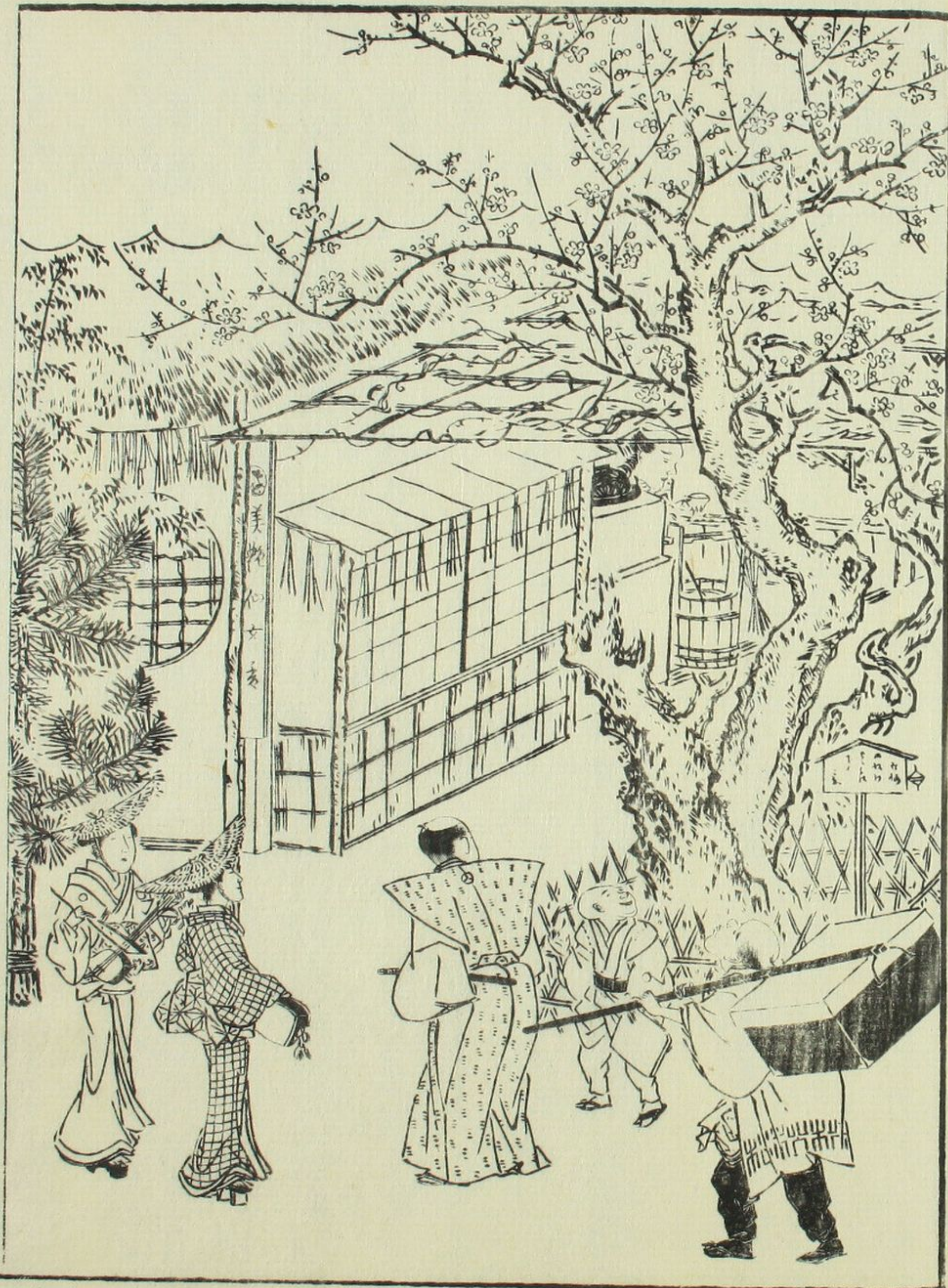
長一寸ハ然上杉謙信此本尊と誓の中に収られし度此

合戦ハ勝利ありしなり信大方あり又謙信旅僧あり立像



鷺森神明
西光寺
氷川明神





二尺の千手大悲の像を附属せられしより先の小像哉
其佛胎の中に籠られしより往昔佛工定朝信州善光寺に
赤篋せし頃彼寺焼亡も其時灰燼の中一本の柱焼残りし
あり寺僧は問は此柱ハ喪喰の柱と稱し當時初建立の時老
翁此木を負来り西の柱とせしと云終る後其形方を志す
然る件の柱より夜く光明を放つ中ハ虫食する跡自然ハ文字
をなせり

待倦く恨むと云々皆人のつゆとつとを急うさるん

とあり依り虫食の柱と云を此柱三度焼亡の其火災を除け
今亦存し今又妙と語る然る亦夜寺内の僧徒皆夢
々々此柱を以て像材と佛工定朝とて観音二軀を彫
刻せし一軀ハ善光寺よと一軀ハ笈小移しなり結縁の爲
定朝は自ら脊負し諸國を経歴せむ故やありとむ上杉

花

家ハ傳りありしと後當寺に遷しなるとのみ

城天満宮

同所南の方あり松久寺とて禪林ハ安置に

神躰

菅公の御作なりとて相傳ふ仁和二年菅公四十

二歳よなりせし春除厄の爲は自彫刻しあり

十五歳の時史を眼

以て腰蓋とす今ハ別安置し又云此像ハ延喜元年大宰帥に左

遷せしと彼地に至る頃河内國土師里に在る所叔母君の

方へ立寄らせし御記念中とてなせられし肖像なりとて

文祿の頃加藤家の臣山田氏

其あり當寺に安置しなりと云

英

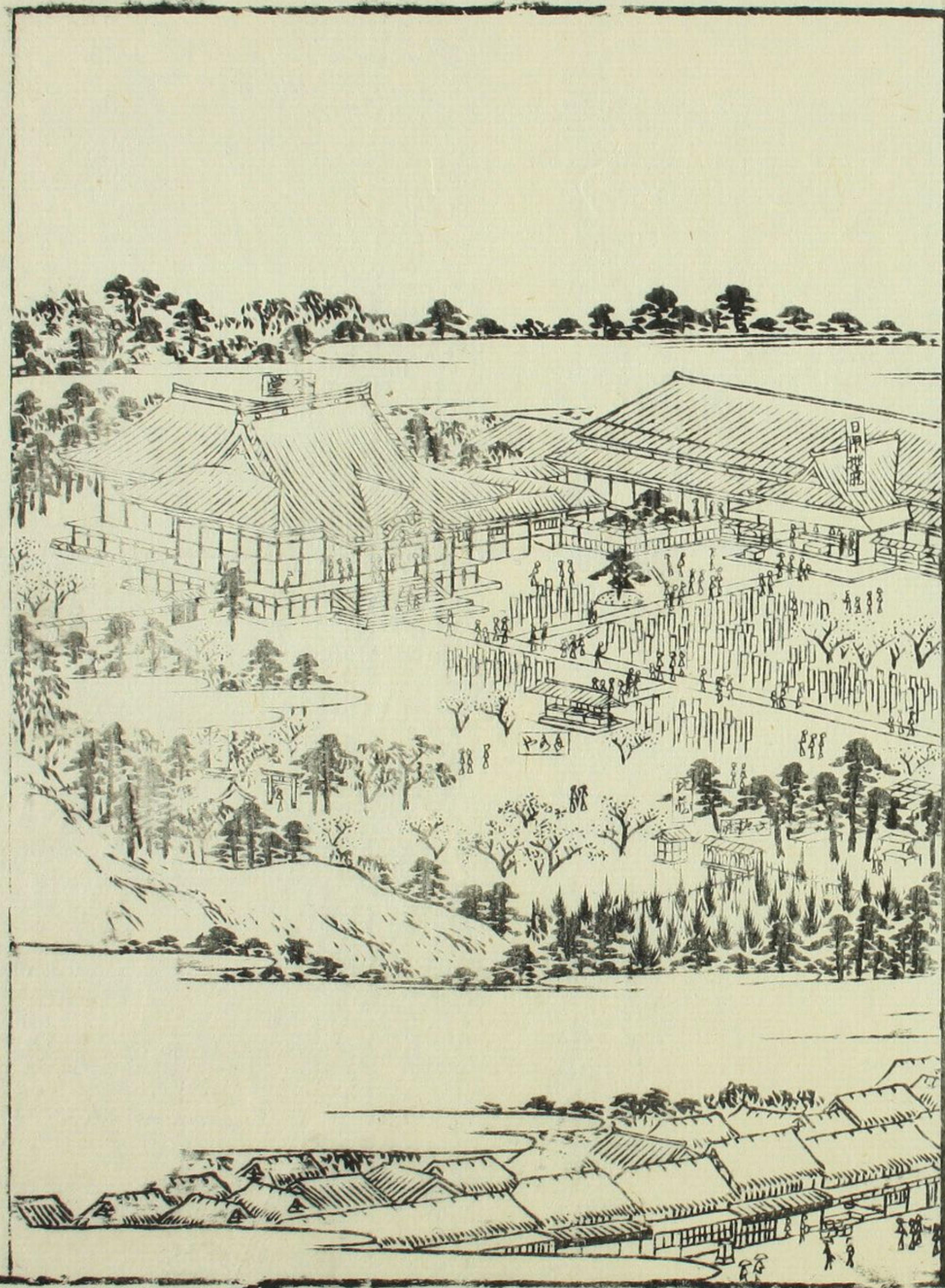
一蝶翁墓 同所より二町を南の方ニ本榎の通り左側兼教

寺あり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名朝湖とて曉雲

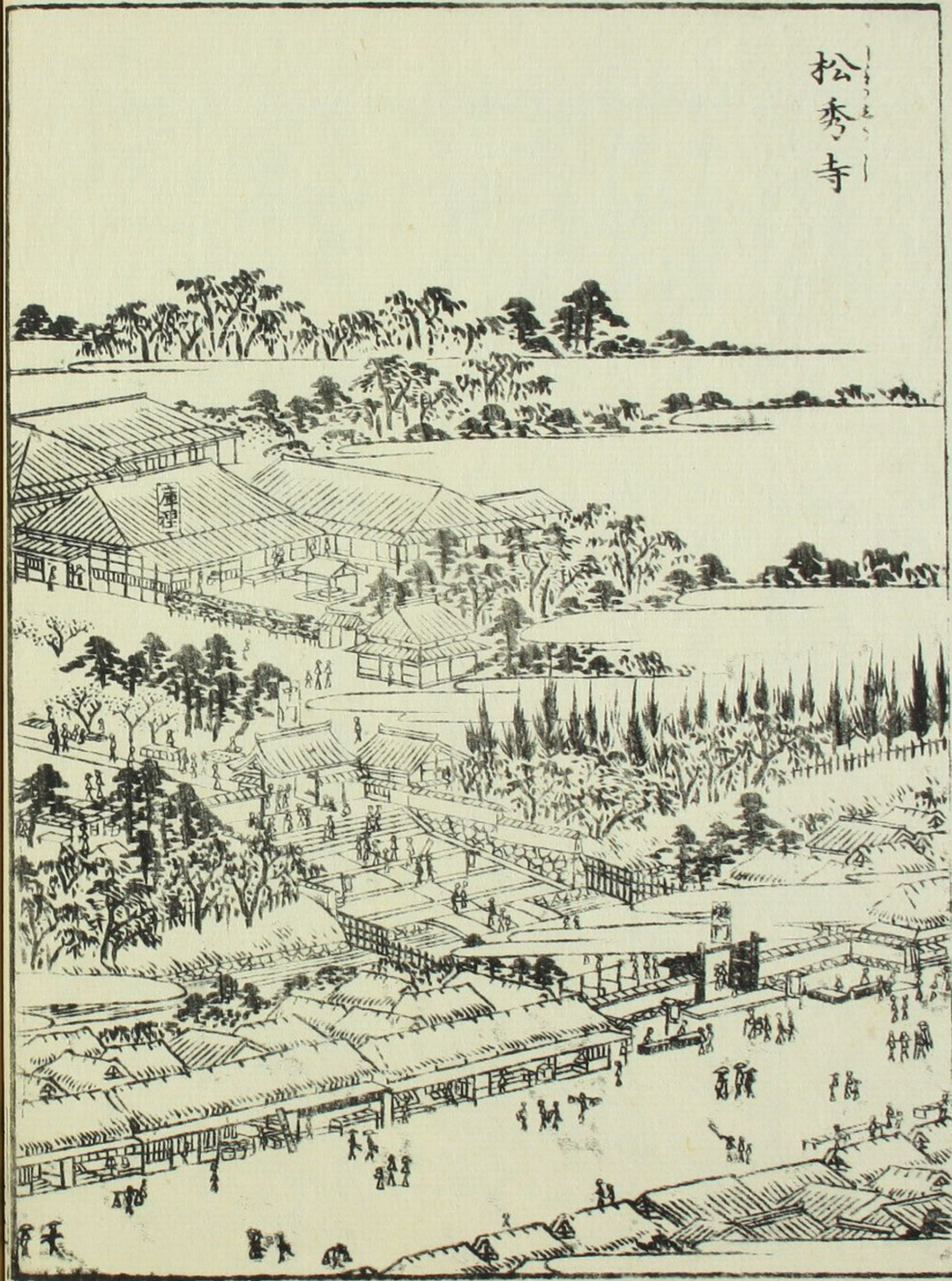
翠蓑隣樵等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信に受

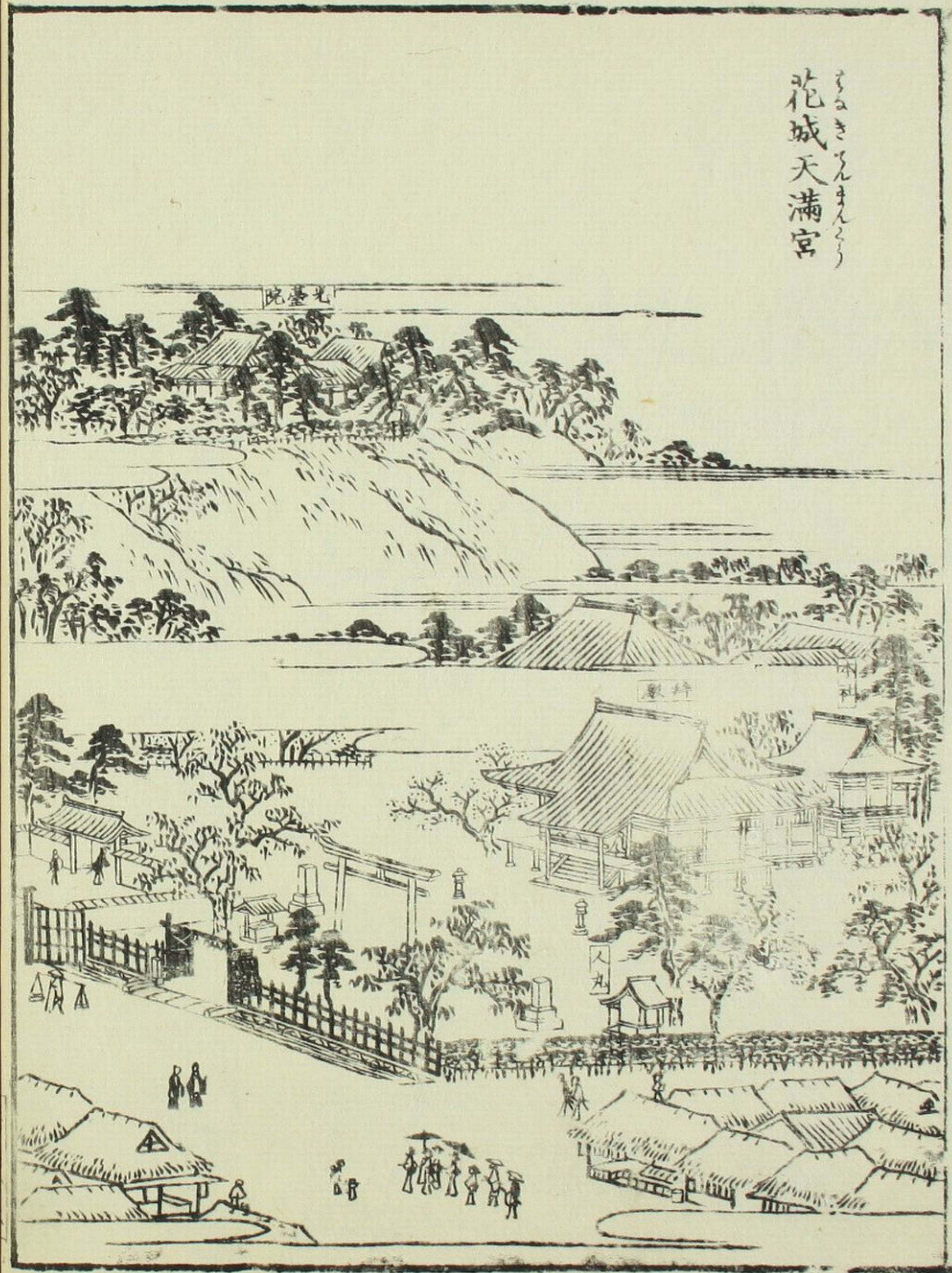
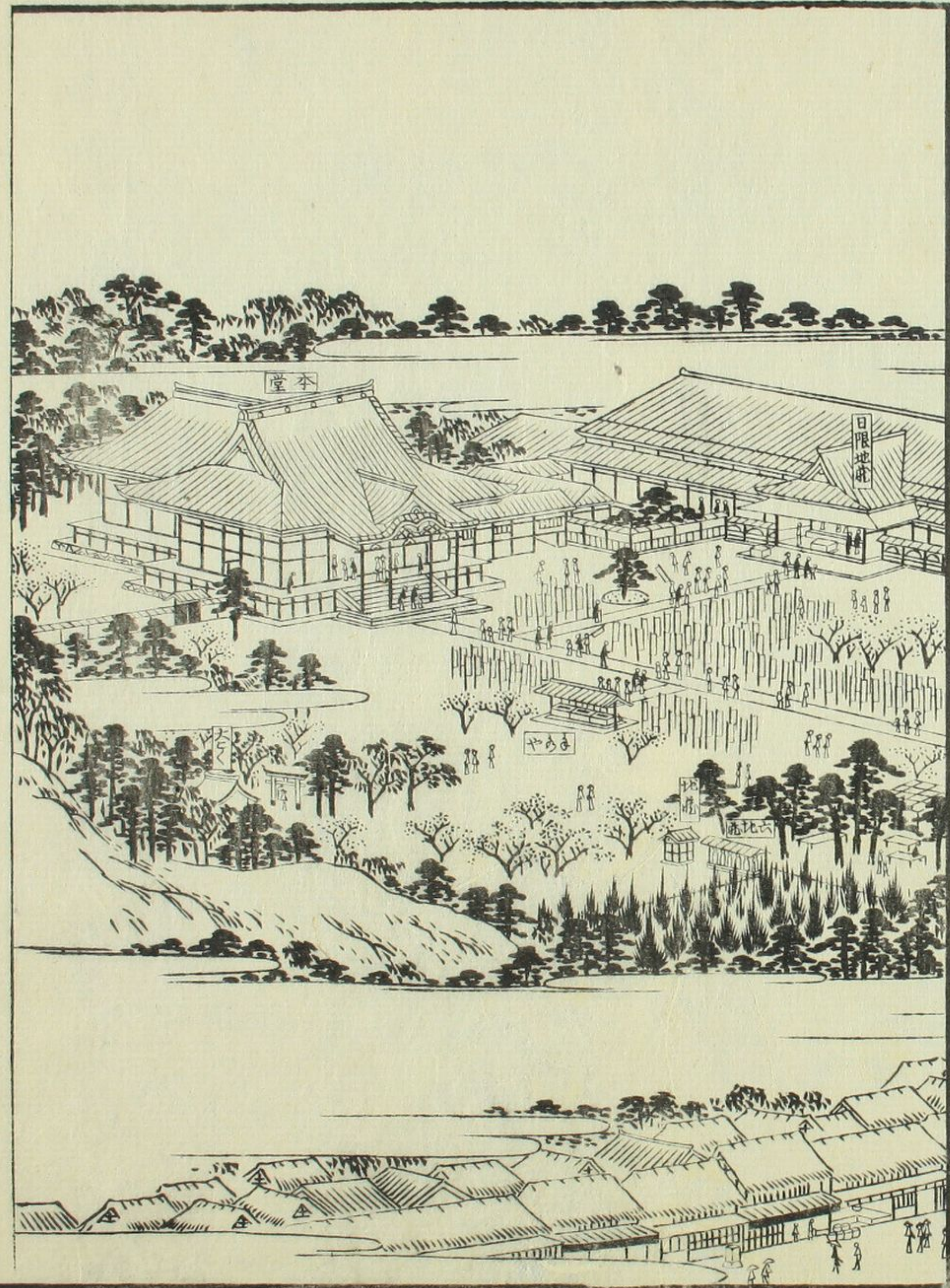
尤新意洒落なりとて後一家をなせり然る元祿中事ハ坐す

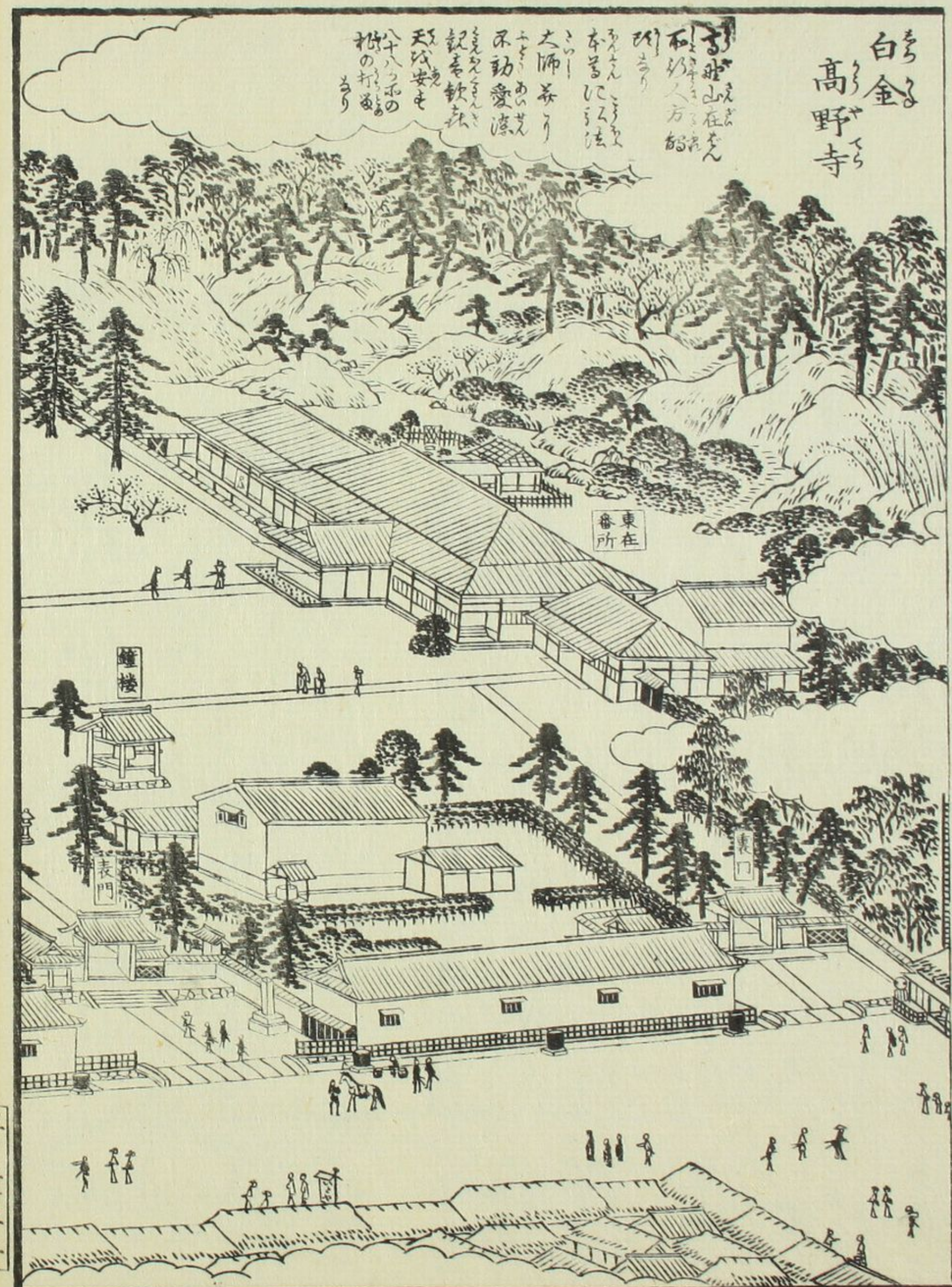
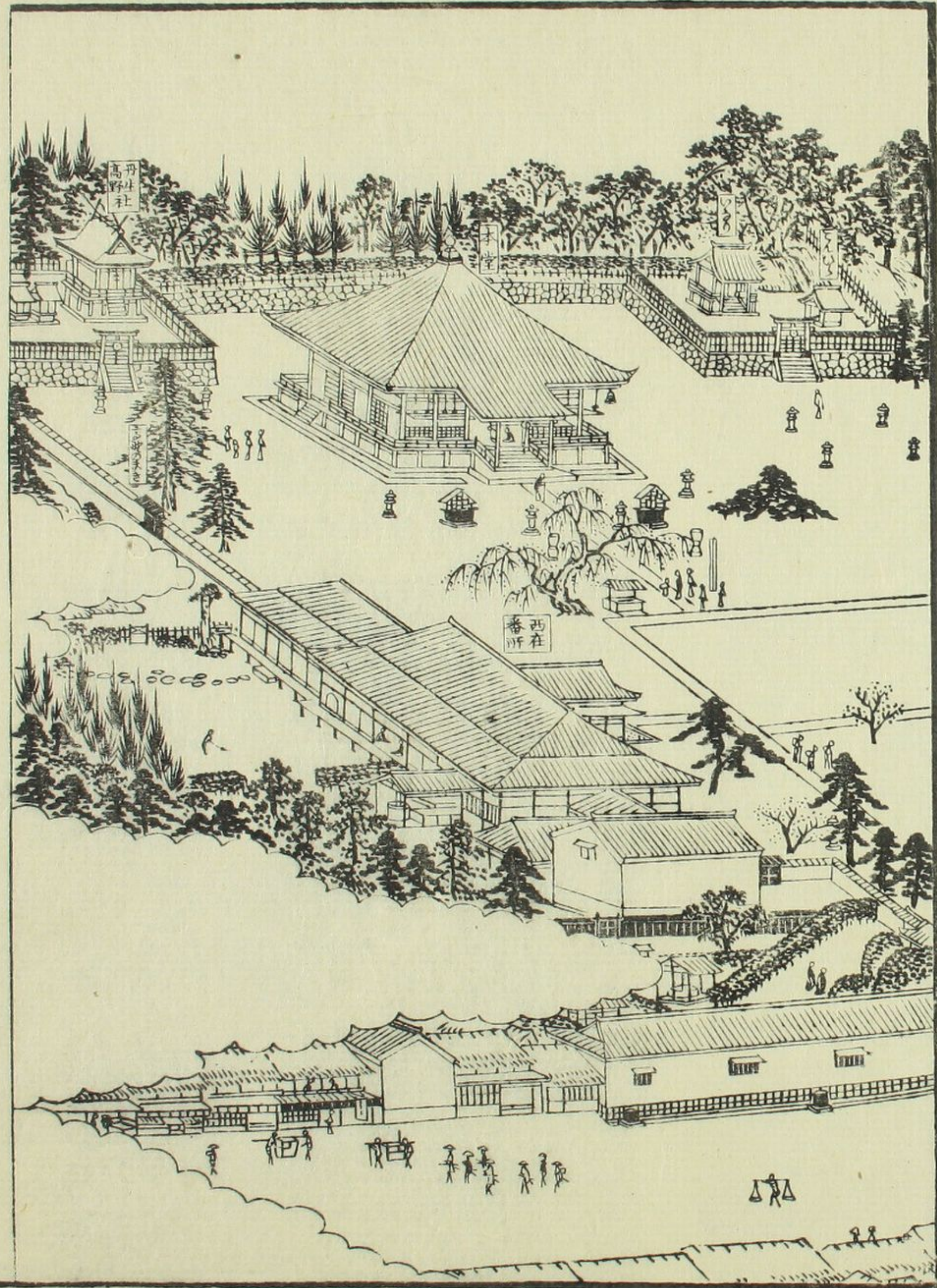
豆州三宅島に謫せし居り十餘年其技益進む宝永己卯故



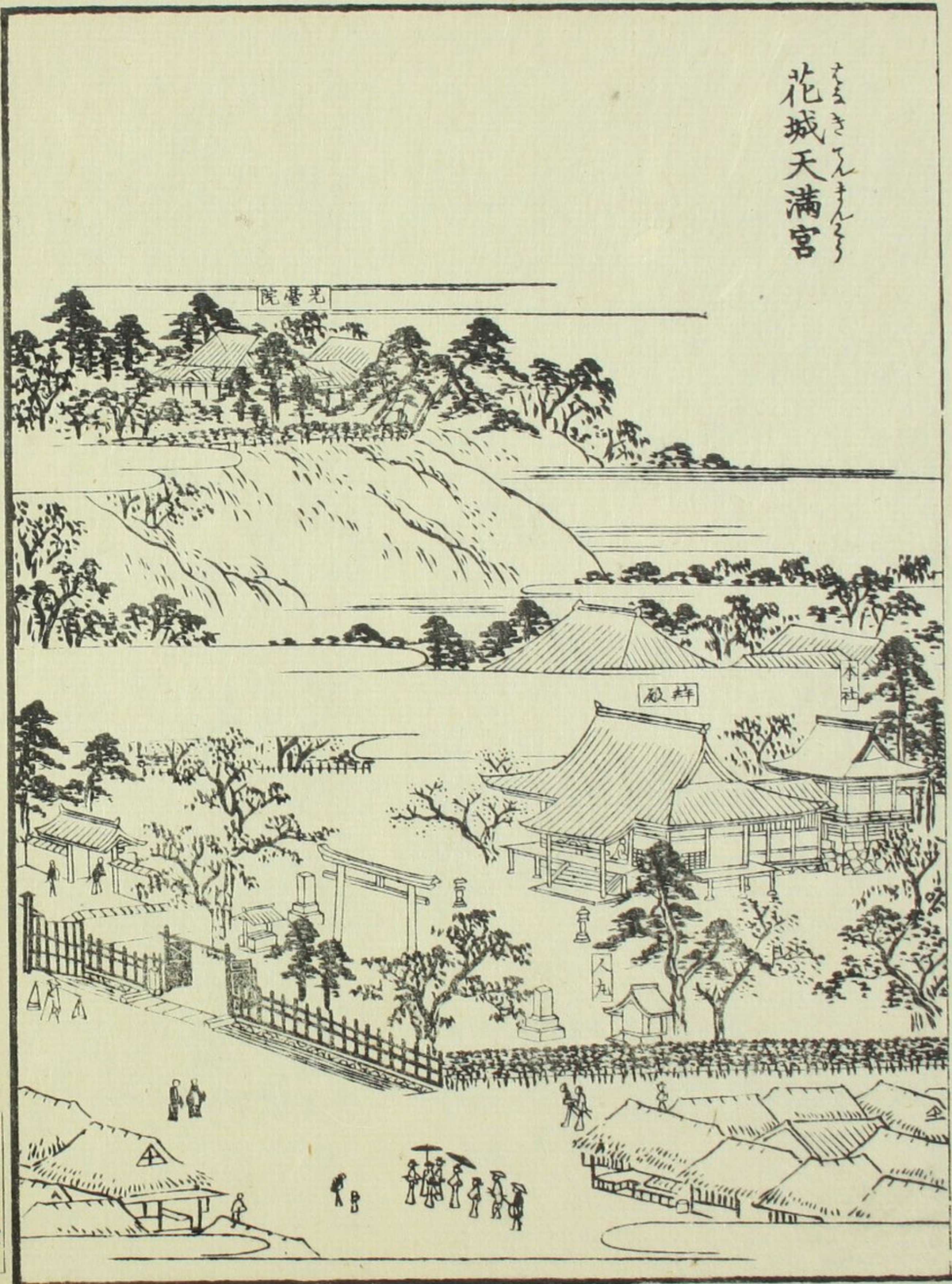
松秀寺





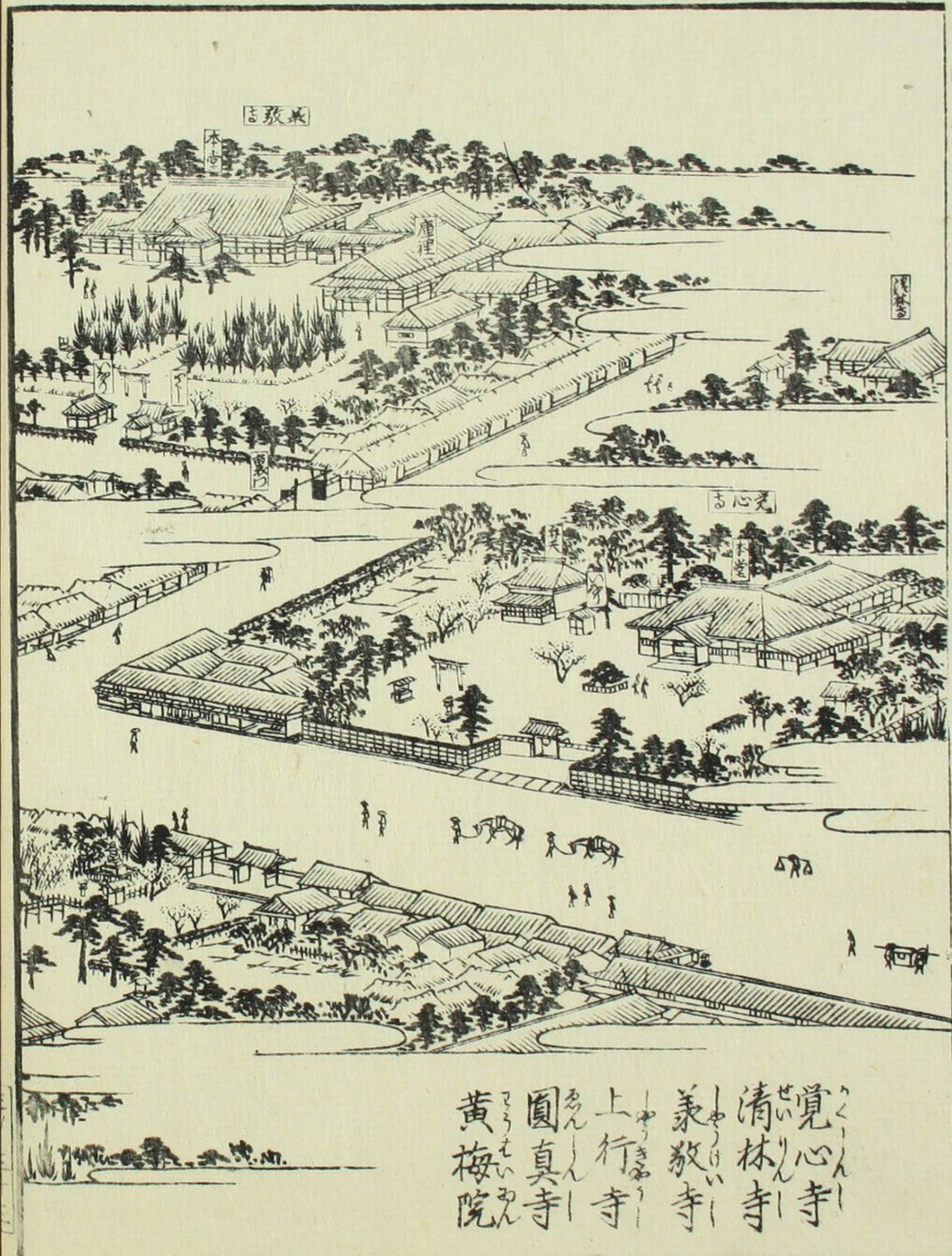
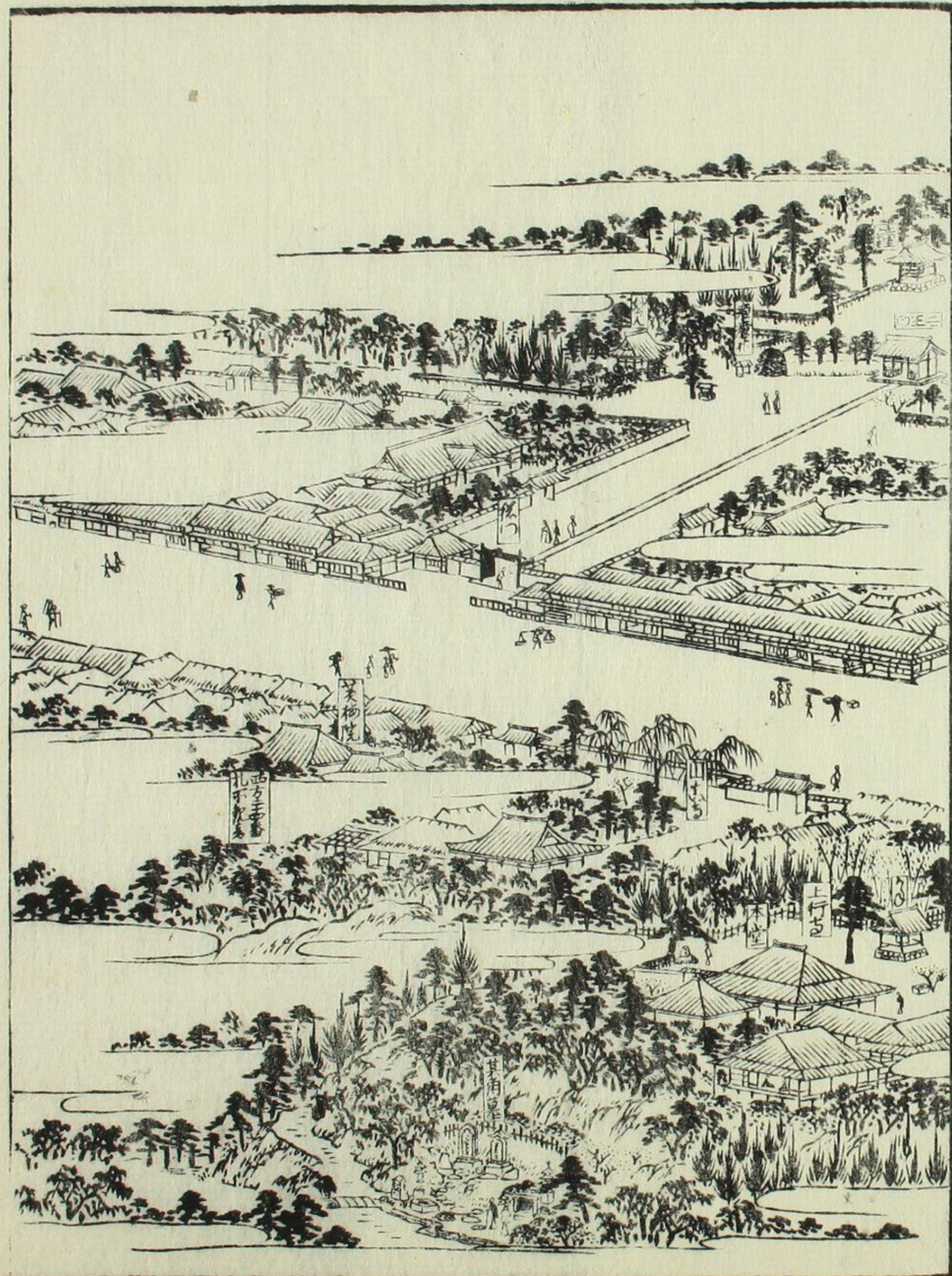


花城天満宮
なまきんまんぐう

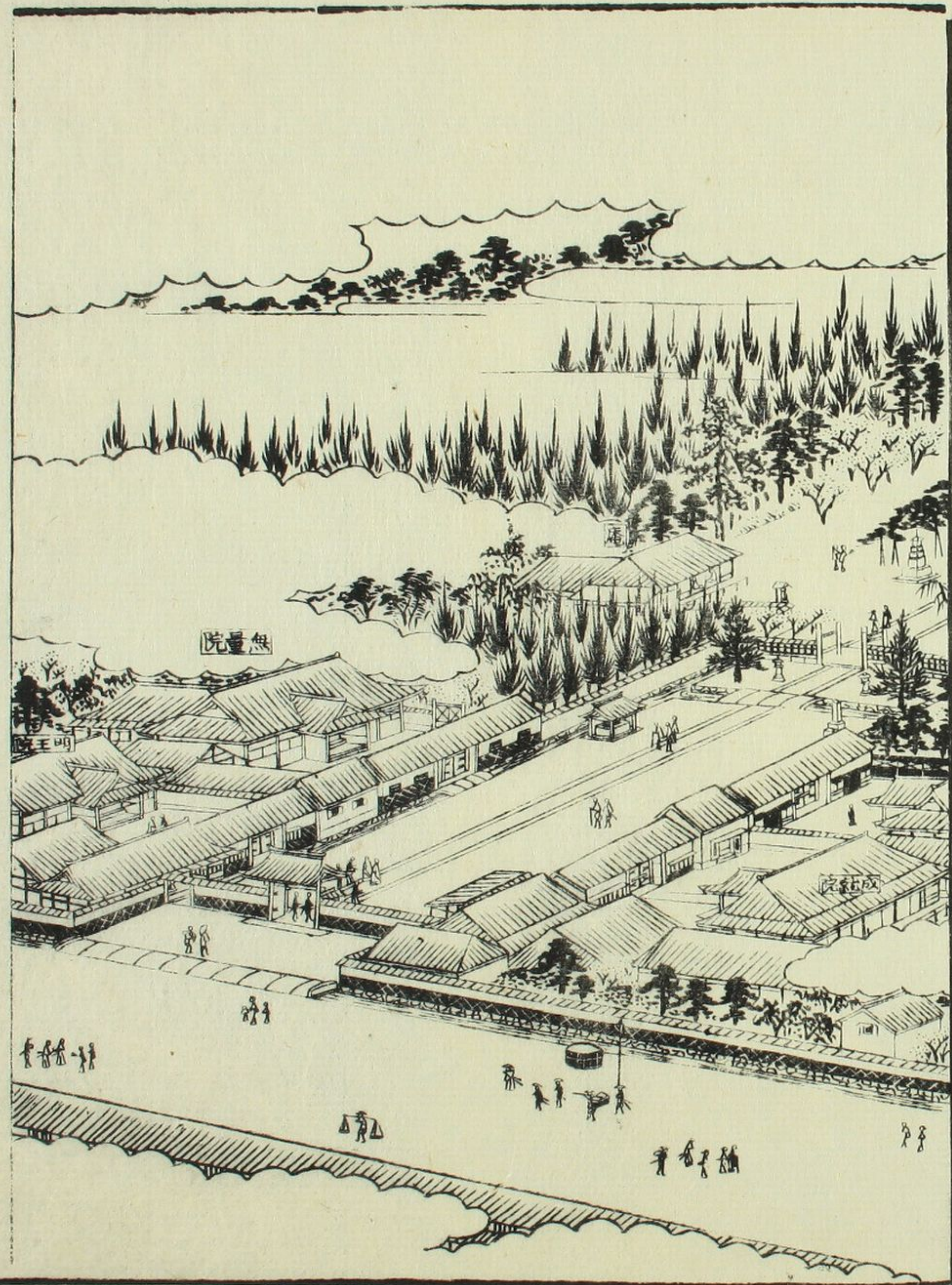


免ありて江戸に帰るるふ於て始て名を英一蝶と改め北窓
翁と号に夫より後ハ畫く所の尺絹片紙人争ひ求めく宝
とを享保甲辰正月十三日享年七十三にて卒す翁生前小
作所の朝妻舟畫及ひ朝清水記等世に傳へく賞美す
俳師芭蕉其角と同時の人なり朋友とく

寶晋齋其角翁墓 同向小側上行寺とのる日蓮宗の寺境に
あり其角姓ハ竹下父を東順とのみ 江州堅田の人 榎木とのみ
其母の姓なり 儒ハ寛齋先生小学ひ詩ハ大巔和尚を師とに
書ハ佐々木玄龍の教を受く自一家の風あり 医ハ草川氏
某に就て術を得画ハ朋友英一蝶に倣ふ延宝に生れし免
芭蕉翁の門に入り俳諧を学ひ竟に名をなせり 雷柱子
狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及ひ螺舎涉川等の
数号あり 晋子とハ其戯号なり 幼推の頃母が池に住後



覺心寺
 清林寺
 兼教寺
 上行寺
 圓真寺
 黃梅院



堀江町は移り又芝の神明所茅場町多し庵せり事あり
五元集其余の俳書ふんそくを宝永四年丁亥二月晦日卒次
亭奉四十七著所の俳書凡二十餘部各世に移る

高野山宿寺

正覚院と号し真言古義の觸頭あり世俗高野
寺とのと称せり同所南の方一丁ゆふあり本堂の右の方丹生高野
像なり四十二歳ありせり門を入る本堂の右の方丹生高野
兩神の祠あり堂前小三鉢松あり毎歳三月廿一日沙影供と
修りせり

雉子宮

同所篠原町の坂口よあり此辺谷山村の内あり或官家の妻北高川鎮大崎云慶長の頃
御放鷹のめ此社へ雉子一羽飛入り其時神名を問せられ
し土民山神の祠ある由上りられ己後雉子宮と唱へしと
上意ありて号しかく号しその祭礼は毎年九月十五日は修りせ
別當八宝塔寺なり

鳥のた

雉子の宮あり

かりかろる人もあるときこの食里を記せしむらん茂睡
按て當社ハ武蔵國風王記ハ所謂荏原神社あり同書ハ荏原神社ハ祭神
天手カ雄命あり天智天皇六年始神礼ありと記せり當社を山神と稱
するハ旧より信州戸隠の御神と祭る所ありと云ふ

元三大師堂

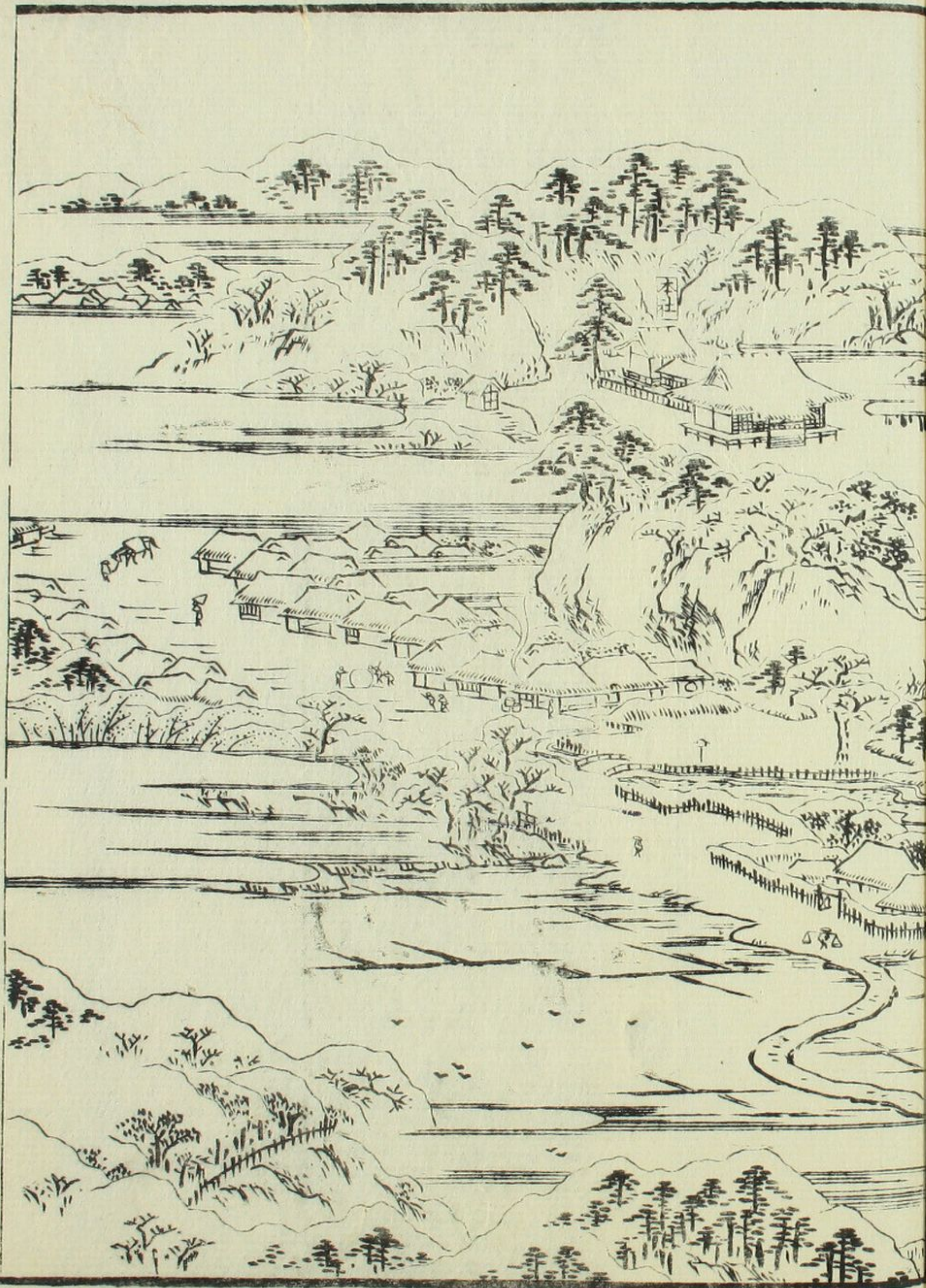
同所白雉山宝塔寺とつる天台宗の寺院に安置し
當寺ハ則雉子宮の別當より本尊ハ東叡山の元三大師に画
像と同筆の真影ありて靈威照く例月三日開帳あり此
辺と大崎と云古ハ海濱あり此地あり東の方品川迄の間袖の
形は似たりと袖崎とも呼ばる

紫雲山瑞聖寺

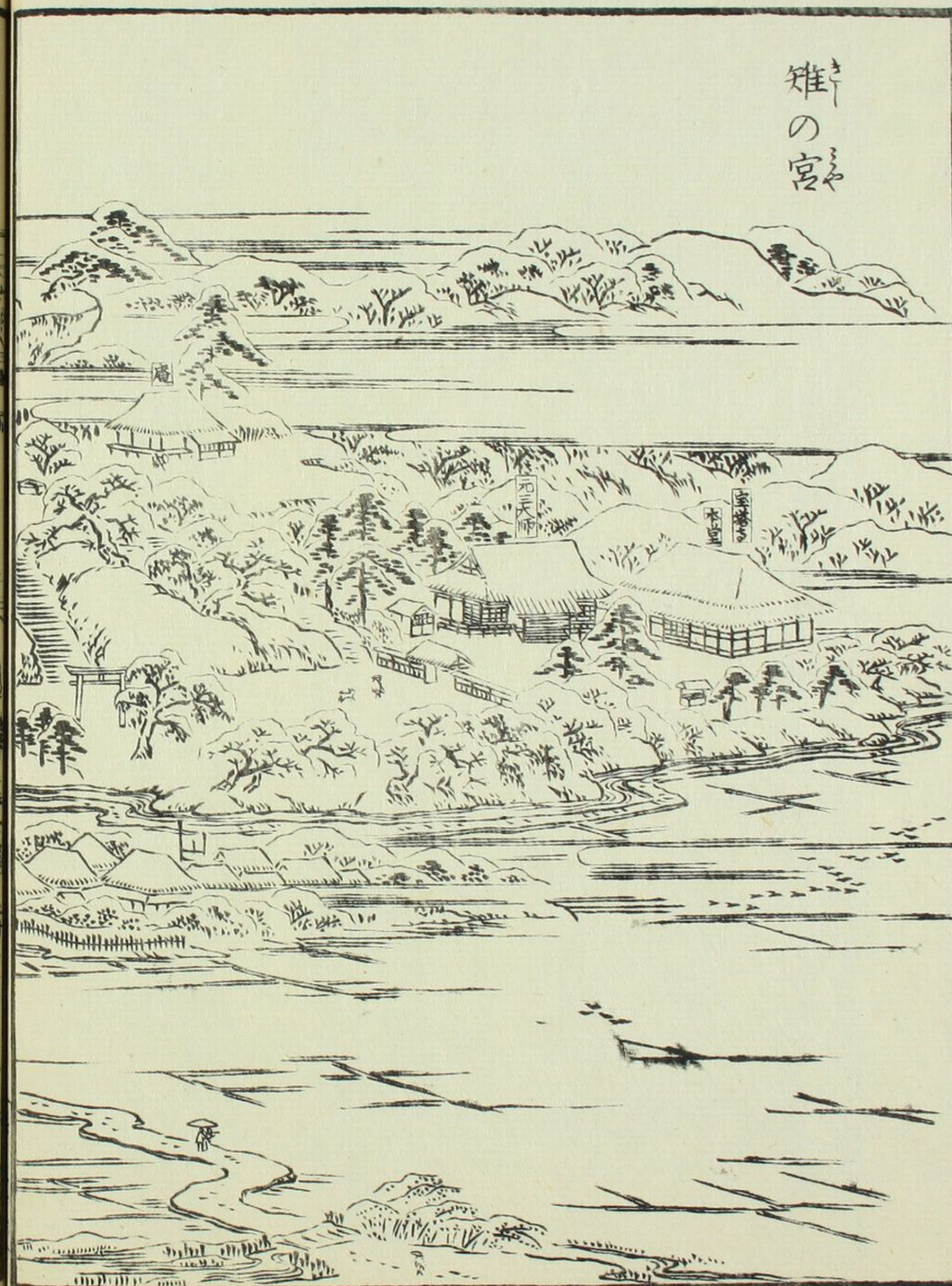
白銀臺町あり黄檗派の禪林なり寛文
年間木庵和尚開基鐵牛和尚も當寺に住佛殿ハ釋迦如来脇士ハ迦葉
阿難等の像を置て毎歳七月十五日大施餓鬼あり

前銘并引

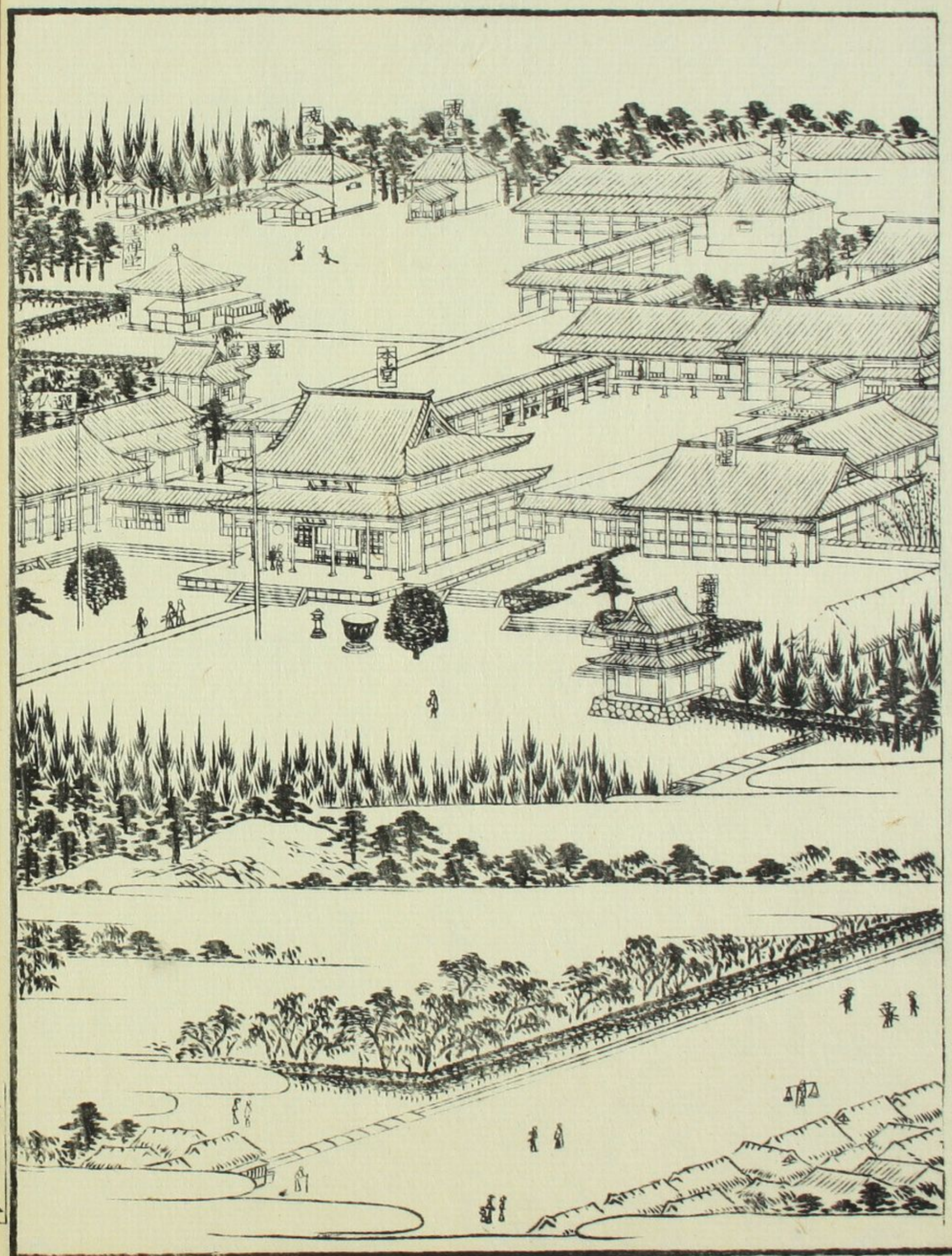
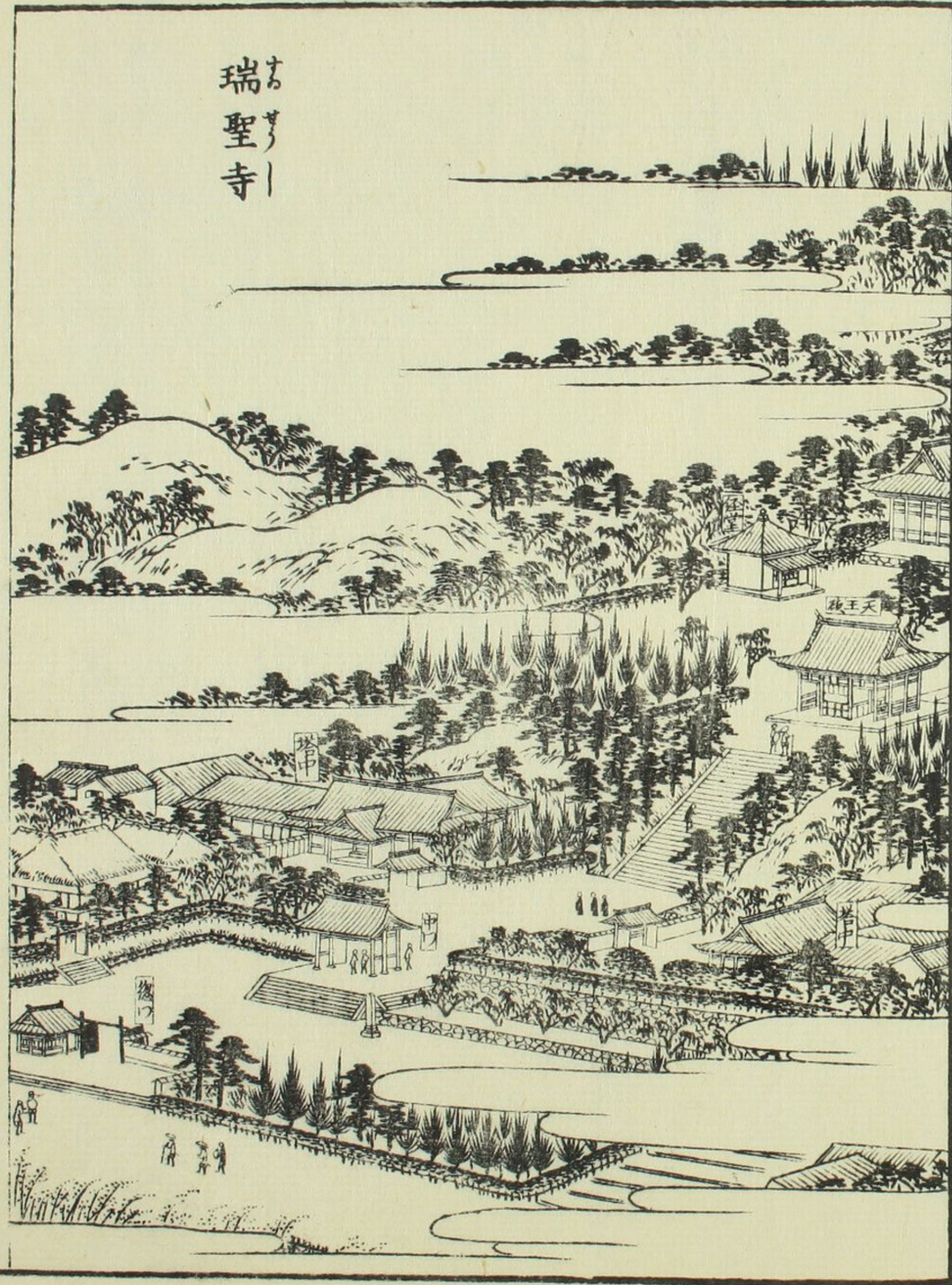
武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禪



雉
の
宮



瑞聖寺



遊佛場

軒て黄き檠ま木こ庵あん書かあり

聯れん當たう寺じ三さん十じゅう三さん書かあり

牌堂額

報恩卷

雲宗筆

大用現お時銀山鉄壁以透る
全杖活友安不坐電光松尾庭

當寺ハ寛文十一年辛亥しんげい青木あおき甲斐守かいしゅ端山居士旨と奉りて此地お
就く一精舎を営む題當寺黄檗本師を請りて閑山と閑堂の日
鐵牛和尚てつにゅうわうしやうびび首座としゆざ秉拂提唱せむ甲寅秋黄檗
和尚再わうしやう瑞聖ずいせい住師しゆし命いのち分座ぶんざ説法人天悦服てんえつぷく乙卯
三月和尚旨と奉り師を以て紫雲の継席と遠近の道俗来て
戒を求む者指を屈くつせしし丁巳春大清主左都督揚
大神師の道化と慕ひ三章を贈る其一曰臨濟正宗三十三世其二曰僧
関法長其三曰鐵牛株印
明漢り五百大阿羅漢の像五十餘幅ありひ師の肖像を画く

今猶鎮守の宝と當寺ハ本山の光景を摸擬せる所や

其徑堂頗る他小異あり江戸黄檗宗最初創建の伽藍あり

妙見大菩薩 同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺に

あり足利將軍尊氏公の念持佛ありととり

鎌作觀世音 同西の方一町半斗向小側六軒茶屋町の角真言

宗光雲寺しんこううんじあり相傳ふ神龜年間行基菩薩諸國遊化の

頃信州更級小始て掛錫けかけししああ平山と云所の池中より此本このほん

出現あり又空中より化人ありと鎌かま衣い木きを持もり降臨かうりんし

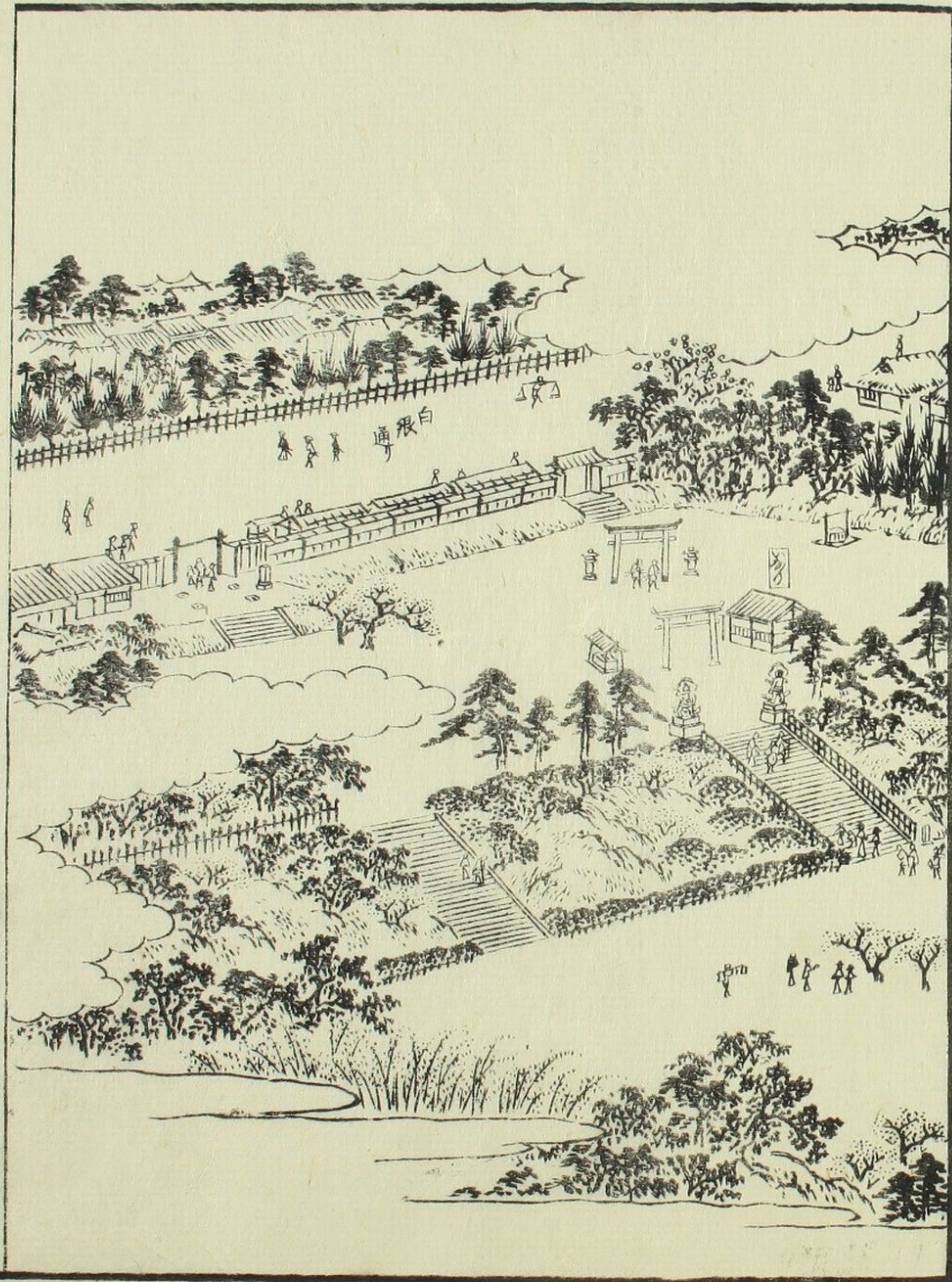
ゆゆ彼觀音のこのくわんおん像このぞうと彫刻てうかくし行基ぎやうきに授たまふたま

誕生八幡宮 同所同一側一町斗を隔つて永峯町ながみねまちあり文明の

頃筑前宇美の地より勸清を祭る所の神ハ神功皇后一座

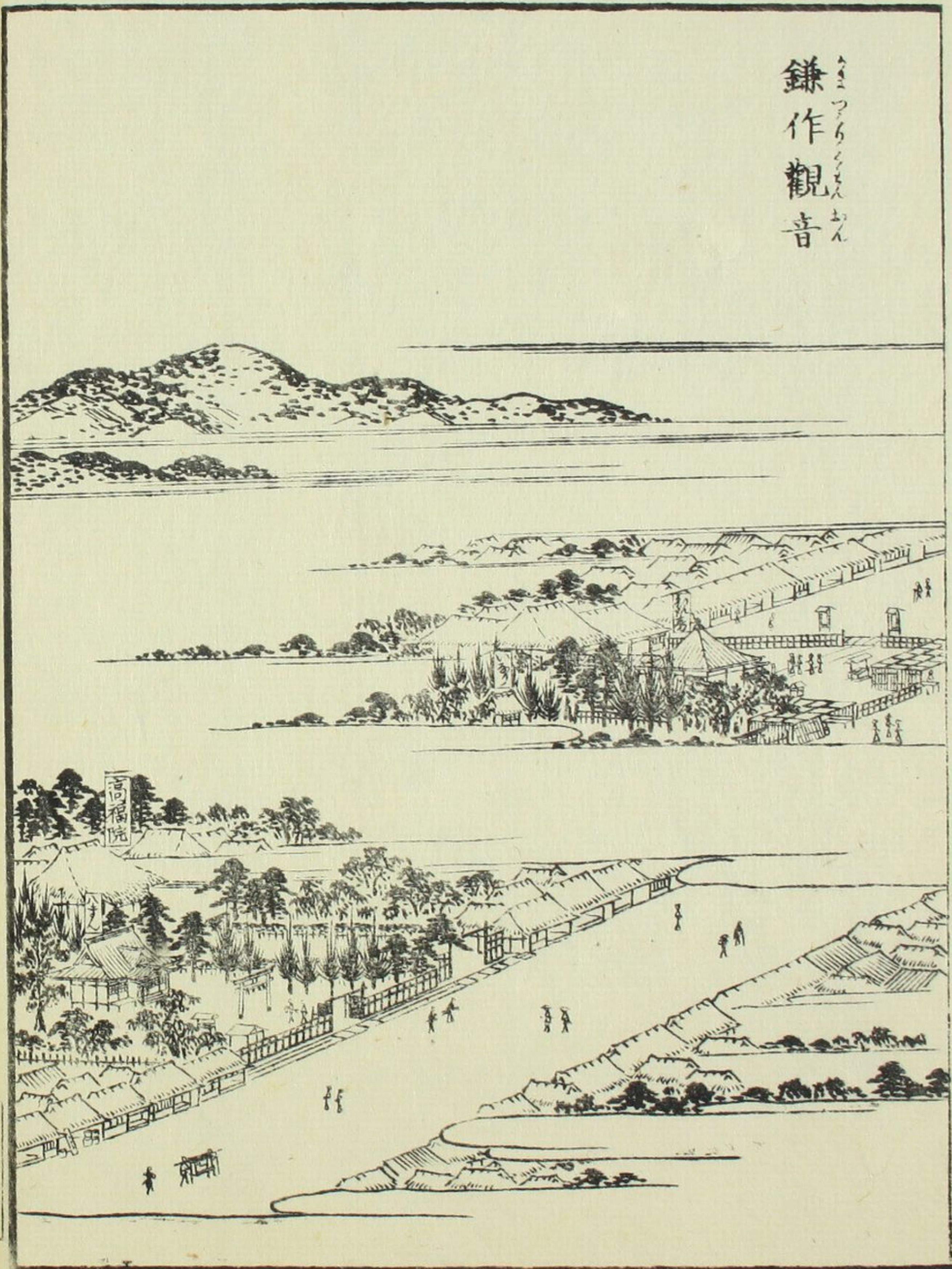
なりな本地佛ほんぢふつハ別當ハ真言宗高福院と号ハ八月十五日を祭

祀の辰とす



白銀妙見堂

鎌作觀音



行人坂

同所同西の方目黒へ下る坂を云寛永の頃湯殿山の行者某大日如来の堂と建立し大圓寺と号す

般若塚 同坂の半道の側あり延享三年林山清林院の本食心誓一道和尚往来の大地成就のふるを般若心経三个巻と書写あり此地中

五百阿羅漢石像 同道の左よりあり明和九年壬辰三月二十八日西此

松樹山明王院 同所坂の側あり天台宗中東叡山に属す

本尊阿弥陀如来脇士観音勢至を安置せり岡山を榮運法師

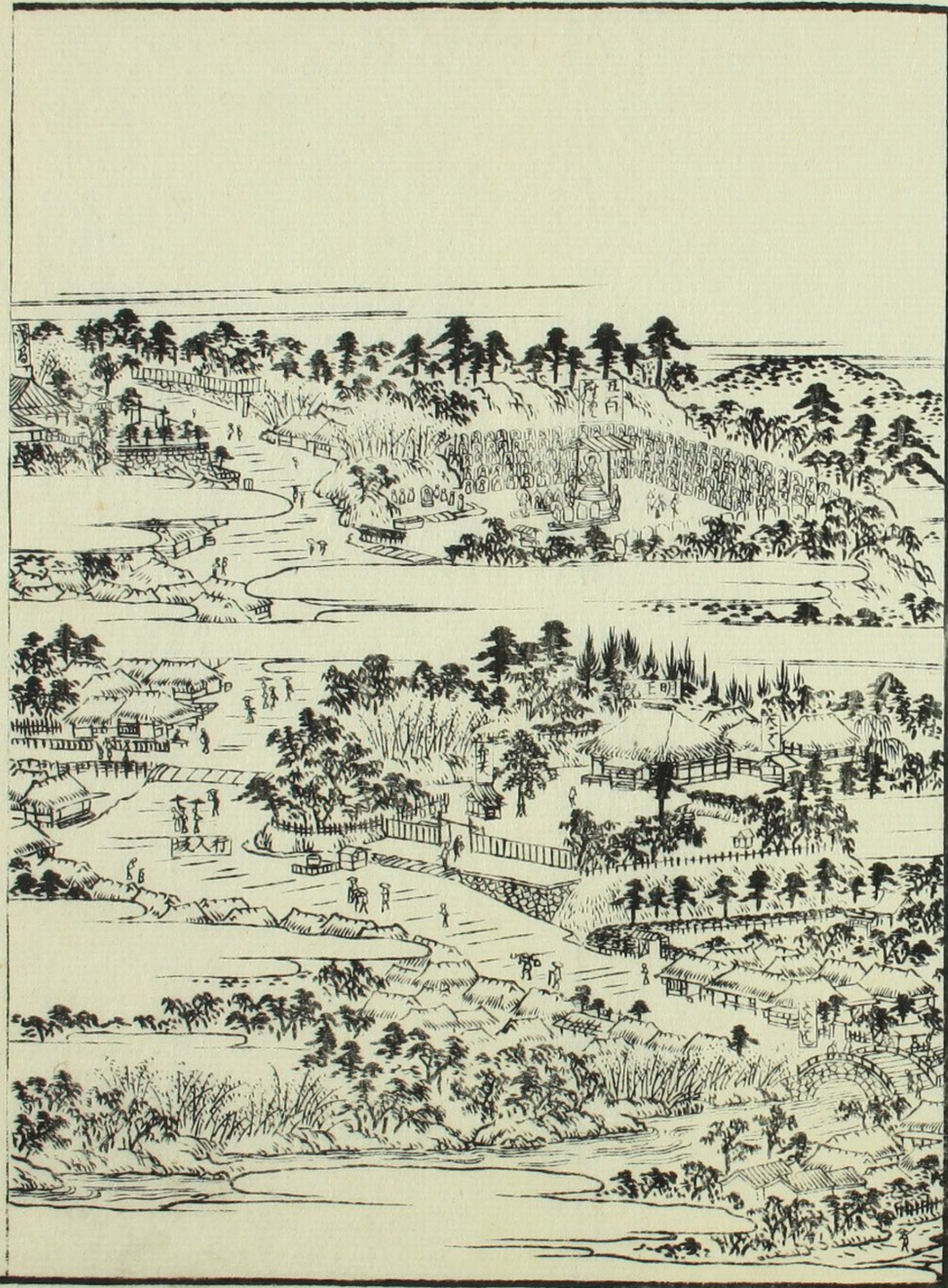
常念佛の道場中頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛

百万遍修行あり此常念佛へ西連とす

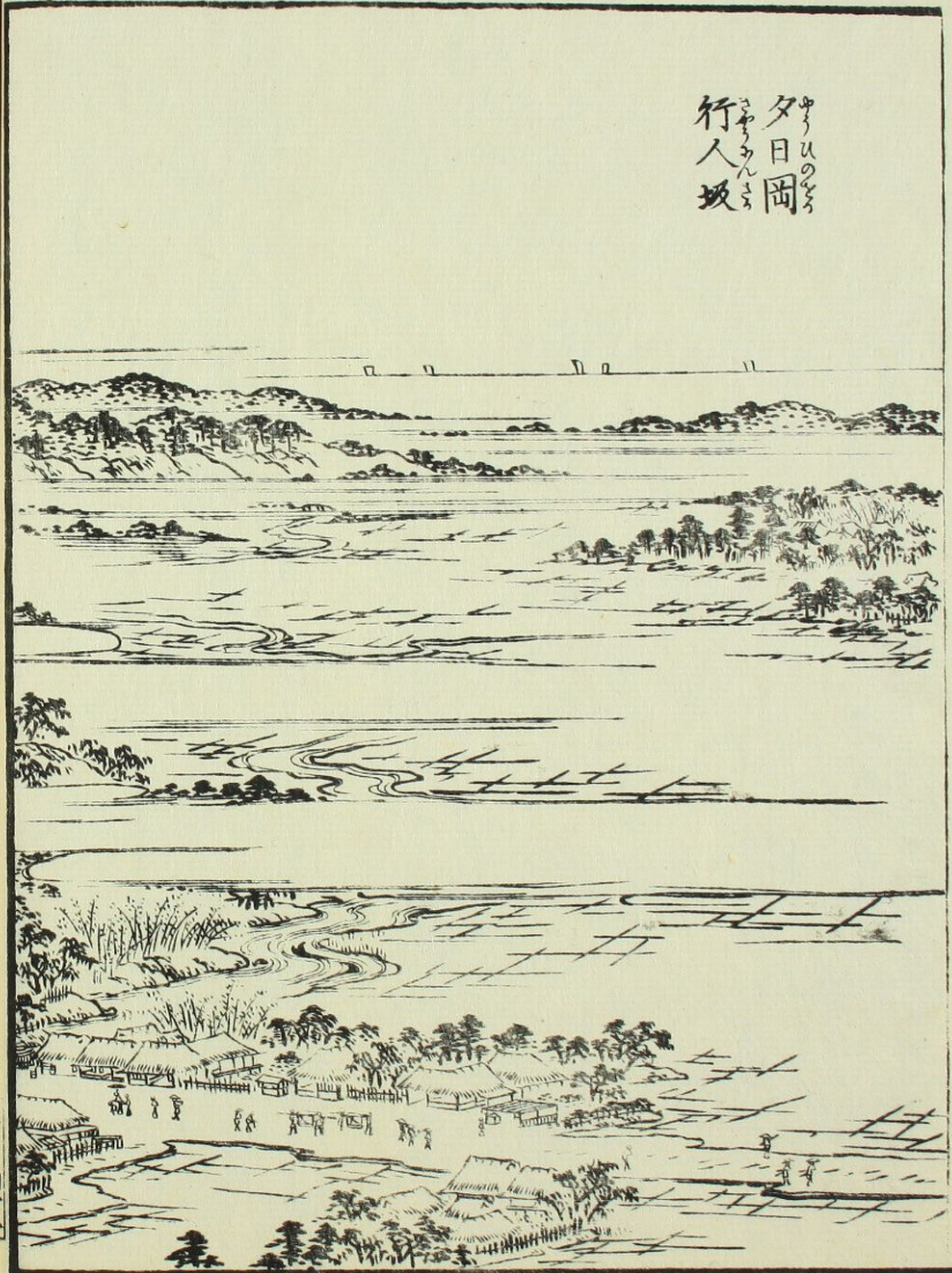
子安観世音 弘法大師の作なり長州糟浦出現の靈像あり元禄元年六十六部

辨財天祠 同境内あり昔よりく彫刻あり一懸念なりといふ

當寺に仙順といふ門信州作久郡三塚村より感得せりと云



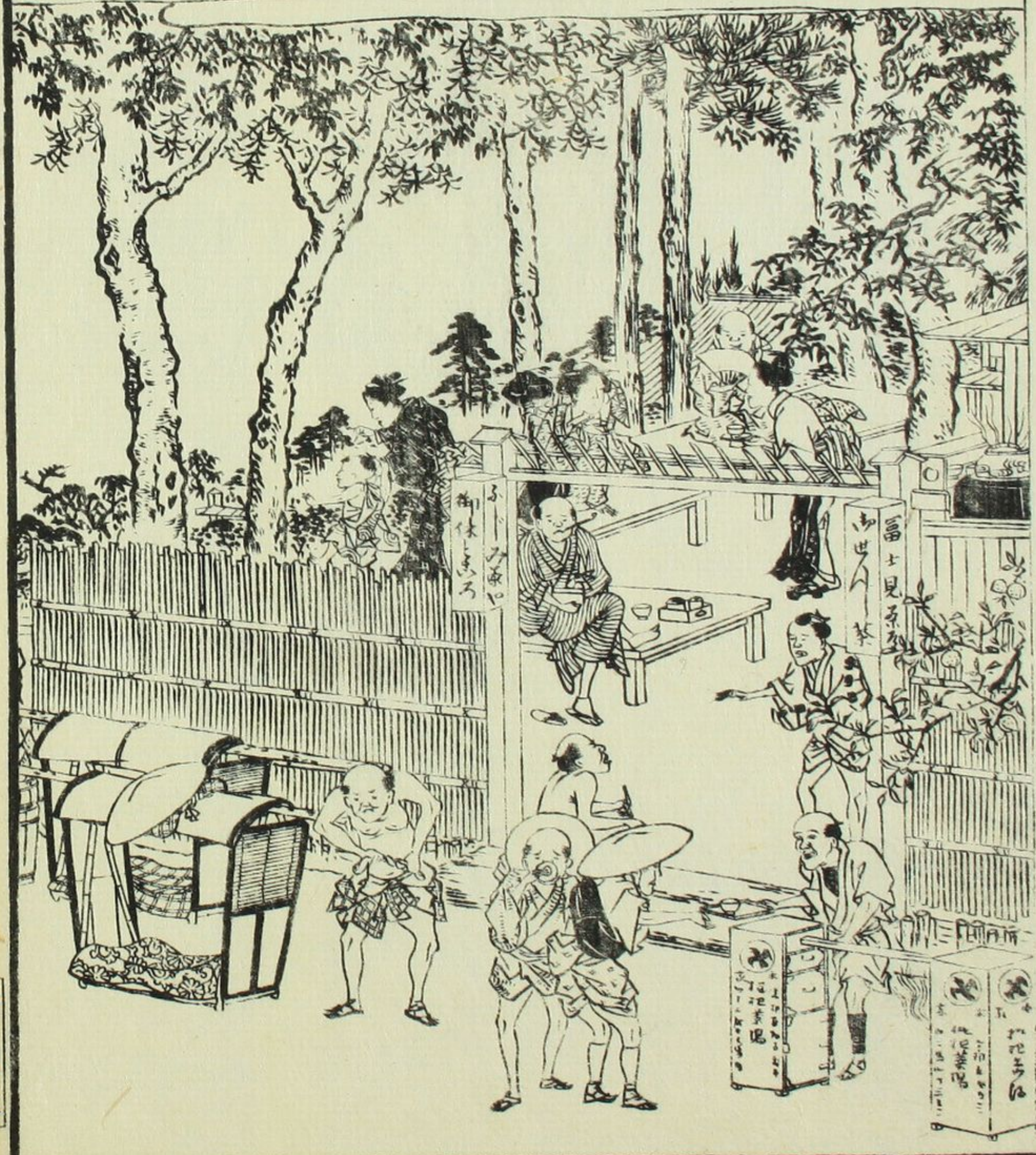
夕日岡
行人坂

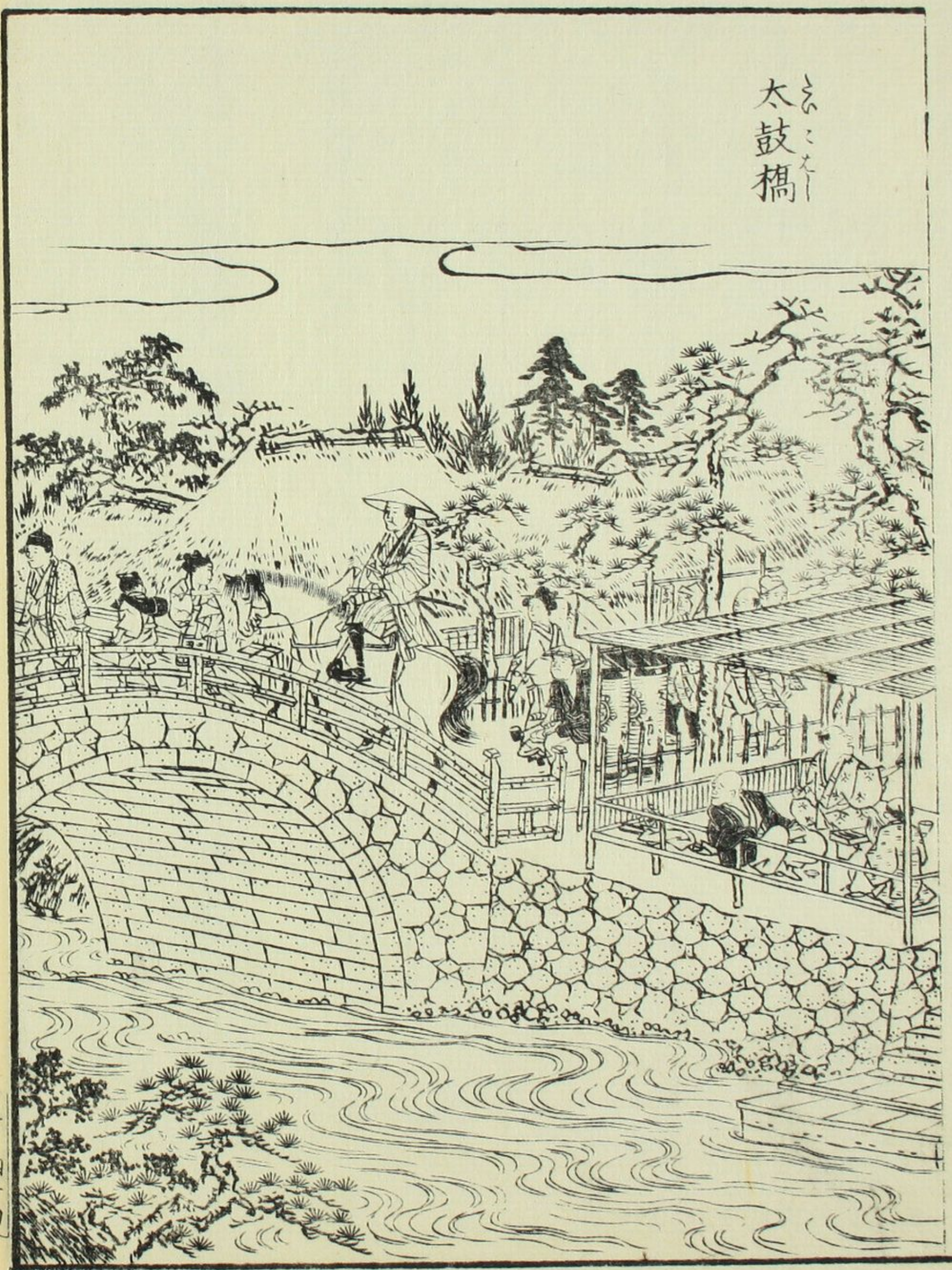


芳時百
 婦一を
 三飯日そ
 抄
 人
 松青飯



富士見茶亭
 西南遙まの
 けく芙蓉の白
 峰を望む風織
 雲を掃く正
 玄冬の色とあ
 りて又姿と
 然として又姿と
 失ふ頃更ほそ
 定る頃なく時
 しく其觀を
 改む実よ
 佳景あり





太鼓橋

夕日の岡 明王院の後の方西に向へる岡をいへる古へハ楓樹数

株拘と交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日は映し奇観ありとありされ

今ハ楓樹少く只名のと存せり

大鼓橋 同所坂下の小川に架せり 目黒川柱を用ひて兩岸より石を

疊みかくし橋とす故に横面より是を望めハ大鼓の胴ハ髣髴

あり故に世俗あり号く享保の末水食上人心誓と是を制する

なり

靈雲山蟠龍寺 安養院と号し同所橋より一町を隔て西南道

より右よあり浄土律や縁山に属せり本寺阿弥陀如来を

慈覚大師の作なり関山ハ吟蓮社龍誓一雨靈雲和尚と号し

上野國新田の大光院より退隱 境内に文六の阿弥陀如来の銅像あり

又後の方山崖の下に岩窟あり中に辨財天を安置せり 弘法大師の

本宮ハ門の向にあり惣門の額に安養院と書せりハ黄檗獨湛

和尚の筆なり

卧龍山安養院 能仁寺と号し同所あり天台宗や龍泉

寺に属せり本尊涅槃釋迦像ハ空誉上人の作なり當寺に

法華讀誦称名念佛の道場なり

蛸薬師如来 同所町家の隅にあり天台宗成就院境内に安養

本寺薬師如来ハ慈覚大師の作なり世俗傳へ云此に多小祈願

ある者ハ蛸を断る是を念むる果し利益ありとく繪馬を

蛸の形を畫し捧ぐ

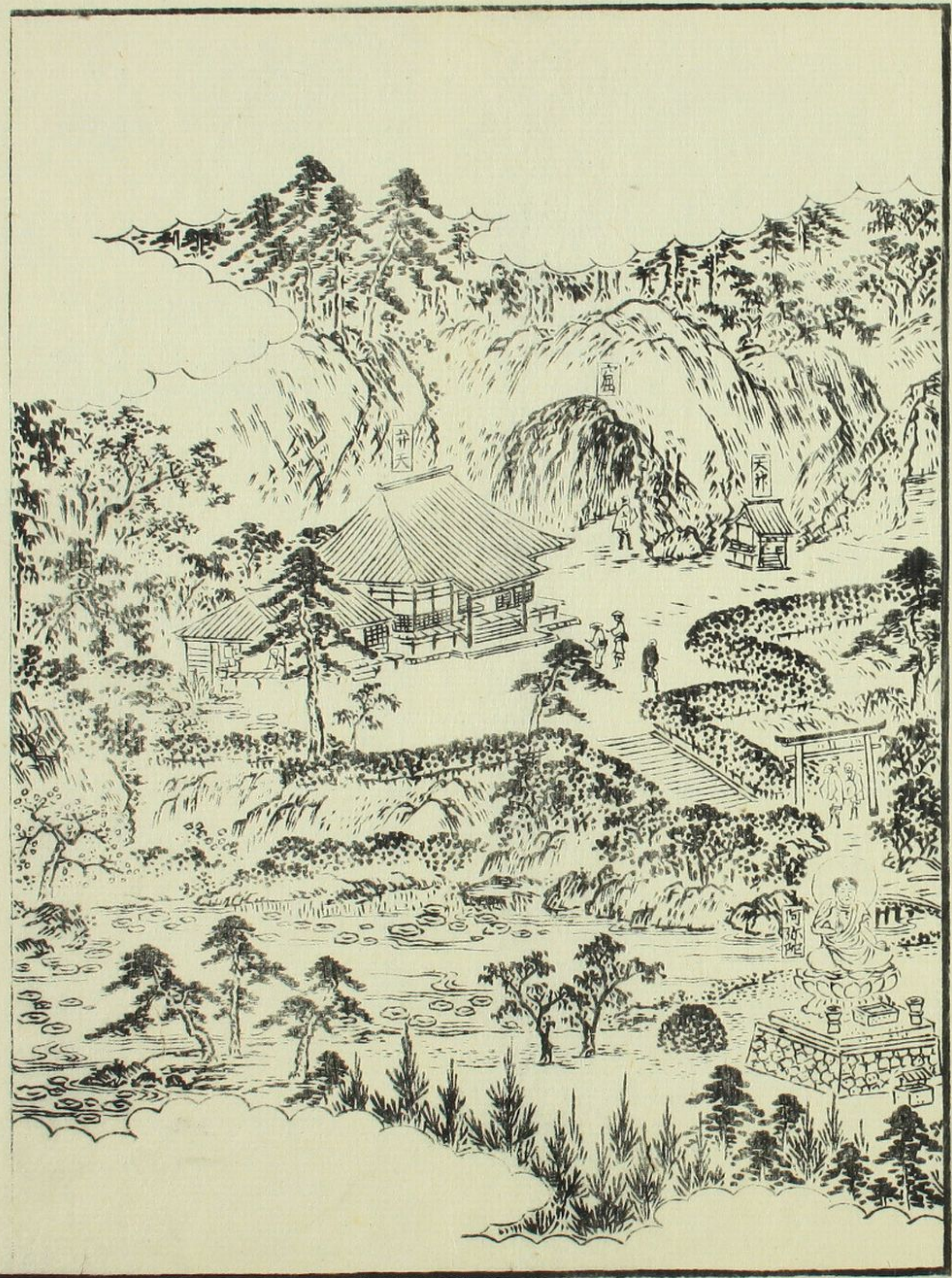
目黒不動堂 同所の西百歩のありあり 泰叡山龍泉寺と号

す天台宗や東叡山に属せり関山ハ慈覚大師中興

慈海僧正なり

本堂不動明王慈覚大師作脇士ハ八大童子なり

本殿額 泰叡山 後西院御筆 樓門額 泰叡山 後水尾帝御筆



蟠龍寺
窟辨天祠



寐釋迦堂



鳥井額 泰嚴山 日光御門主明王院宮御筆

經藏 一代藏徑と安置をせよ 八幡宮 早尾権現 祭神藤田彦大神或ハ

五月十五日あり此堂社 惠比須大黒祠 鐘樓 水神宮 愛添明王 祭神鳥羽大明神或ハ

大行事権現 此地の地主神なり 祭神高皇産靈尊 石不動 右にあり

稻荷祠 地藏尊 掌善掌徳の 聖観音 閑山堂 聖徳太子

天照太神宮 本地大日如来 本堂の後時 山の腰を 吉祥天女祠

天満宮 鬼子母神 十羅刹女祠 虚空蔵堂 遼軍神祠

後小並人起の 結神祠 役小角 女坂の中程あり 銅像ハ 三佛堂 弥陀

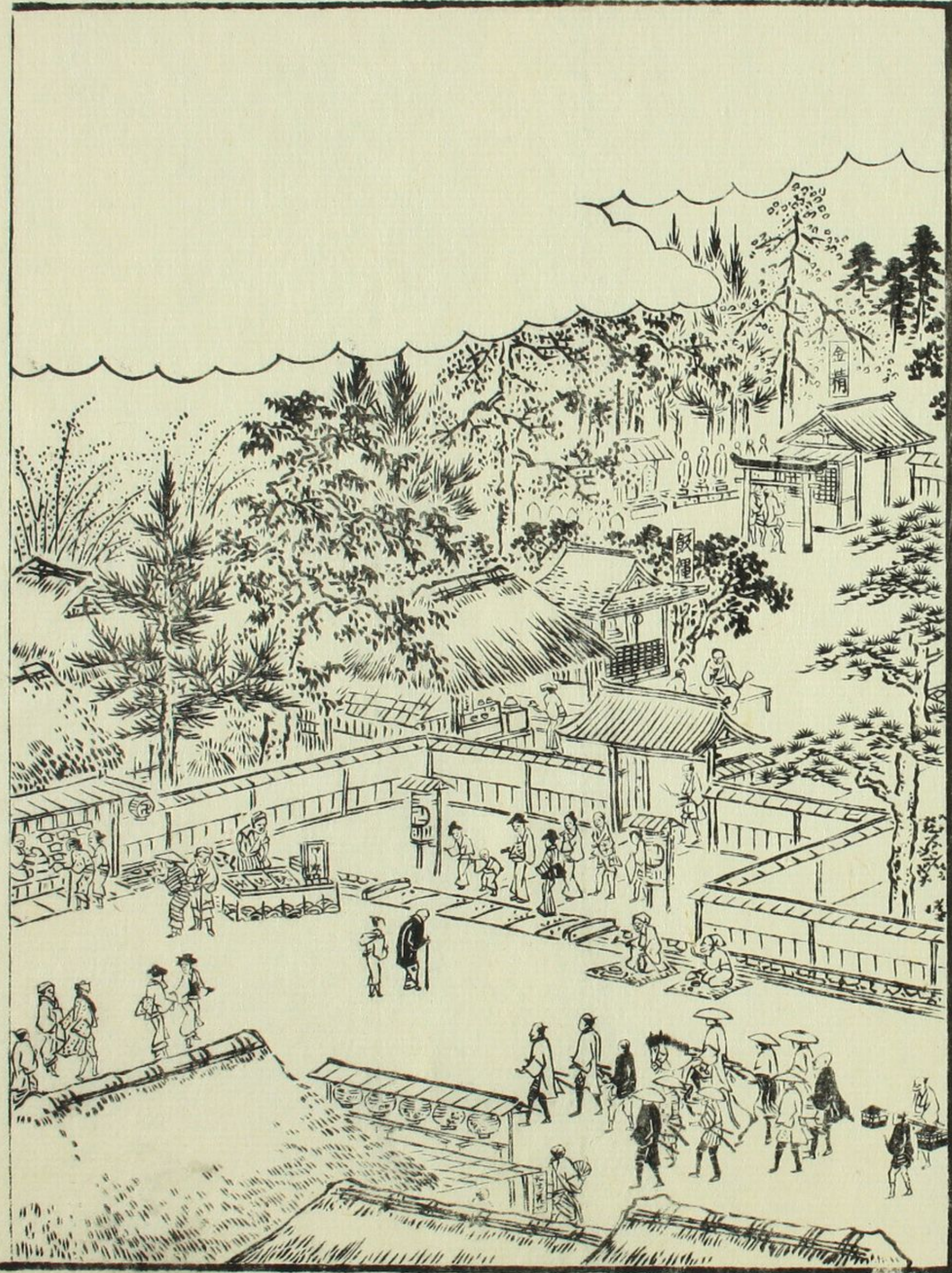
秋葉権現 六所明神 荒神宮 右の方あり 辨財天祠 江島弁天

地藏堂 堂内胎王脱衣婆 観音堂 中まハ 聖観音廻りハ 西國坂東秋父

勢至堂 稻荷祠 前不動 左右ハ 十二天の像を安置す 樓門 左右ハ

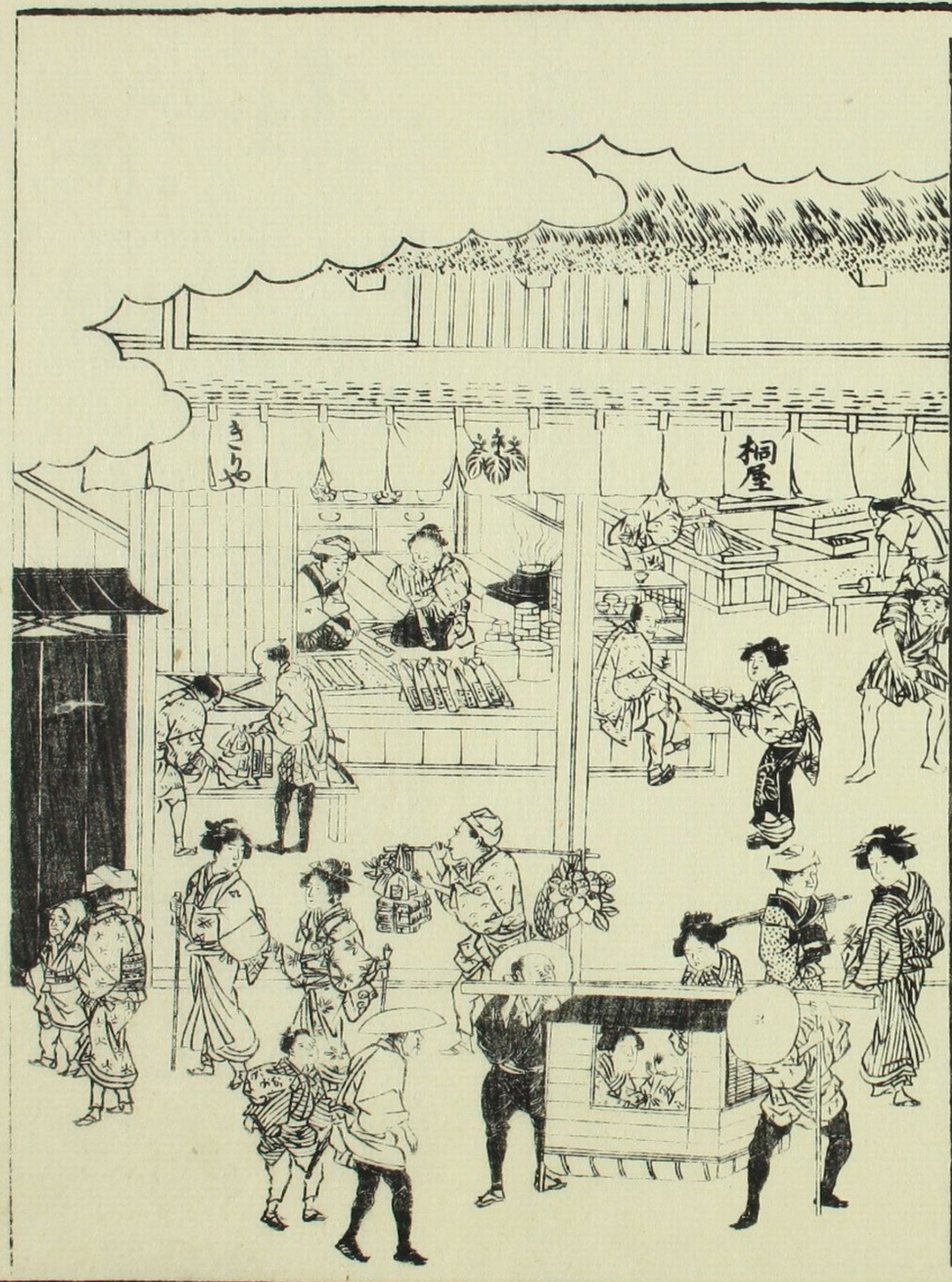
使者の像を置き 獨鈷の窟 當山の坊離場あり 往古和十四年 當寺

開山慈覺大師入唐帰朝の 淺野東下



銷藥師堂





同 黒 飴
 此 地 の 名 物
 と 是 を 商 賣
 する 者 多 数
 あり 土 産 と 也





浴の妙安寺は朗庵とつる異僧あり紫野の一体和尚より親しく常は風穴道人と稱し尺八を吹くたのしきなり風穴道人の作略を慕ひしなり始宇治の吸江庵に住す世に云々の虚無僧の本寺あり九東關西州風穴道人の門下に入りあり遊は普化和尚の流派とつるも風穴のより髪を取らざるとあり明惠上人の草履を以て兼好法師のつるも草履を以てせり

大鳥大明神社 同所不動尊より北の方二町をかりを隔つ別當八天台

宗廟より大聖院と号し祭神日本武尊一座なり相傳ふ大同

元年丙戌泉州大鳥の御神と勸請し奉るとも當社八目黒村の

鎮守あり祭礼八社月九日を例とし此日角力與終あり

附目黒不動尊より日本武尊の説を交へし此社を誤りて云ふらんを

不動尊の条下と合せしるべし

附北条家の所領代帳小太田源七郎島津孫四郎等此地を領せしり記せり

東鑑は建久元年十月七日の条下目黒弥五郎と云ふ名を載り此地より此

金毘羅大権現社 同所二町をかり西の方通を隔てあり祭る

所讃州象頭山金毘羅神と同一當社を以御城南鎮護神と

稱し奉り九条家深筆の額を蔵し別當八禪宗より高

幢寺といふ境内は難波の梅又曾根の松と稱せる樹あり

千代崎 渋谷宮益町より目黒長泉律院へ引道の傍芝生の

岡とのみ佳景の地中々永峯に属せり絶景觀とのみ松平

主殿炭の別荘の号中々閑寂無為自然に其地は應也

高峰山長泉律院 同所六町をかり西の方あり浄土宗より縁

山は属せ則縁山前大僧正成誉大玄和尚を閑創の主也

不能律師弟二世と弟三世と徳門和尚とす

本堂 山の鞍腹あり文室と云ふ數十間の回廊と本尊ハ上品上生也

阿彌陀如来なり 座敷四尺余慈覺大師の作泉州堺の心蓮寺より請得

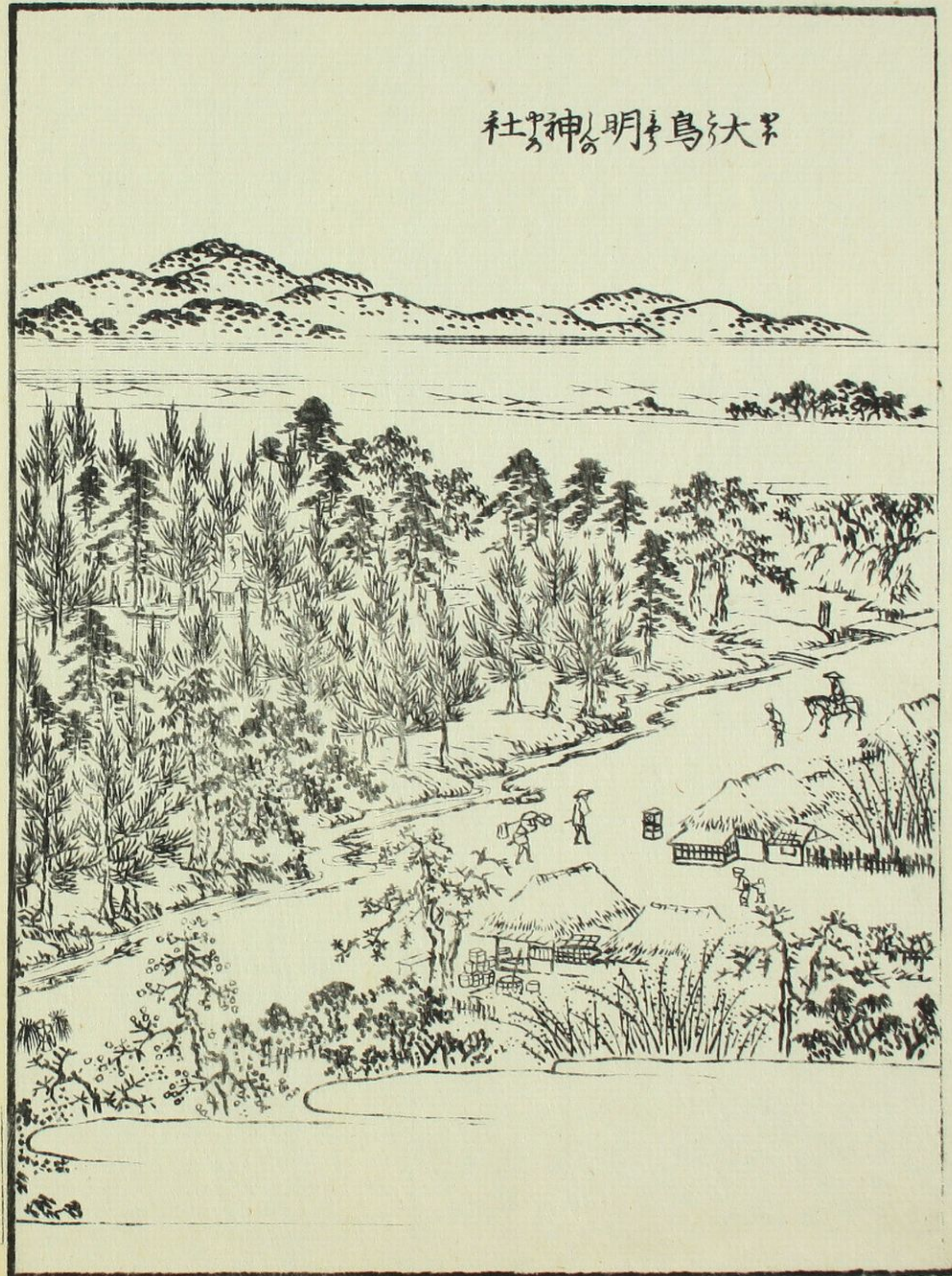
経蔵 論三蔵地より左あり安永七年戊戌落成を律鐘樓 安永元年徳門師建

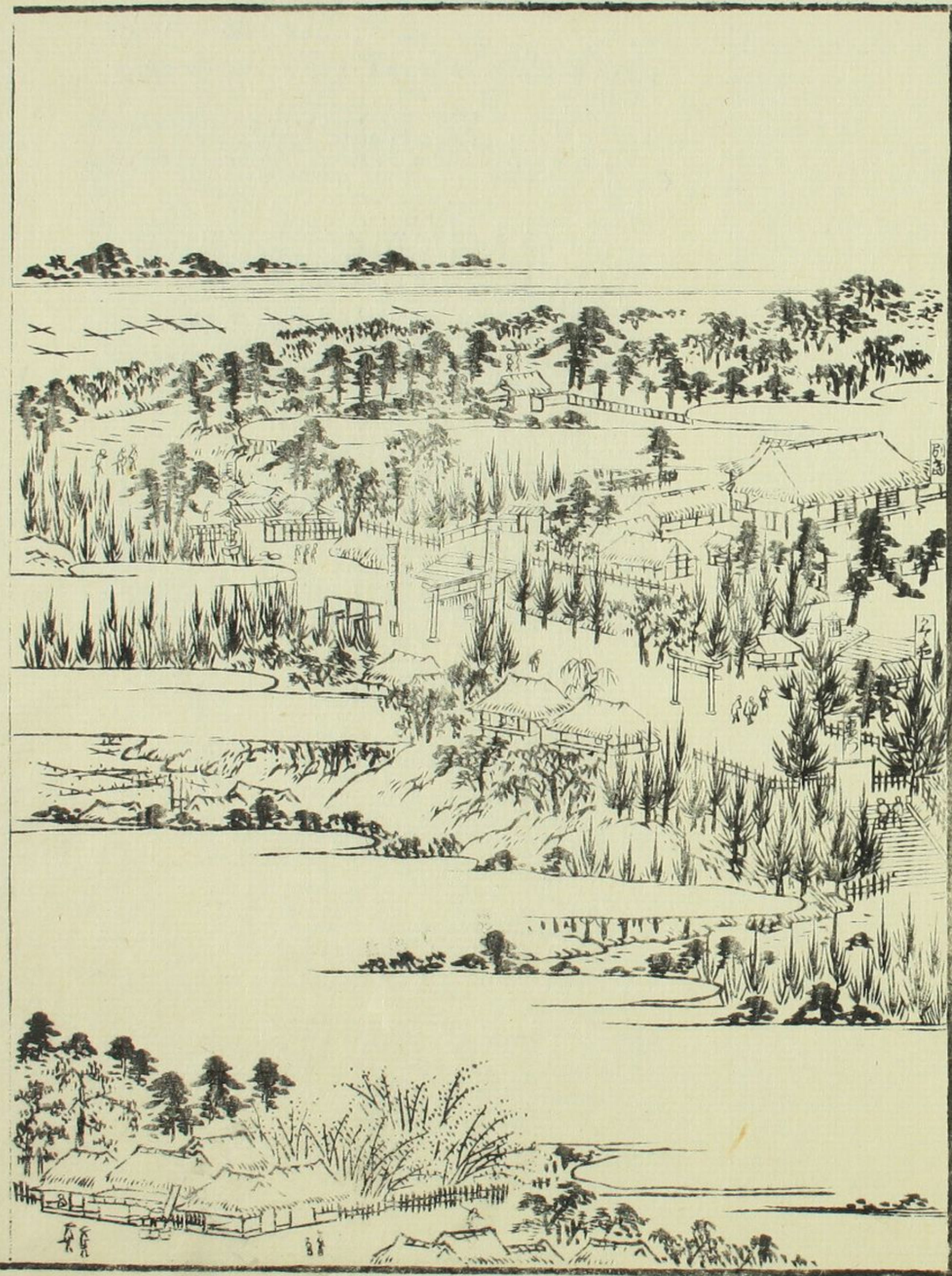
當寺ハ宝曆十一年辛巳縁山前大僧正成誉上人創起す久しく律院と

創起すの志ありといふ新小寺と閑創すよりハ官より祭

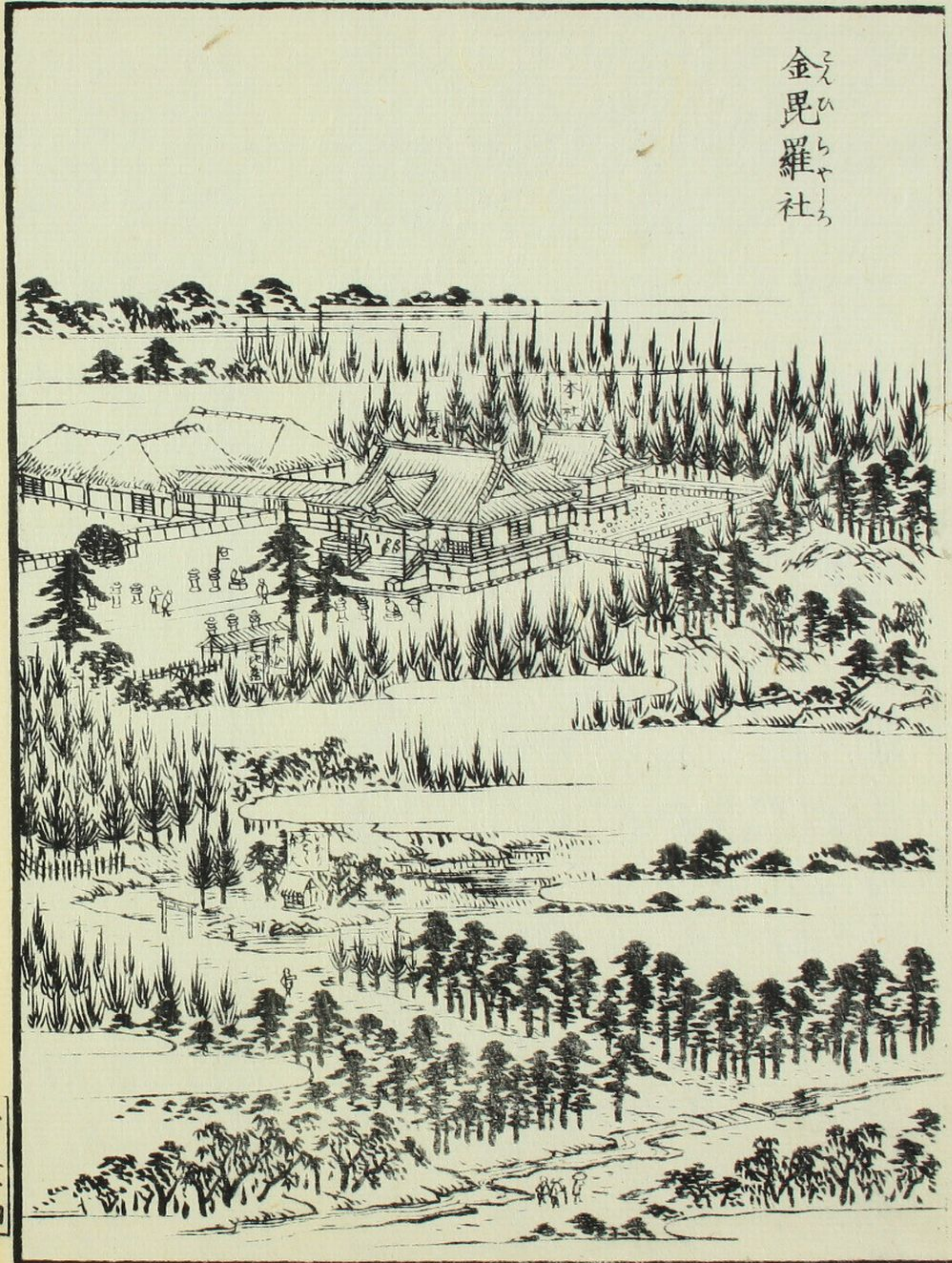


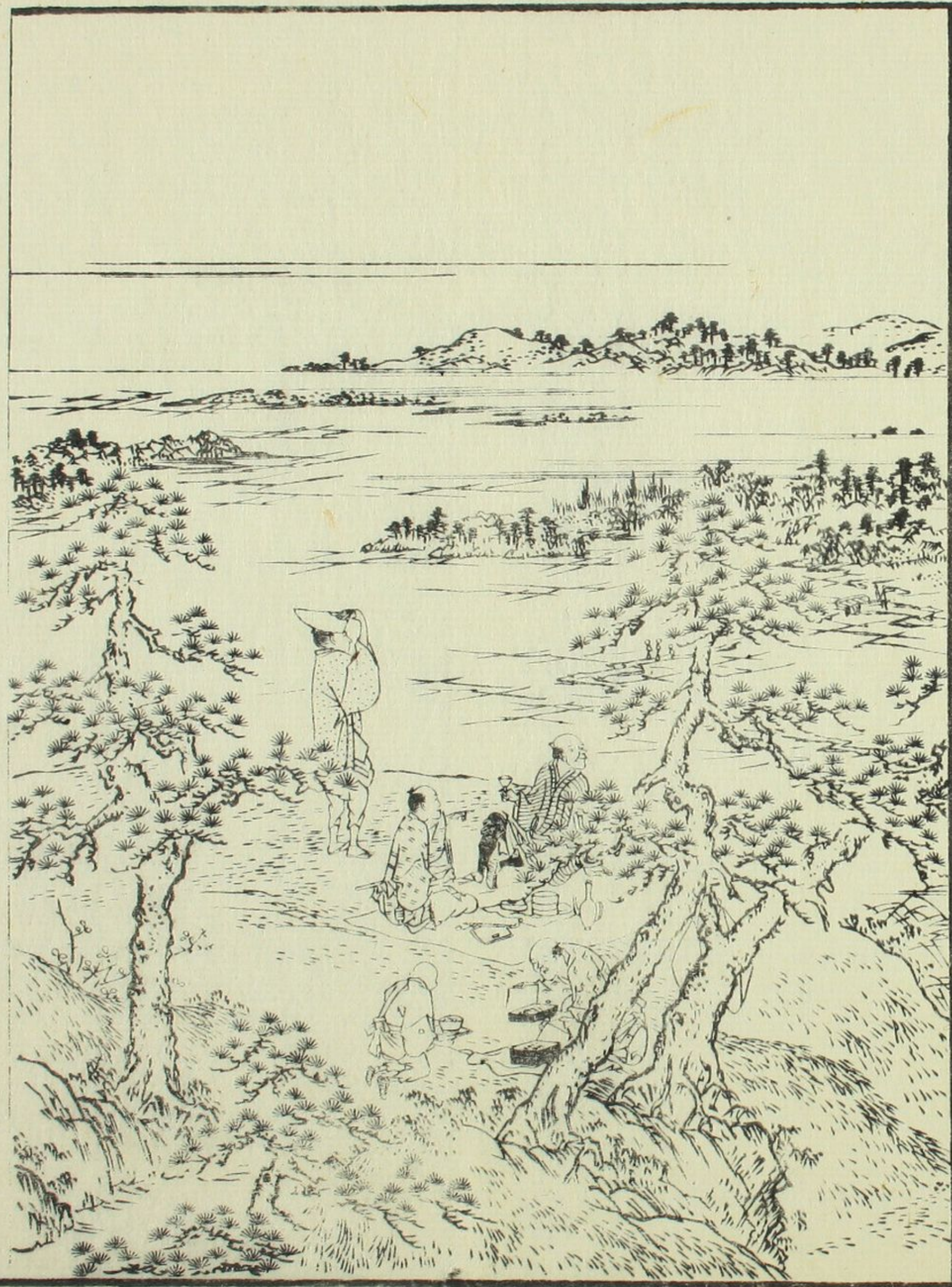
大鳥明神の社



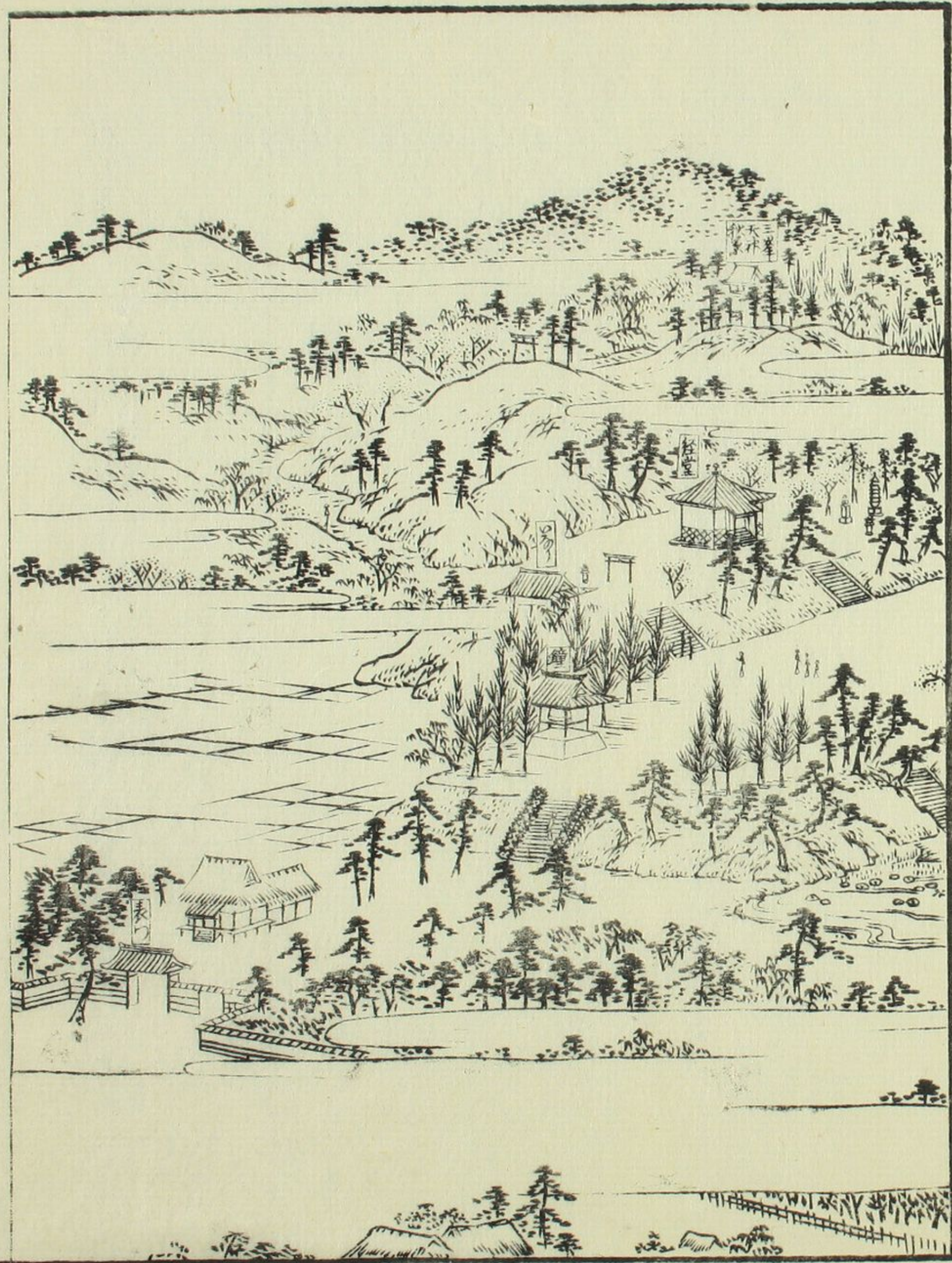


金毘羅社





千代々 傍
 行人の北永松原
 主殿代別荘の傍中
 目録の方へ下る所
 なり初鑑り傍とのひ
 しを後より千代々傍と
 改められたるふま後作
 梅の旧跡より此の
 傍に衣掛松といふ
 樹あり新田美濃の室
 美濃夫の傍にすく
 美濃ののりやむと
 傍に池あり
 投より傍に
 観といふ
 此の傍の影
 ありとす



ちきりつわん
長泉律院



故の事ならず 不能律師に至りて營建既す 大玄大僧
 正寂を依師の遺志を奉り 法弟千如等百計千慮して
 これを企つ川越蓮馨寺主教意上人力を裁せ扶成を再ひ官に
 告て所請を準まるとを得て創建落成を号け長泉院と云
 山間より清泉涌りて境内を 扶費の施主北川氏某に於て
 宝曆十三年の夏千如等徳門師を請して當寺に住持とす
 徳門律師行狀記云く師諱ハ普寂字ハ徳門自ら道光と号け勞州
 桑名縣增田邑に誕せ又ハ向派源流寺主秀寛女ハ中村氏あり師極福を
 受けてより好んで禮佛誦經の徳を作常見は異中々名繼の相あり三歳字を識り
 六歳書と讀ん投す所の経書一受轉り記を年とてそそく師の學徳既ハ世々のあはれ
 三衣一鉢をうふ維身を掩ふの 一錢一鉢を蓄ふをあはれ 竟ハ天明元年
 辛丑十月十四日寂を歴世七十五臘夏三十六其徳化ハあまのく世のあはれハ是を
 略す又師生平撰述の書甚多くす中判せるとのあはれとて判せるとのあはれハ總計
 四十部百四十有三卷あり云々
 當寺ハ常行念佛の道場なり松風をとりて梵唄の
 声を助け去此不遠の秋の月ハ長泉の流みゆる実ハ清浄無塵の
 淨刹なり常ニ寥寂なり

